

**坂本直行生誕110年記念企画展示
直行さんのスケッチブック展**

資料集

2017年1月10日

北大山岳館

この資料集は2016年11月4日～2017年1月9日、北海道大学総合博物館で開催された企画展示“坂本直行生誕110年記念「直行さんのスケッチブック展」”の資料ならびに記録を取りまとめたもので、北大山の会中村晴彦、矢野実が作成した。

作成にあたっては北海道大学総合博物館研究支援推進員西本結美氏、高橋一葉氏に協力を仰いだ。

企画展示にご協力いただいた方々（敬称略）

坂本ツル夫人並びに坂本家の皆さん

株式会社 秀岳荘

高知県立坂本龍馬記念館学芸課長 前田由紀枝

北海道立近代美術館主任学芸員 佐藤由美加

北大山の会 鮫島惇一郎

北海道大学総合博物館 館長中川光弘

教授大原昌宏

在田一則

西元結美

高橋一葉

スタッフの皆さん

北大山の会・北大山岳館

資料集目次

序	1 頁
1. 坂本直行生誕110年スケッチブック展企画書 （2016年8月北大山岳館⇒北大総合博物館宛）	4
2. 坂本直行生誕110年記念素描画展（仮称） 企画書 （2016年10月7日企画展実行委員会⇒関係機関宛）	8
3. 坂本直行展企画書最終案	9
4. ポスター・チラシ	12
5. オープニングセレモニー	14
式次第	
6. ごあいさつ 北大総合博物館館長 中川光弘 企画展実行委員会	15
7. 前期展示内容	16
(1) 展示場配置図	
(2) 展示品一覧	
(3) 版画・スケッチリスト	
(4) 展示スケッチ集	
(5) 場外展示	
8. 後期展示内容	52
(1) 展示場配置図	
(2) 展示品一覧	
(3) 展示版画・スケッチリスト	
(4) 展示パネル・資料・スケッチ画	
(5) 場外展示	
9. 対象山岳等位置図（直行さんに描かれた山々）	93
10. ビデオ映写	94
11. 謝辞	95
12. 記念講演会	96
(1) 第1回 坂本直行の山岳画 道近代美術館 佐藤由美加	
(2) 第2回 直行さんと歩々の会 北大山の会 鮫島惇一郎	
(3) 第3回 龍馬と直行 高知県立坂本龍馬記念館 前田由紀枝	
13. 展示解説ツアー	100
(1) ツアー内容	
(2) 配布資料	
(3) 情景写真	
14. 来場者感想ノートより	105

15.	マスコミ取材（新聞・雑誌、テレビ・ラジオ放送）	110
16.	図録発行	111
17.	実行関係者	113
	(1) 主催・後援・協力	
	(2) 企画展示実行委員会	
	(3) 北海道大学総合博物館	
	(4) 北大山岳館	
附	参考文献	114
	写真集 展示場風景	115
	(1) 前期	
	(2) 後期	

1. 坂本直行生誕110年スケッチブック展企画書

(2016年7月、北大山岳館より北大総合博物館宛提出)

北大出身の開拓農民で画家・坂本直行の生誕110年を記念して、北大山岳館が収蔵する十勝・下野塚開拓時代から晩年を迎えるまでのスケッチブック、学生時代の木版画の数々を紹介する。

期間 2016年11月〇日～2016年〇月〇日

場所 北大総合博物館

主催 北大総合博物館 北大山岳館

協賛：〇

後援：北海道新聞社 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 高知県立坂本龍馬記念館

内容

坂本直行は開拓者、登山家、農民運動家、画家とそれぞれがケタ外れのいくつもの顔を持ち、山の仲間に畏敬され、絵の愛好者に賛美され、農民に敬慕されて来た。

大学教育を受けてなお、一介の開拓者として原野に挑み、苛酷きわまりない労働、爪に火を点す貧困、理不尽な開拓行政の中にありながら、原野の草花をいつくしみ、はるかな日高連峰に憧憬の視線を送り、すべてをスケッチせずにはおられなかった。

開拓をついにあきらめ、画かきとなってからは長年の原野の生活で培われた、自然を友として暮らす心が、きわめて素直な形で画の中に生かされて広く深く人々に愛されている。彼の描く北海道の山のほとんどは、親しい友との楽しかった過ぎし日の山行の場であり、その尾根、その沢にひそむ限りない愛着が、生き生きとした山々の姿を再現させてくれている。山岳部員たちと訪れたネパールでは、山の民との交流を旅日記に記し、スケールの大きなヒマラヤを迫力ある筆でとらえている。

北大山岳館が収蔵する十勝に入植してから晩年までのスケッチブック136冊には2534点の山と花が描かれている。展示会ではその中から山40点、草花10点のスケッチをご覧いただく。これらスケッチは外からの目を意識しないで自然を楽しみながら奔放に描かれていて、生の坂本直行に会うことができる。同時に中学～大学時代に制作した木版画10点、折にふれ撮影された数々の写真、著作なども展示する。(数字は暫定)

展示品内容

2-1 スケッチブック

山：北海道、本州、ヒマラヤ

旅日記：ヒマラヤ、アラスカ

草花：北海道、ヒマラヤ

中学～大学時代、十勝開拓時代、豊似アトリエ時代、宮の沢アトリエ時代の各時代を代表するスケッチブック（スケッチ総数50点程度）

スケッチブックは会期を前期・後期の2回に分けて展示

2-2 木版画

風景、静物、札幌二中旅行部部報、北大山岳部部報の表紙・カット、雑誌「さとぼろ」掲載の木版画を 10点程度

2-3 写真

主に北大山岳部時代の登山の写真を中心に 10点程度

2-4 著作初版本

著作 9冊の初版本

2-5 山道具

ピッケル1点 (門田1932年製)

2-6 胸像

峰孝作レプリカ1点

2-7 お宿帳

2-8 手紙

知人宛書簡 5点

3. 展示品説明

3-1 坂本直行紹介パネル

全体プロフィール、各時代の生活・画家活動の説明

3-2 展示品説明

各スケッチブックおよびスケッチの時期・場所の説明

4. 展示方法

陳列ケース、壁掛け

(数字は暫定)

その他展示

1. お宿帳

2. 雑誌「さとぼろ」

3. 油絵1点

セミナーの開催

鮫島惇一郎ら坂本直行と生前の付き合い深い人々による直行伝、美術評論家による直行の絵画論など

パンフレット、ポスター、図録の作成

添付資料

1. 坂本直行経歴

2. スケッチブック目録

3. 木版画目録

4. 写真目録

5. その他目録

スケッチブックから



(1-2-20) 1940年、開拓小屋



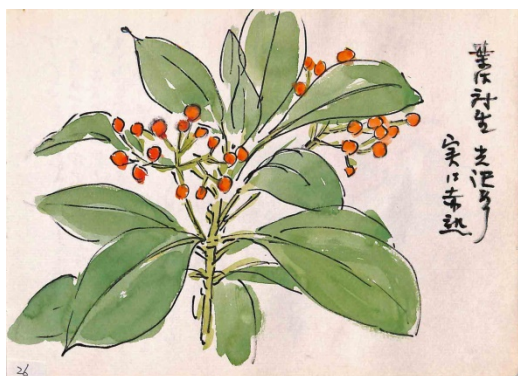
(1-4-06) 1957年、西クマネシリ



(2-6-09) 1960年、劔岳・長次郎谷



(3-29-01) 1967年、ナムチェ・バザール



(3-22-26) 1967年、ヒマラヤの花



(3-15-27) 1966年、しなの実

木版画から



(05) 石狩の風景
雑誌「さとぼろ」に掲載



(16) 山



(11) 雑誌表紙



(09) 部報表紙

写真から



1934年1月 コイカクシユ札内岳 — ヤオロマップ岳 — 八の沢 —
カムイエクウチカウシ 坂本直行、相川修、黒井幸太郎



開拓地にて、長男と

2. 坂本直行生誕110年記念素描画展（仮称） 企画書

（2016年10月 北大総合博物館⇒関係機関宛）

1. 展示名：坂本直行生誕110年記念素描画展（仮称）
2. 開催趣旨：本年（2016年）は、日高山脈の登山パイオニアとして活躍し、十勝で農業開拓に苦闘した、山岳画家としても著名な坂本直行画伯の生誕110年にあたる。ご遺族から北大山岳館に寄贈された画伯の膨大なスケッチブック（スケッチ画2,500点）から国内の山、ヒマラヤ、草花の数々、若い時代の木版画などを展示する。対象と一体となって奔放に自然に描かれている坂本直行の生身ともいえるスケッチを広く道民・市民に鑑賞していただく。
3. 開催期間：2016年11月4日（金）～2017年1月9日（月・祝日）
4. 開催場所：北海道大学総合博物館 1階企画展示室・1階知の交差点
（札幌市北区北10条西8丁目）
5. 主催：北海道大学総合博物館・北海道大学山岳館
6. 後援（予定）：北海道新聞社、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、
高知県立坂本龍馬記念館
7. 展示内容：
 - (1) 山岳館が所蔵するスケッチブック136冊（2,534点）及び木版画56点から、時代毎に描画年、対象、色彩有無、出来栄えを考慮して、113点を厳選し、坂本直行の歴史を4つの時代に分けて展示する。
 - (2) 各時代の特筆すべき事柄にはトピックスペースを設けて紹介する。
 - (3) 初版本7冊を展示する。
 - (4) 写真、スケッチ、版画などをビデオに編集し、会場で流す。
 - (5) 画集2冊を自由閲覧する。
 - (6) スケッチ画をプリントし、額装展示する。
 - (7) 坂本直行縁の山道具を展示する。
8. 関連行事（3回の講演会を行う）
 - (1) 鮫島惇一郎（北大山岳部OB、元ぼっぼの会幹事長）：直行さんとぼっぼの会
 - (2) 佐藤由美加（北海道立近代美術館主任学芸員）：坂本直行の山岳画
 - (3) 前田由紀枝（高知県立坂本龍馬記念館学芸課長）：坂本龍馬と坂本直行
9. 事務局
大原昌宏（北海道大学総合博物館 教授）
在田一則（北海道大学総合博物館 ボランティア）
中村晴彦（北海道大学山岳館 代表）
10. 連絡先
在田一則 北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 電話：011-706-2414

3. 坂本直行展企画書最終案（9月14日博物館教員会議にて正式決定）

展示名：坂本直行生誕110周年記念 “直行さんのスケッチブック展”

主催：北海道大学総合博物館

北海道大学山岳館

協力：(株) 秀岳荘

後援：北海道新聞社 北海道教育委員会 札幌市・札幌市教育委員会 高知県立坂本龍馬記念館

展示期間：2016年11月3日（木、祭日）～2017年1月9日（月、祭日）

展示場所：北海道大学総合博物館

趣旨：坂本直行が秘蔵したスケッチ画 2500点から国内の山、ヒマラヤ、草花の数々、若い時代の木版画などを展示する。

対象と一体となって奔放に自然に描かれている坂本直行の生身ともいえるスケッチが鑑賞できる。

公開講座：

「直行さんと歩々の会」 鮫島惇一郎 北大山の会会員 元歩々の会幹事

「坂本直行の山岳画」 佐藤由美加 北海道立近代美術館主任学芸員

「龍馬と直行」 前田由紀枝 高知県坂本龍馬記念館学芸課長

オープニング：2016年11月4日（木、祭日）

内容：

1. 山岳館が所蔵するスケッチブックは136冊、点数にして2534点、木版画は56点
2. 坂本直行の経歴を4つの時代に区分
 - (1) 札幌二中～北大農学実科時代（13歳～22歳）
 - (2) 十勝原野開拓時代（23歳～53歳）
 - (3) 豊似アトリエ時代（54歳～59歳）
 - (4) 手稲アトリエ時代（60歳～75歳）
3. スケッチは時代毎に描写年、対象、彩色有無、出来栄えを考慮して、113点の展示候補を選定、この内から50点を時代に従って展示、直行の一生を俯瞰できるようにする。
4. 各時代の特筆すべき事柄にはトピックスペースを設けて紹介する。
 - (1) 札幌詩学協会への参加と同人誌「さとぼろ」へ木版画の投稿
 - (2) 歴史的価値のある原野生活を描写したスケッチブック
 - (3) 代表作「原野から見た日高山脈」とスケッチの関係
画会「歩々の会」誕生と活動
 - (4) ヒマラヤスケッチ紀行
5. 初版本7冊を展示する。
6. 会期を前期、後期に分け、選定したスケッチ113点の中で入れ替えを行う。
7. 写真、スケッチ、版画などをビデオに編集し（10～15分程度）会場で上映
8. 画集（2冊）を自由閲覧にする。
9. 公開セミナーを開催する。

10.図録を作成し、販売する。「坂本直行ペン画集」を販売する。

<附>坂本直行経歴時代区分

坂本直行の経歴を4時代に区分し、彼の秘蔵したスケッチブックと関連する資料を時代毎に展示し、坂本直行の全体像が俯瞰できるようにする。展示品は北大山岳館が所有するスケッチブック、木版画、写真、資料類から選択する。

スケッチの量は2500点超と膨大であるが、1回に展示できるのは50点程度である。そのため、少しでも多くの作品に接していただくために会期を前期、後期に分けてスケッチブックの入れ替えを行う。

(1)札幌二中~北大農学実科の時代(13歳~22歳)

札幌二中の山岳旅行部で活躍、山・草花のスケッチ、木版画を始める。本人の証言によれば、ある山行では50枚のスケッチをしたという。

1924年(18歳)、北大農学実科に入学、北大スキー部に入り、スキー登山を盛んに行う。北大山岳部創立(1926年)と同時に入部、道内の山を歩き回る。

1925年に北大の学生が中心になって創刊した詩誌「さとぼろ」に参加、木版画を出品するなど、多くの木版画を制作している。この時代のスケッチブックは残っていない。

(2)十勝原野開拓時代(23歳~53歳)

北大卒業後2年間、温室経営を志して東京で花卉栽培の修行をするも、予定していた父からの出資が得られず計画は挫折。1930年、牧場を経営する岳友・野崎健之助の招きで、十勝・広尾に生活の基盤を移し5年間働く。この時期に冬の楽古岳、北日高、ペテガリ岳など意欲的な山行を行っている。

1936年(30歳)、下野塚に25ヘクタールの未墾地を購入、開拓生活に入る。悪戦苦闘の25年間は、借金が膨らむばかりの生活であった。そのような環境の中でも登山、草花・風景をスケッチした。しかし、1946年からの10年間は矛盾する農政との戦いで登山は皆無で、スケッチも少ない。

開拓生活を書いた「開墾の記」は文部省推薦図書となり、何回も再販された。その他、「山・原野・牧場」「原野から見た山」はこの時代の作である。

1957年(51歳)、彫刻家・峯孝の勧めで札幌で個展を開催、大成功を収めたことから、開拓生活に見切りをつけ画家への転身を決意する。

この時代のスケッチブックは1939年を最初の1冊としてわずか10冊を残す。

(3)豊似アトリエ時代(54歳~58歳)

1960年(54歳)、豊似市街に借りた住宅へ移り、アトリエを開く。この時代は5年間と短い、本州の山を含めて各地に精力的なスケッチ旅行を行って、46冊のスケッチブックを残した。帯広千秋庵(のちの六花亭)の小田豊四郎氏の依頼で児童詩誌「サイロ」に表紙・カットを無償で描き始め、また、有名な花柄模様の包装紙もこの時代の作である。「サイロ」のボランティアは没後ま

で続いた。

代表作「原野から見た日高山脈」が、豊似を離れる前年の1964年から1965年にかけて、写生位置を変えながら数多くスケッチされている。

その人柄を慕って開拓生活時代の30年間に直行宅へ685名が訪れ、589名が宿泊していった。直行はじめ家族の貧しい中での心のこもったおもてなしに対する感謝、原野・山へのあこがれ、新たな人生への思いなどが「お宿帳」4冊に残されている。

(4) 手稲アトリエ時代 (59歳～75歳)

1965年(59歳)、「さとぼろ」時代の友人で著名な建築家・田上義也氏の設計になる手稲宮の沢の新居に移住した。この時代の特筆すべきスケッチは、1967年(61歳)9月から1968年2月にかけての北大山岳部員らとのヒマラヤ旅行である。念願であったヒマラヤをスケッチブック12冊に叩き込むように描写している。ヒマラヤは1972年、73年にも短期の旅行を行い、10冊のスケッチブックを残した。

下野塚原野を去る前の晩、訪れていた後輩の鮫島惇一郎に語った「自然の美しさを絵筆に託して多くの人々と分かち合い、楽しみたい」との想いは、1962年(56歳)「ぽっぽ(歩々)の会」として実現した。多くの会員を集めた心温まるこの会の、スケッチハイクで描かれたスケッチが多く残されている。

画家として成功し、多くの人々に愛されながら多くの山と草花を描き、社会的にも認められて1974年には北海道文化賞を受賞した。手稲へ移住してからの15年間に描きためたスケッチブックは73冊に上る。

最後のスケッチブックは1980年7月から1981年1月にかけて使われたものである。線に衰えを感じさせるが、代わって一筆一筆に優しさ、暖かさをより強く感じる。1980年1月6日に描かれた鉛筆による素描“きたこぶし”が最後の1枚である。

そして1982年5月2日、たくさんの山仲間はじめ友人が待つ世界へと旅立った。75歳だった。

4. ポスター・チラシ

デザイン・制作：総合博物館研究支援推進員 西本結美

主催：北海道大学総合博物館・北大山岳館

SKETCH BOOK
1940
N. Sakamoto

坂本直行生誕110年記念企画展示

直行さんの
スケッチブック展

前期：2016年11月4日(金) ▶ 12月4日(日)
後期：2016年12月6日(火) ▶ 2017年1月9日(月・祝)

会場：北海道大学総合博物館1階 企画展示室

開館時間 | 10:00 - 17:00

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日休館)
年末年始 (12月28日~1月4日)

協力 | 株式会社秀岳荘
後援 | 北海道新聞社 北海道教育委員会 札幌市・札幌市教育委員会
高知県立坂本龍馬記念館

〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目(北海道大学キャンパス内)
TEL 011-706-2658
<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

〒060-0818
札幌市北区北18条西13丁目 北大サークル会館内
TEL 090-6870-5120
<http://aach.ees.hokudai.ac.jp/xc/modules/Center/index.htm>

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

Hokkaido University Alpine Archives
北大山岳館

坂本直行生誕110年記念企画展示

直行さんのスケッチブック展 Chokko's Sketch Books

前期：2016年11月4日(金) ▶ 12月4日(日)

後期：2016年12月6日(火) ▶ 2017年1月9日(月・祝)



1960年6月8日 開拓地を去る前日の直行夫妻

北大山岳館は画家・坂本直行のスケッチブック136冊、木版画56点、登山道具を収蔵していますが、本年が坂本直行生誕110年にあたるのを機に、北海道大学総合博物館と共同で“直行さんのスケッチブック展”を開催し、これら遺品を公開します。

直行さんは登山家、開拓者、農民運動家、画家とそれぞれがケタ外れの顔を持ち、山の仲間にも畏敬され、絵の愛好者に敬愛され、農民に敬慕されて来ました。北大卒業後、一介の開拓者として原野に挑み、苗酷きわまりない労働、爪に火を点す生活、理不尽な開拓行政との闘いの中にありながら、原野の草花をいつくしみ、はるかな日高連峰に憧憬の視線を送り、すべてをスケッチせずにはいらませんでした。

開拓をついにあきらめて絵かきとなってからも、長年の原野の生活で培われた、自然を友として暮らす心が、きわめて素直な形でスケッチブックの中に生かされています。直行さんのスケッチした北海道の山のほとんどは、親しい友との楽しかった過ぎし日の山行の場であり、その尾根、その沢にひそむ限りない愛着が、生き生きと再現されています。北大山岳部員たちと訪れたネパール・ヒマラヤでは、山の民との交流を絵日記に記し、スケッチブックにはスケールの大きな山々の迫力ある姿を見事にとらえています。

136冊のスケッチブックに描かれているスケッチ数は2,500点超と膨大なため、直行さんの生涯を生活の基盤を置いた地域により4つの時期に区分し、それぞれの時代を代表するスケッチを選定して展示しています。それに関連する資料を加えて、直行さんの一生を俯瞰できるようにしました。また、少しでも多くのスケッチに接していただけるように、会期を前期と後期に分けて展示品の入れ替えを行います。

自然に溶け込んで一体となった直行さんのスケッチをお楽しみください。

オープニング セレモニー

日時：11月4日(金) 10:30～

会場：北海道大学総合博物館

1階 知の交差点

式典後、内覧会

記念講演会

参加費無料・申込不要

会場：北海道大学総合博物館 3階 N308 講義室

時間：13:30～15:00

第1回：11月19日(土)「山岳画家としての坂本直行」 佐藤由美加(北海道立近代美術館)

第2回：11月20日(日)「直行さんと歩々の会」 鮫島惇一郎(北大山の会)

第3回：11月27日(日)「龍馬と直行」 前田由紀枝(高知県立坂本龍馬記念館)

アクセス



札幌駅北口から徒歩約15分

北12条駅から徒歩約10分

お車でのご来館はできません

北大山岳館について

北大山岳館は、北大山岳部が創立70周年を迎えるに当たり、山岳部出身者の会である北大山の会が、その記念事業の一環として建設し、北海道大学に寄贈したものであります。

山岳館建設の目的は、登山・探検・地球環境保全・途上国援助などに関心の深い学生諸君に会合の場を提供し、また大学内外の先達、先輩達との交流の場としても役立てることにあります。さらに、北大山岳部が創立以来収集・保有してきた貴重な内外の山岳・探検に関する図書・地図等を整理・保管し、新たな資料も加えて有効な活用を図ることも目指しています。

開館日時：水・土 10:00～16:00 (年末年始、GW、盆を除く)



北海道大学総合博物館

5. オープニングセレモニー

式次第

日時: 2016年11月4日(金)10時30分から

場所: 総合博物館1階 知の交流ホール

開幕

1. あいさつ 総合博物館館長 中川光弘
2. あいさつ 北大山の会 会長 小泉章夫
3. あいさつ (株)秀岳荘 会長 金井哲夫
4. 展示概要説明 北大山岳館 中村晴彦

1階企画展示室前受付周辺へ移動

5. テープカット

1階企画展示室へ移動

～内覧会



オープニングセレモニー開会



司会 大原昌弘副館長



挨拶 中川光弘館長



北大山の会小泉会長



秀岳荘 金井哲夫会長



展示概要説明 中村晴彦



テープカット 左より
金井会長、小泉会長、中川館長



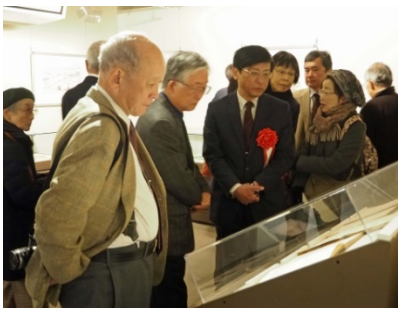
テープカット 左より
金井会長、小泉会長、中川館長



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会



内覧会

6. あいさつ文（会場に掲示）

ご挨拶：“直行さんのスケッチブック展”

本年は、登山家、開拓農家、農民運動家、そして山岳画家としての様々な顔を持ち、それぞれの分野で活躍された、北大 OB である坂本直行さんの生誕 110 年にあたります。それを記念して、総合博物館と北大山岳館では、ご遺族から寄贈された直行さんのスケッチブックに描かれた膨大な作品から、道内外やヒマラヤの山々、草花の数々、および木版画などを選び、ほとんどが未公開の作品を展示することになりました。これらのスケッチブックは直行さんが十勝に入植してから亡くなる前年までの 46 年間に描かれたもので、それらの中から氏の生活の基盤を置いた地域・時期により、作品を 4 つに区分して展示しています。このことにより、北大卒業後に開拓農家として入植して悪戦苦闘した時代、そして離農し創作活動に打ち込んだ晩年と、直行さんの波乱万丈の生涯の折々に描かれた作品をたどることができます。これらの作品からは、例えば生活や環境が変わっても、対象と一体となって描かれた自由奔放で力強い、直行さんの画風を感じることができるのではないのでしょうか。皆さんには、今回の展示を通じて、山と人を愛し自然と一体になって生きた、直行さんの生涯に思いを馳せていただければと思います。

最後に今回の展示や記念講演会の開催にあたってご協力いただいた、機関・団体・企業・個人の皆様に感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

北海道大学総合博物館館長 中川 光弘

坂本直行生誕 110 年記念 “直行さんのスケッチブック展” ごあいさつ

北大山岳館が収蔵する画家・坂本直行のスケッチブックは、十勝へ入植した 1936 年から亡くなる前年の 1981 年までの 136 冊で、描かれているスケッチは 2500 点を超えます。画材はエンピツ、コンテ、サインペン、クレヨン、絵の具など、また、描かれているのは稜線のみを描きかけのものから、ていねいに彩色したものなど実に多彩です。しかし、その 1 点 1 点のどれからも、自然と一体となった直行さんを感じることができます。

本年が直行生誕 110 年にあたるのを記念して、北海道大学総合博物館と北大山岳館は共同で“直行さんのスケッチブック展”を開催しました。直行さんの足跡に沿って、学生時代、十勝開拓時代、豊似時代、手稲アトリエ時代に区分し、それぞれの時代を代表するスケッチを選定し、合わせて関連資料も展示しました。

展示数が限られることから、少しでも多くのスケッチを見ていただこうと、会期を前期と後期に分けてスケッチブックの入れ替えを行います。どうぞ、画家・坂本直行の世界をお楽しみください。

企画展実行委員会

7. 前期展示内容

- (1) 展示場配置図
- (2) 展示品一覧
- (3) 展示版画・スケッチリスト
- (4) 展示パネル・資料・スケッチ画
- (5) 場外（カフェ）展示

(1) 展示場配置図



(2) 展示品一覧

区画	記号	種別	ケース No.	内容
	P 1	パネル		館長挨拶
イントロダクション	P 2	パネル		山岳館ご挨拶
	P 3	パネル		直行さん経歴
	B 1	資料(書籍)		著作初版本6冊 「山・原野・牧場」1937年 「原野から見た山」1957年 「蝦夷糞尿譚」1962年 「私の草木漫筆」1964年 「雪原の足あと」1965年 「わたしの草と木の絵本」1976年
	P 4	パネル		直行の人柄・絵描きになった直行さん
	B 2	資料		画材クレパス・絵の具
第1章	P 5	パネル		コーナー(第1章) パネル
札幌二中～北大農 学実科時代(13～ 22歳)	C 1	キャプション	①	トピックス「さとぼろ」
	B 3	資料(書籍)	①	「さとぼろ」1～6号、二中旅行部部報「ヌタック」1号、2号
	A 1	作品	①	木版画「書籍を飾った版画」3点
	A 2	作品	②	木版画7点
第2章	P 6	パネル		コーナー(第2章) パネル-1
十勝原野開拓時代 (23歳～53歳)	P 7	パネル		コーナー(第2章) パネル-2
	C 2	キャプション		トピックス「ピッケル」「胸像」
	B 4	資料		ピッケル
	B 5	資料		直行胸像(レプリカ)、
	C 3	キャプション	③	トピックス「開拓時代初期のスケッチブック」
	A 3	作品	③	スケッチブック表紙
	A 4	作品	③	スケッチ6点(内2点複写)
	A 5	作品	④	スケッチ4点(内1点複写) :
	C 4	キャプション	⑤	トピックス「誓いの丘」
	A 6	作品	⑤	スケッチ「誓いの丘より日高山脈」
B 6	資料(書籍)	⑤	「開墾の記」1942年	
第3章	P 8	パネル		コーナー(第3章) パネル
豊似アトリエ時代 (54歳～59歳)	C 5	キャプション		トピックス「お宿帳」
	B 7	資料		お宿帳4冊(実物)
	A 7	作品	⑥	スケッチ4点(内1点複写) :
	A 8	作品	⑦	スケッチ4点(内2点複写) :
	A 9	作品	⑧	スケッチ4点(内2点複写) :
	C 6	キャプション	⑨	トピックス「歩々の会」と「札幌から見える山」
	B 8	資料(書籍)	⑨	「札幌から見える山」1981年、「歩々画展目録第1回 - 30回」1993年、「歩々画展目録第31回 - 50回」2012年
	A 10	作品	⑨	スケッチ「歩々の会」4点(内1点複写)
第4章	P 9	パネル		コーナー(第4章) パネル
手稲アトリエ時代 (60歳～75歳)	A 11	作品	⑩	スケッチ2点
	C 7	キャプション	⑪	トピックス「ヒマラヤ・スケッチ旅行」
	M 1	地図	⑪	ヒマラヤ旅行行程図
	D 1	写真	⑪	「4400mの散歩」「4000mのキャンプにて」「Modi Kholaの吊り橋」 松村雄撮影
	A 12	作品	⑪	スケッチ3点
	A 13	作品	⑫	スケッチ2点
	A 14	作品	⑬	スケッチ3点
	A 15	作品	⑭	スケッチ5点(内2点複写)
	A 16	作品	⑮	スケッチ3点(内1点複写)
	A 17	作品	⑯	スケッチ4点(内2点複写)
	A 18	作品	⑰	スケッチ4点
	A 19	作品	⑱	スケッチ4点(内2点複写)
	A 20	作品	⑱	スケッチ3点(内1点複写)
C 8	キャプション	⑳	トピックス「最後のスケッチブック」	
A 21	作品	⑳	スケッチ3点	
カシミールコーナー	C 9	キャプション		トピックス「原野から見た日高山脈」のスケッチ
原野から見た日高 山脈	M 2	地図		パノラマの視界
	A 22	作品		豊似時代のスケッチ「原野から見た日高山脈」5点(すべて複写)
	M 3	地図		カシミール画像「十勝川河口から見た日高山脈」
	A 23	作品		油彩小品「原野から見た冬の日高山脈」
B 9	資料		手紙「直行さんの絵について」	
場外	A 24	作品		スケッチ「道外の山・劔岳」5点(いずれも複写)
カフェブロック	A 25	作品		スケッチ「道外の山・飯豊山」5点(いずれも複写)

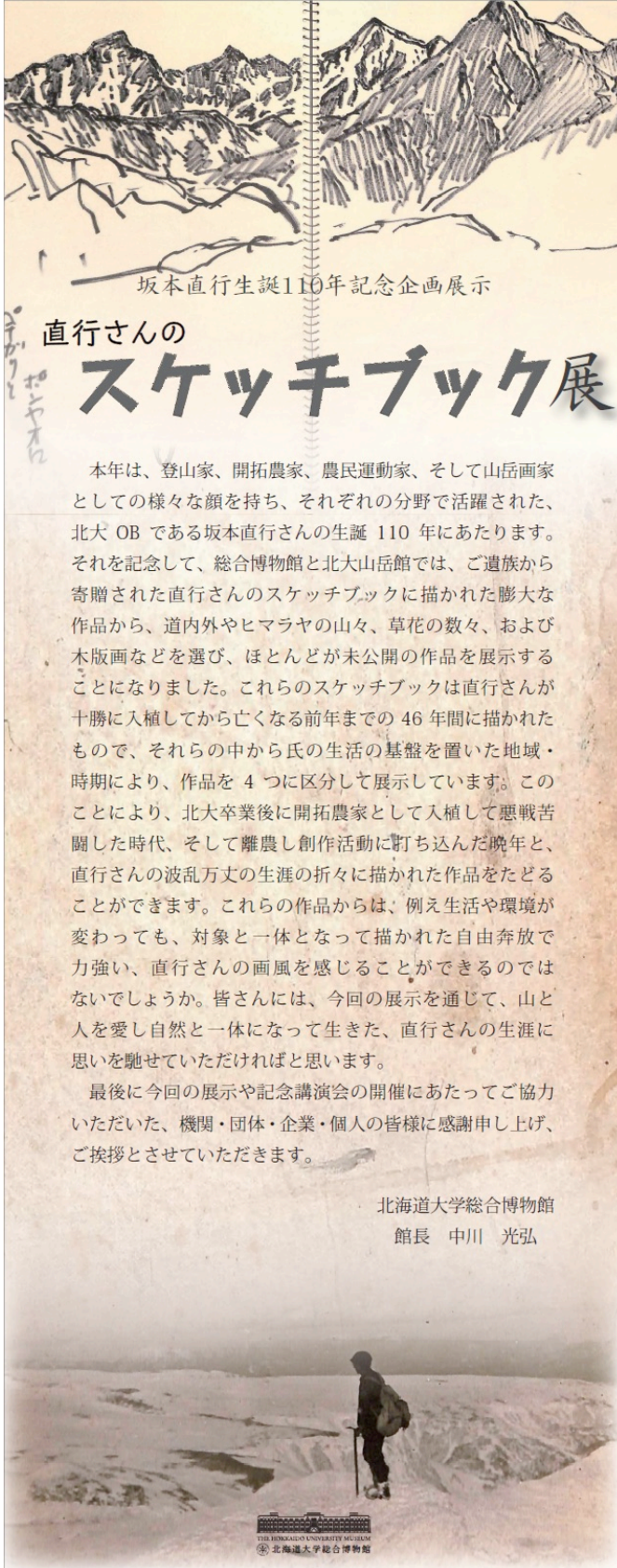
(3) 展示版画・スケッチリスト

				複写画は種別欄にPを記入
ケース	作品No.	種別	画像No.	キャプション
①	A1	1	木版画 NO.2	静物 札幌詩学協会 ぽとぼろ16号 (1925年11月発行)に掲載
		2	木版画 NO.4	石狩風景 ぽとぼろ16号 (1925年11月発行)に掲載
		3	木版画 NO.9	札幌二中旅行部部報 ぽとぼろ12号表紙 1928年発行
②	A2	1	木版画 NO.8	札幌近郊風景
		2	木版画 NO.16	風景
		3	木版画 NO.44	母校 北大林学?農学?教室)
		4	木版画 NO.10	恵庭岳とオコタンベ湖
		5	木版画 NO.26	エサオマントツタベツ岳北東カール
		6	木版画 NO.42	富良野岳
		7	木版画 NO.33	十勝連峰
③	A3	1	1-2-00	スケッチブック表紙
		1	1-2-03	1940年 上 :ソエマツ岳 下 :芦別岳本峰と夫婦岩
	A4	2	1-2-02	1940年 牧場と南日高
		3	1-2-11	1940年4月1日 早春の放牧
		4	1-2-20	1940年4月17日 住宅風景 馬は四五六号
		5	P 1-2-42	1940年頃 登山風景 上 :上ホロカメツク 下 :十勝連峰
6	P 1-2-85	1952年6月23日 スズラン		
④	A5	1	1-6-02	1958年10月12日または13日 八甲田大岳
		2	1-7-03	1959年6月4日 朝日小屋より西朝日
		3	1-8-05	1959年7月17日 ポロシリ岳七つ沼カール
		4	P 1-5-01	1957年10月11日 十六の沢入口より 西クマネシリ岳
⑤	A6	1	1-10-01	11月13日 誓いの丘より日高山脈 左より寒古岳、十勝岳
⑥	A7	1	2-1-05	1960年3月19日 十勝岳雪の樹林
		2	2-2-08	1960年4月6日 4月の原野と日高 忠類丸山より
		3	P 2-10-03	1961年7月13日 ハマナシの野付半島から知床の山々 左 :遠根別岳、右 :羅臼岳
⑦	A8	1	2-3-01	1960年7月12日午前10時半 白毛門より谷川岳
		2	2-11-01	1961年11月12日 斜里岳
		3	P 2-18-05	1962年7月8日 飯豊山石ころび沢にて
		4	P 2-20-01	1962年7月9日 飯豊山樫川尾根上部より十文字とカイヤギ岳
⑧	A9	1	2-14-04	1962年5月2日 東西ヌブカウシ山
		2	2-15-09	1962年5月5日 十勝ボロシリ485mより十勝連峰 右、雲の中)
		3	P 2-24-02	1962年12月10日 厚別川とイトンナップ岳
		4	P 2-30-12	1963年7月13日 摩周湖と斜里岳
⑨	A10	1	2-32-06	1963年8月25日赤岩より積丹半島を望む 歩々の会スケッチハイク
		2	2-35-08	1964年10月11日 北大植物園 歩々の会スケッチハイクにて
		3	P 3-78-01	1976年9月12日 紋別岳より支笏湖、樽前山、風不死岳
		4	3-80-01	1977年7月9日 浜豊似豊似川河口より 歩々の会15周年記念スケッチハイク
⑩	A11	1	3-9-07	1966年4月11日 宮の沢から手稲山
		2	3-12-01	1966年5月11日 アポイ岳より類似方面
⑪	A12	1	3-21-15	1969年9月13日 ネパールへの旅日記NO.1 香港
		2	3-22-14	1967年9月23日 ネパールへの旅日記NO.2 SINGAPORE ランブータン
		3	3-27-08	1967年11月10日 ダウラギリ
⑫	A13	1	3-29-01	1968年1月16日 KONGDE RI (6187m)とナムチェバザール (3440m)
		2	3-30-01	1968年1月18日 EVEREST, LHOCTHE, LHOCTHE SHAR
⑬	A14	1	3-32-14	1968年1月24日 パンボチェよりアマダブラム
		2	3-28-01	1967年12月16日 NAGARKOTにて
		3	3-62-06	1972年3月24日 ネパール製ドーナッツ
⑭	A15	1	3-23-30	1967年10月23日ネパールへの旅日記NO.3 Raxauから見たヒマラヤ ヒマルチュリ
		2	3-33-06	1968年1月26日 ルクラ飛行場にて
		3	3-61-12	1972年3月24日 機上よりANNAPULNA H MAL
		4	P 3-28-02	1967年12月16日 ヒマラヤジンチョウゲ
		5	P 3-28-04	1967年12月16日 キツネノマゴ科
⑮	A16	1	3-64-10	1972年3月31日 石楠花とアンナプルナII峰
		2	3-66-05	1972年4月5日 マディコーラの部落
		3	P 3-66-12	1972年4月6日 アンナプルナII峰

ケース	作品No.	種別	画像No.	キャプション	複写画は種別欄にPを記入
⑯	A17	1	3-34-19	1968年7月19日 五厘浜より砂坂海岸林	
		2	3-35-27	1968年7月22日 森より駒ヶ岳	
		3	P 3-37-02	1968年10月29日 下沼より利尻富士	
		4	P 3-38-04	1969年2月10日 前十勝	
⑰	A18	1	3-40-13	1969年4月29日 真狩南登山口より羊蹄山	
		2	3-41-15	1969年5月4日 野中温泉にてあかえぞ松の純林	
		3	3-45-06	1970年3月15日 奥手稲小屋	
		4	3-47-03	1966年 5月27日 手稲山荘と手稲山	
⑱	A19	1	3-50-07	1970年9月14日 富良野岳肩より十勝岳と上ホロカメットク	
		2	P 3-52-22	1970年10月12日 ニセイカウシュベ 朝陽山) より黒岳	
		3	P 3-55-06	1971年3月14日 塘路より雌阿寒岳	
		4	3-60-01	1972年1月3日 西ヌブカウシ山より下ホロカメットク	
⑲	A20	1	3-74-05	1974年6月22日 美瑛 依真布付近より北鎮-旭-後旭-白雲	
		2	P 3-79-01	1977年1月5日 雪の前十勝と樹林	
		3	3-79-03	1977年1月5日 ナマコ尾根にて	
⑳	A21	1	3-81-19	1981年1月6日 焼山	
		2	3-81-20	1981年1月6日 小金湯にて ななかまどとイタダリの種	
		3	3-81-21	1981年1月6日 きたごぶしの蕾	
カシミール	A22	1	3-1-01	1965年1月15日 暁より楽古岳	
		2	3-2-13	1965年5月14日 忠類丸山より楽古連山 左より楽古岳、十勝岳、オムシャヌプリ	
		3	3-4-20	1965年5月30日 大樹より左からコイカクシュ札内岳、1823峰、カムイエクウチカウシ山、1903峰、春別岳	
		4	3-5-02	1965年5月30日 尾田村ヌピナイより豊似岳、1513峰、ピリカヌプリ	
		5	3-5-09	1965年5月31日 無願付近の山よりボンヤオロマップ山、ペテガリ岳	
A23	1	油彩小品	原野から見た冬の日高山脈		
場外	A24	1	P 2-4-12	別山より剣岳	
		2	P 2-6-04	長次郎谷	
		3	P 2-6-06	剣沢雪溪末端より真砂、前剣	
		4	P 2-6-12	池の平より八つ峯	
		5	P 2-6-38	五・六の窓より立山と別山	
	A25	1	P 2-18-04	石ころび沢頭	
		2	P 2-20-04	門内小屋	
		3	P 2-20-14	門内小屋付近より	
		4	P 2-21-03	北股岳より	
5	P 2-21-15	クサイグヲ尾根より大日岳			

(4) 展示パネル・資料・スケッチ画

P1 パネル「館長ご挨拶」



坂本直行生誕110年記念企画展示

直行さんの
スケッチブック展

本年は、登山家、開拓農家、農民運動家、そして山岳画家としての様々な顔を持ち、それぞれの分野で活躍された、北大 OB である坂本直行さんの生誕 110 年にあたります。それを記念して、総合博物館と北大山岳館では、ご遺族から寄贈された直行さんのスケッチブックに描かれた膨大な作品から、道内外やヒマラヤの山々、草花の数々、および木版画などを選び、ほとんどが未公開の作品を展示することになりました。これらのスケッチブックは直行さんが十勝に入植してから亡くなる前年までの 46 年間に描かれたもので、それらの中から氏の生活の基盤を置いた地域・時期により、作品を 4 つに区分して展示しています。このことにより、北大卒業後に開拓農家として入植して悪戦苦闘した時代、そして離農し創作活動に打ち込んだ晩年と、直行さんの波乱万丈の生涯の折々に描かれた作品をたどることができます。これらの作品からは、例え生活や環境が変わっても、対象と一体となって描かれた自由奔放で力強い、直行さんの画風を感じることができるのではないのでしょうか。皆さんには、今回の展示を通じて、山と人を愛し自然と一体になって生きた、直行さんの生涯に思いを馳せていただければと思います。

最後に今回の展示や記念講演会の開催にあたってご協力いただいた、機関・団体・企業・個人の皆様に感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

北海道大学総合博物館
館長 中川 光弘

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

イントロダクション

P 2 パネル「実行委員会ご挨拶」

坂本直行生誕 110 年記念

“ 直行さんのスケッチブック展 ”
ごあいさつ

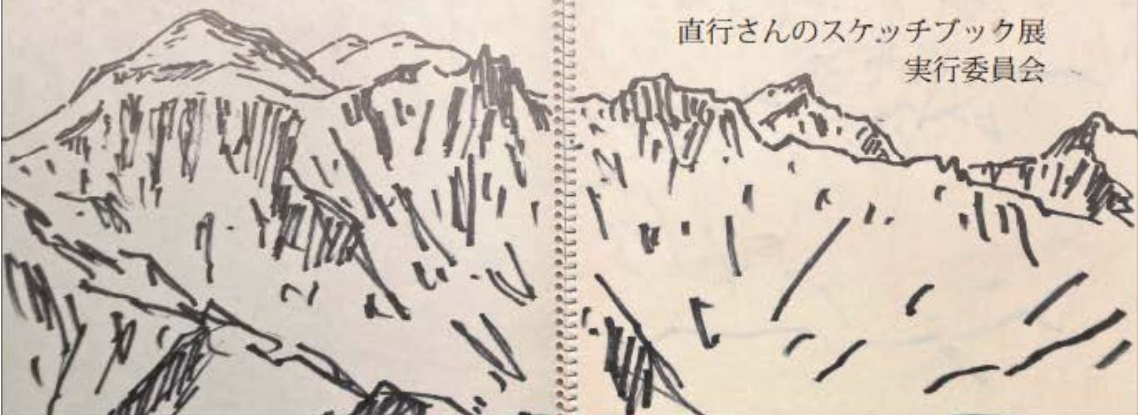
北大山岳館が収蔵する画家・坂本直行のスケッチブックは、十勝へ入植した 1936 年から亡くなる前年の 1981 年までの 136 冊、描かれているスケッチは 2500 点を超えます。画材はエンピツ、コンテ、サインペン、クレヨン、絵の具など、また、描かれているのは稜線のみを描きかけのものから、ていねいに彩色したものなど実に多彩です。しかし、その 1 点 1 点のどれからも、自然と一体となった直行さんを感じることができます。

本年が直行生誕 110 年にあたるのを記念して、北海道大学総合博物館と北大山岳館は“直行さんのスケッチブック展”を開催することになりました。直行さんの足跡をたどって、学生時代、十勝開拓時代、豊似時代、手稲アトリエ時代に区分し、それぞれの時代を代表するスケッチを選定、あわせて関連資料も展示しました。

展示スペースが限られることから、少しでも多くのスケッチを見ていただこうと、会期を前期と後期に分けてスケッチブックの入れ替えを行います。

どうぞ、画家・坂本直行の世界をお楽しみください。

直行さんのスケッチブック展
実行委員会



P3 パネル「直行さん経歴」

- 1982年(昭和57年) 5月2日「すいそ病のため死去。
- 1981年(昭和56年)75歳 東京個展の際、休の不調が著する。
- 1976年(昭和51年)70歳 「私の草と木の絵本」若狭堂より出版
- 1974年(昭和49年)68歳 北海道文化賞受賞
- 1973年(昭和48年)67歳 北大山岳部創立50周年記念カナダ・ロッキート登山隊にツル夫人と参加
- 1972年(昭和47年)66歳 3月と2月 再度スハールヘルメツチ旅行。
- 1968年(昭和43年)62歳 この年より1977年まで北海道自然保護協会理事を務める。大雪山縦貫道路建設反対運動に参加。
- 1967年(昭和42年)61歳 中央スハール登山隊先遣隊(北大ヒマラヤ委員会派遣)の隊長として、北大山岳部員らとスハールへ往。念願だったヒマラヤをスケッチ。
- 1965年(昭和40年)59歳 「雪原の足あと」若狭堂より出版
手稲宮の池に田舎世也の設計になるアトリエ兼住宅を新築、移住する。

4 手稲アトリエ時代(60歳〜75歳)

- 1964年(昭和39年)58歳 「蝦夷地風土記」ふやら新書より出版
「私の草木図鑑」新紅会より出版
- 1962年(昭和37年)56歳 直行が代表の「歩々の会(ほつほの会)」発行。この会は嫁家を経て、2012年の第50回個展を最後に幕を閉じた。
- 1961年(昭和36年)55歳 帯広市秋鹿の花柳の包帯絵をデザイン。
- 1960年(昭和35年)54歳 谷川岳 登山にスハツチ旅行。
30年にわたる原野の生活に終止符を打って、豊幌市街に移住。画業に転向。初めて電灯の下で生活するようになった。

3 豊似アトリエ時代(54歳〜59歳)

- 1959年(昭和34年)53歳 この無償の仕事は最後まで続いた。
帯広市秋鹿(伊平太)小田郡四郎の知遇を得る。同社の児童誌「サイロ」創刊。表紙絵やカットを描き始める。
第1回東京児童展(生功、画業として立つことに自信を深める。以後2年毎に開催)
- 1957年(昭和32年)51歳 「原野から見た山」明文堂より出版
彫刻家孝孝の知遇を得て、初めて個展を開催、成功を収める。以後毎年開催。
- 1946年(昭和21年)40歳 広尾町農村建設団体の初代委員長に。以後10年ホ、農民運動に没入した。この間登山は皆無。
- 1945年(昭和20年)39歳 8月15日 太平洋戦争終結
- 1944年(昭和19年)38歳 疎通になっていた父に初めて援助を頼み、念願の住宅が完成。
- 1942年(昭和17年)36歳 「開墾の記」長崎書店より出版
太平洋戦争が始まる。
- 1941年(昭和16年)35歳 この年、冷害による記録に破る大凶作で、一家は食べるものに事欠く困窮の極みを体験した。
- 1940年(昭和15年)34歳 牧場経営の可能性に向けてサイロを建設。
北大山岳部第1支隊(平ヶ野)登山隊が遭難し、部員8名が死亡。しばらくは仕事に手がつかない状態に陥った。
- 1939年(昭和14年)33歳 年末から記録的な大雪となり、家の中も雪に埋まる。
- 1938年(昭和13年)32歳 窮乏を見かねた東京の兄弟たちが直行の個展を開催、作品80点を完売する。送られてきた宛先を修正を贈る。
- 1937年(昭和12年)31歳 「山・原野・牧場」を竹村書店より出版
隣町にだけ地蔵を立て小屋でツルと結婚生活を始める。生活資金を得るために炭焼きも始める。炭焼きは15年間続いた。
北大山岳部第1支隊(平ヶ野)登山隊に参加するも、悪天候のため断念し下山。年末にもいっくも借付金の返済ができる。
- 1936年(昭和11年)30歳 広尾村小津原に5町歩の土地を取得し独立。開墾の旗を下ろす。
- 1932年(昭和7年)26歳 冬、山岳部の後継者 相川健と築土匠を1日で往復して初登頂、以後毎冬ごとに日高へ入る。
札幌門田のフエゼツとツルケルを贈る。
- 1930年(昭和5年)24歳 秋、十勝 広尾で教員を続ける同級生で音友の野崎健之助の誘いをうけ同地へ赴き、牧場生活を始める。

2 十勝原野開拓時代(23歳〜53歳)

- 1929年(昭和4年)23歳 札幌に帰り、念願の通産省職員を自撮すが、父・弥太郎の出資が困難となり、計画は頓挫する。
- 1927年(昭和2年)21歳 北大卒業。通産省職員を自撮し、東京の國共社に入社。
- 1926年(昭和元年)20歳 北大山岳部創立と同時に入部。
- 1924年(大正13年)18歳 北大農学専科と合。スキー部に入り、近郊のスキー登山に情を出す。ほかに草花の栽培、陸軍、テニス部、野球部で活躍。
- 1919年(大正8年)13歳 羊蹄山に登頂し感動。初めて山の絵を描く。山岳旅行部で近郊の山歩きに熱中。木版画を始める。
札幌第二中学校(現札幌西高校)へ入学。

1 札幌二中〜北大農学専科時代(13歳〜22歳)

- 1914年(大正3年)8歳 前年末の朝鮮大空襲災。一家は札幌へ移住。
- 1906年(明治39年) 祖父直良は鹿島郡で自由民権家、道内のキリスト教伝道に力を尽くした。
7月26日 孝次郎、直良の次男として彌路に生まれる。

坂本直行 年譜

B1 資料「坂本直行著作初版本6冊」

- 「山・原野・牧場」 1937年 竹村書房
- 「原野から見た山」 1957年 朋文堂
- 「蝦夷糞尿譚」 1962年 ふやら新書
- 「私の草木漫筆」 1964年 紫紅会
- 「雪原の足あと」 1965年 茗溪堂
- 「わたしの草と木の絵本」 1976年 茗溪堂

P4 パネル「直行の人柄・絵描きになった直行さん」



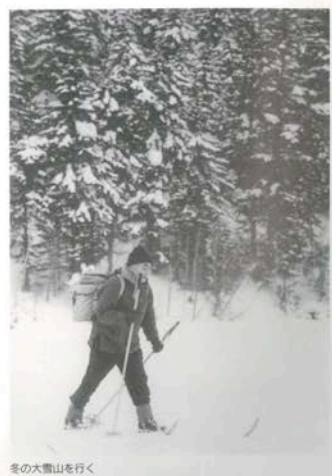
ランプの下での制作 広尾町下野塚の原野の自宅 昭和34年頃

私が初めて下野塚の坂本牧場を訪れたのは、昭和十五年の十月も半ばを過ぎたよく晴れた日の午後であった。乾いた葉がカラカラと鳴っている柏林の中をバラ線の牧柵に沿ってゆくと、ぼっかり開けた草地に、三間に四間位の掘立て小屋があり、それが直行さんの家族、夫婦と幼児二人、の住居であった。二、三十間はなれて三頭の牛と一頭の馬の納まる牧舎があった。

入植してから五年目の牧場は、直行夫妻の血のにじむような努力にもかかわらず、南十勝の厳しい自然の前に、その経営は遅々として進まず、この時は丹精のサイロがやっとブロックを積み終えて最後の屋根葺きにかかったところであった。

画かきになった直行さん

朝比奈英三



冬の大雪山を行く

開拓者から山岳画家へ

坂本つる

今考えても、背筋が寒くなるような開拓生活でした。希望に燃えて入植した開拓地でしたが、想像を絶する悪条件にはばまれ、年ごとに赤字が増え、やがて生活が立ち行かなくなりました。この先どうしたもか、と思案に明け暮れる毎日でした。そんなある日、何かのつてをたどって原野の一軒家に来て下さったのが彫刻家の峯孝先生です。

B2 資料「画材クレパス・絵の具」

第1章 札幌二中～北大農学実科時代（13～22歳）

P5 コーナー(第1章) パネル

1 札幌二中～北大農学実科時代

1919-1928（13歳～22歳）

札幌二中の山岳旅行部で活躍、山・草花のスケッチや木版画を始める。本人の証言によれば、ある山行では50枚のスケッチをしたという。

1924年（18歳）、北大農学実科に入学、北大スキー部に入り、スキー登山を盛んに行う。北大山岳部創立（1926年）と同時に入部し、道内の山を数多く登る。1927年3月、卒業記念に山岳部員とトムラウシ山に登頂。

北大の学生が中心になって1925年に創刊した詩誌「さとぼろ」に参加、木版画を出品する。ほかに、雑誌の表紙やカットなど、多くの木版画を制作している。



1927年3月20日 倶利伽藍布からトムラウシ山登頂。頂上の山岳部員たち
(撮影：坂本直行)

C1 トピックス「さとぼろ」

「さとぼろ」

1925（大正14）年、北大予科学生・外山卯三郎の呼びかけで伊藤秀五郎ら8名の同人によって始められ、1929年まで全29巻が発行された詩を中心とし、制作版画を刷り込んだ芸術雑誌

B3 資料「さとぼろ」1～6号

二中旅行部部報「ヌタック」1号、2号

A 1 木版画「書籍を飾った版画」

1. NO.2 静物 札幌詩学協会「さとぼろ」6号に掲載



2. NO.4 石狩風景 「さとぼろ」6号に掲載



3. NO.9 札幌二中旅行部部報「ヌタック」2号表紙



A 2 木版画

1. NO.8 札幌近郊風景



2. NO.16 風景



3. NO.44 母校 (北大林学? 農学? 教室)



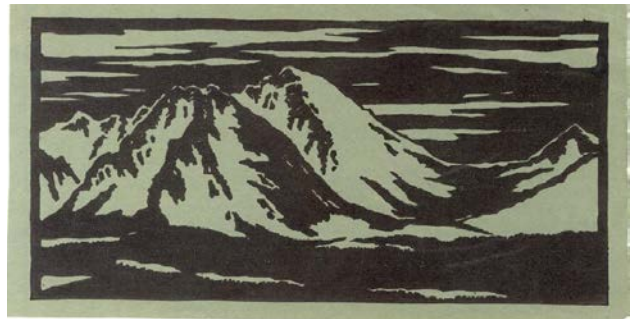
4. NO.10 恵庭岳とオコタンペ湖



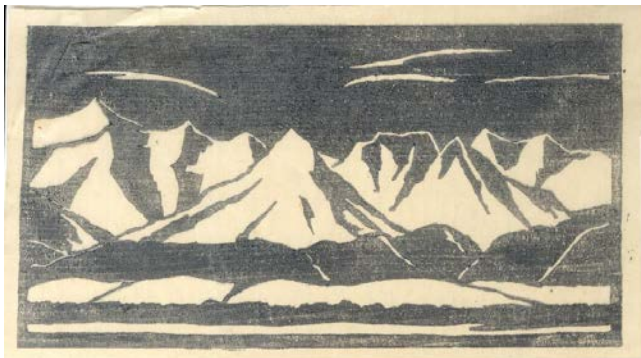
5. NO.26 エサオマントッタベツ岳北東カール



6. NO.42 富良野岳



7. NO.33 十勝連峰



第2章 十勝原野開拓時代（23歳～53歳）

P 6 コーナー(第2章) パネルー1

P 7 コーナー(第2章) パネルー2

2-1 十勝原野開拓時代

1929-1959（23歳～53歳）

北大卒業後の2年間、温室経営を志して東京で花卉栽培の修行をするも、予定していた父・弥太郎からの出資が得られず計画は挫折。

1930年（24歳）、牧場を経営する岳友・野崎健之助の招きで、十勝・広尾に生活の基盤を移し、5年間働く。この時期にヤオロマツ岳、楽古岳、ペテガリ岳など冬の日高山脈に意欲的な山行を行っている。

1936年（30歳）、下野塚に25ヘクタールの未墾地を購入、開拓生活に入る。悪戦苦闘の25年間は、借金が膨らむばかりの生活であった。そのような環境の中でも山へ登り、草花や風景をスケッチした。しかし、1946年からの10年間は矛盾する農政との戦いに明け暮れて登山は皆無、スケッチも少ない。



野崎牧場にて



1933年冬 ヤオロマツ岳山頂付近より北を望む
(撮影：坂本直行)

2-2 十勝原野開拓時代

1929-1959（23歳～53歳）

「山・原野・牧場」（1937年）、文部省推薦図書となった「開墾の記」（1942年）、「原野から見た山」（1957年）はこの時代の著作である。

1957年（51歳）、彫刻家・峯孝の勧めで札幌で個展を開催し、大成功を収めたことから、開拓生活に見切りをつけ、画家への転身を決意する。10年間しまい込んでいた山道具のほこりを払い、天狗岳に登り、しばらくぶりにスケッチの時を持った。そして、山の絵を描いて歩けるだけ歩いていこうと誓った。

この時代のスケッチブックは、1939年を最初の1冊としてわずか10冊を残すのみ。



1938年頃、下野塚開拓農場にて長男と

C 2 トピックス「ピッケル」「胸像」

ピッケル

札幌門田 1932（昭和7）年作 特殊鋼ピッケル。

ブロンズ像（レプリカ）

” 直行さん “

峯 孝作 1956年作

高さ 24 cm（台座 8 cm含む）

B 4 資料「ピッケル」

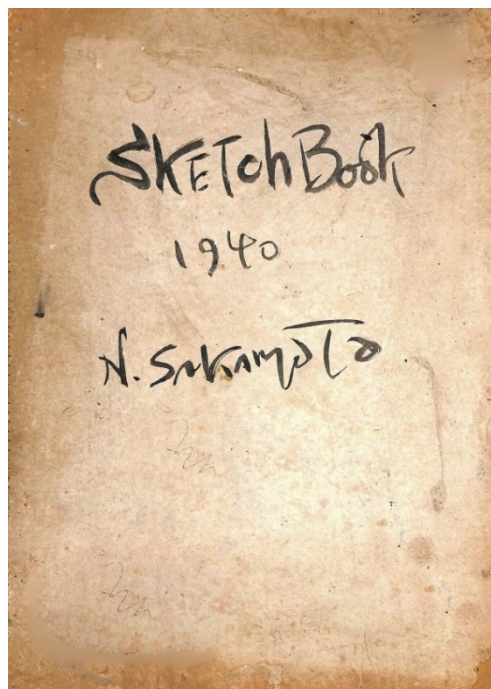
B 5 資料「直行胸像(レプリカ)」

C 3 トピックス「開拓時代初期のスケッチブック」

主に鉛筆で日高山脈、農耕風景、生活、草花、表紙下絵など100点が、時には1頁に2段、3段に描がかれている。「開墾の記」で述べている豪雪、凶作などによる最も厳しい生活を強いられた時期のスケッチブック。

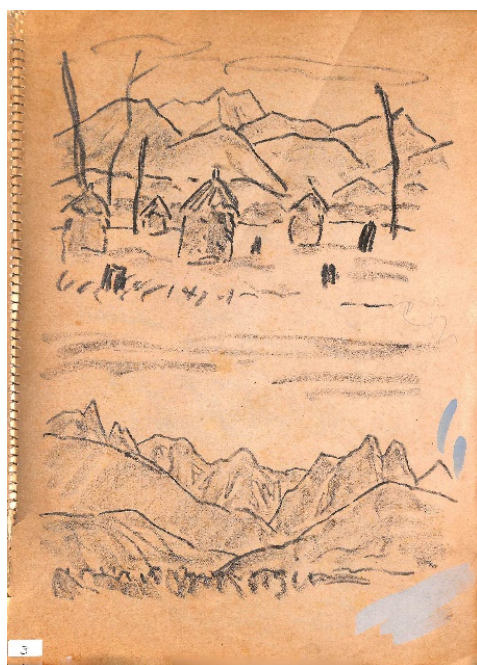
A 3 開拓時代初期のスケッチ - 1

1. 1-2-00 スケッチブック表紙



A 4 開拓時代初期のスケッチ - 2

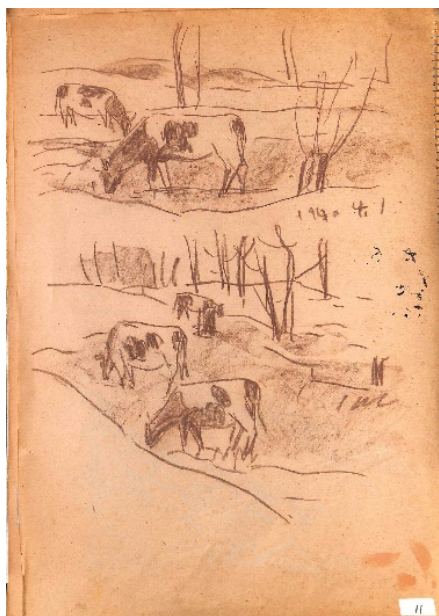
1. 1-2-03 1940年上：ソエマツ岳下：芦別岳本峰と夫婦岩



2. 1-2-02 1940年 牧場と南日高



3. 1-2-11 1940年4月1日 早春の放牧



4. 1-2-20 1940年4月17日 住宅風景 馬は四五六号



5. 1-2-42 1940年頃登山風景 上:上ホロカメットク下:十勝連峰



6. 1-2-85 1952年6月23日 スズラン



A 5 スケッチ

1. 1-6-02 1958年10月12日または13日 八甲田大岳



2. 1-7-03 1959年6月4日 朝日小屋より西朝日



3. 1-8-05 1959年7月17日 ポロシリ岳七つ沼カール



4. 1-5-01 1957年10月11日 十六の沢入口より
西クマネシリ岳

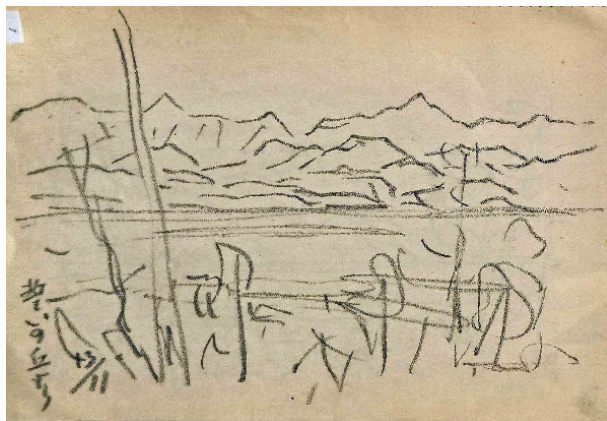


C 4 トピックス「誓いの丘」

1959年11月13日 誓いの丘より日高山脈 原野を離れるにあたって、誓いの丘からのスケッチ。
誓いの丘とは開拓を始めるにあたって、新しい生活に向かってお互いに頑張ろうとツル夫人と誓い合った丘のこと。

A 6 スケッチ「誓いの丘より日高山脈」

1. 1-10-01 11月13日 誓いの丘より日高山脈 左：楽古岳、右：十勝岳



B 6 資料

「開墾の記」1942年

第3章 豊似アトリエ時代 (54歳～59歳)

P 8 コーナー(第3章) パネル

3 豊似アトリエ時代

1960-1965 (54歳～59歳)

1960年(54歳)、豊似市街の借家へ移り、アトリエを開く。この時代は5年間と短いが、各地に精力的なスケッチ旅行を行い、46冊のスケッチブックを残している。帯広千秋庵(のちの六花亭)の小田豊四郎氏の依頼で児童詩誌「サイロ」に表紙・カットを無償で描き始め、また、有名な花柄模様の包装紙もこの時代の作である。

代表的な絵「原野から見た日高山脈」のスケッチが、豊似を離れる直前の1964年から1965年にかけて、写生位置を変えながら数多く描かれている。



1960年6月8日 原野を去る前日の直行夫妻
(撮影：鮫島倅一郎)

その人柄と生き様を慕って、開拓生活時代と豊似時代に坂本家へ685名が訪れ、589名が宿泊していった。貧しい生活の中での坂本家の心のこもったおもてなしに対する感謝、原野や山へのあこがれ、新たな人生への思いなどを訪れた者たちが「お宿帳」に記していった。

C 5 トピックス「お宿帳」

坂本ご夫妻の人柄と生き様を慕って、開拓生活時代と豊似時代に坂本家へ685名が訪れ、589名が宿泊していった。

貧しい生活の中での坂本家の心のこもったおもてなしに対する感謝、原野・山へのあこがれ、新たな人生への思いなどを訪れた者たちが「お宿帳」4冊に記帳していった。

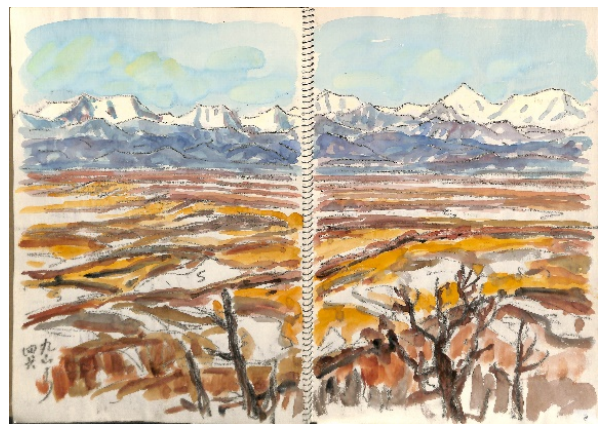
B 7 資料「お宿帳 4 冊(実物)」

A 7 スケッチ

1. 2-1-05 1960年3月19日 十勝岳雪の樹林



2. 2-2-08 1960年4月6日 4月の原野と日高 忠類丸山より

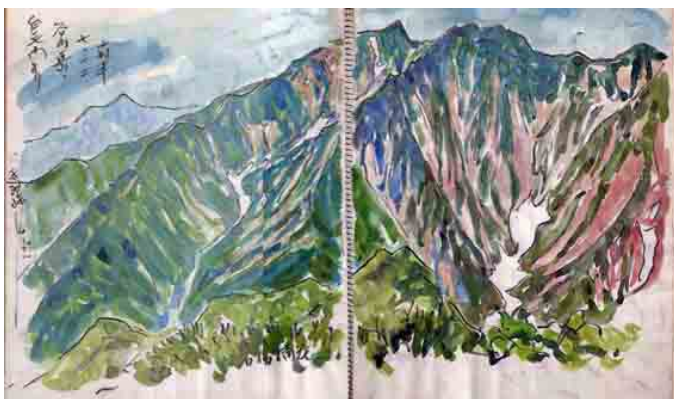


3. 2-10-03 1961年7月13日 ハマナシの野付半島から知床の山々 左: 遠根別岳、右: 羅臼岳

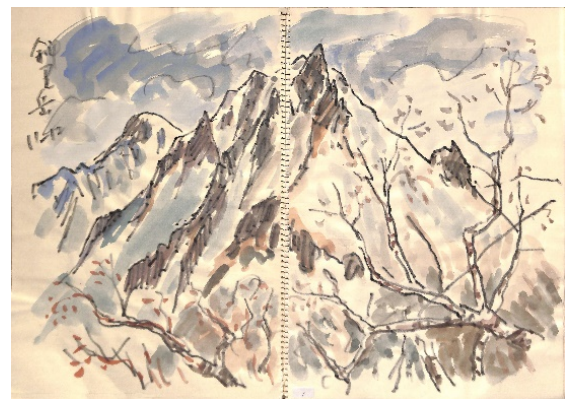


A 8 スケッチ

1. 2-3-01 1960年7月12日 午前10時半 白毛門より谷川岳



2. 2-11-01 1961年11月12日 斜里岳



3. 2-18-05 1962年7月8日 飯豊山石ころび沢にて

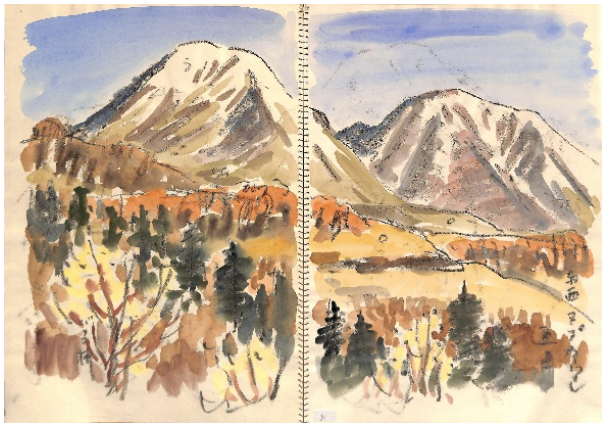


4. 2-20-01 1962年7月9日飯豊山梶川尾根上部より
十文字とカイラギ岳

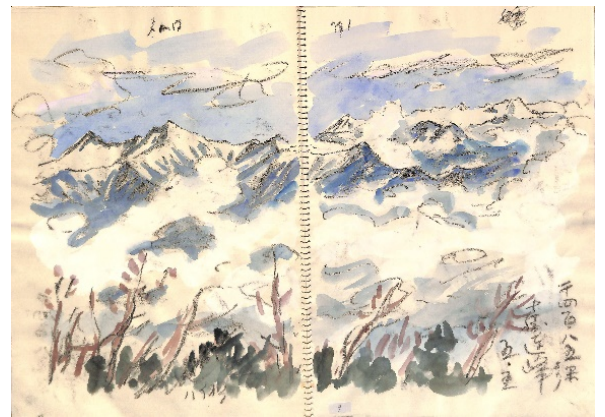


A9 スケッチ

1. 2-14-04 1962年5月2日 東西ヌブカウシ山



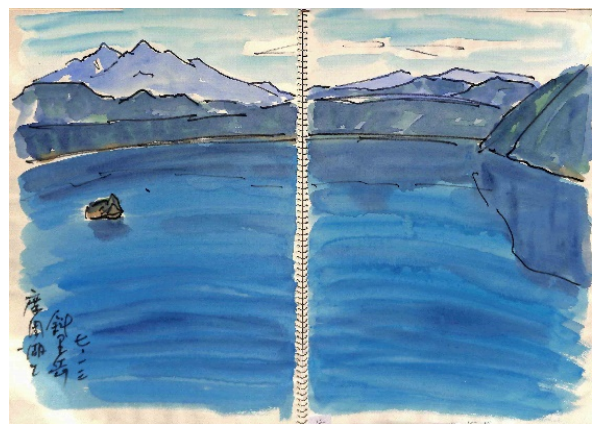
2. 2-15-09 1962年5月5日十勝ポロシリ 1485mより
十勝連峰 (右、雲の中)



3. 2-24-02 1962年12月10日 厚別川とイドンナップ岳



4. 2-30-12 1963年7月13日 摩周湖と斜里岳



C 6 トピックス「歩々の会」と「札幌から見える山」

“歩々の会” (ぼっぼの会)

原野時代の長い苦しい生活の中にあっても持ち続けた、自然の美しさを絵筆に託して多くの人と分かち合い、楽しみたいとの夢に満ちた直行の発想は、1962年、彼を敬愛する者たちが集まって“歩々の会”として発足した。年1回開催された画展は直行の没後も続き、2012年の50回をもって終焉した。直行は年に数回のスケッチハイクを楽しみ、描いたスケッチブックを大切に保存していた。

「札幌から見える山」1981年 朝比奈英三・鮫島惇一郎編

「札幌から見える山」1981年5月北大図書刊行会 歩々の会メンバーが描いた札幌から見える山と北大山岳部の部員らが撮影した写真から構成された図版。

B 8 資料

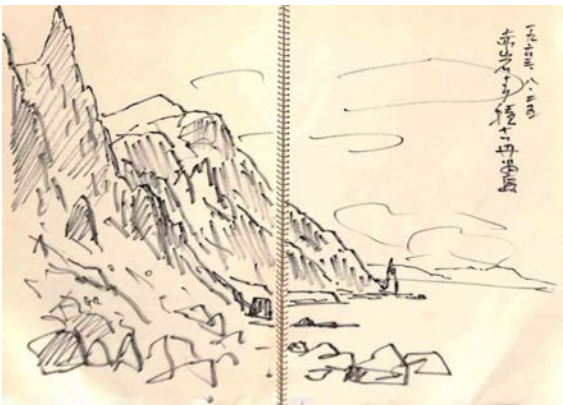
「札幌から見える山」1981年5月 北大図書刊行会

「歩々画展目録 第1回—30回」1993年 (鮫島惇一郎の手製)

「歩々画展目録 第31回—50回」2012年 (鮫島惇一郎の手製)

A 10 スケッチ「歩々の会」

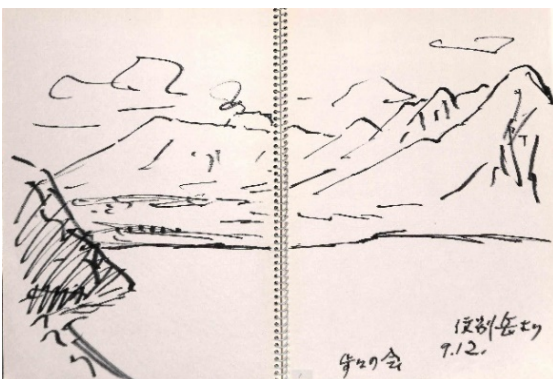
1.2-32-06 1963年8月25日赤岩より積丹半島を望む



2.2-35-08 1964年10月11日北大植物園



3.3-78-01 1976年9月12日紋別岳より支笏湖、樽前山、風不死岳



4.3-80-01 1977年7月9日浜豊似豊似川河口より 歩々の会 15周年記念



第4章 手稲アトリエ時代 (60歳~75歳)

P 9 コーナー(第4章) パネル

4 手稲アトリエ時代

1966-1981 (60歳~75歳)

1965年(59歳)、「さとぼろ」時代の友人で著名な建築家・田上義也氏の設計になる手稲宮の沢の新居に移住した。

この時代の特筆すべきスケッチ旅行は、1967年9月から1968年2月にかけての北大山岳部員らとのヒマラヤである。念願だったヒマラヤをスケッチブックに叩き込むように描写している。その後、1972年と73年にも短期のスケッチ旅行に出かけている。海外へはヒマラヤのほか、1973年の北大山岳部創立五十周年記念ロッキー山脈の旅にツル夫人とともに参加した。

1974年(68歳)、北海道文化賞を受賞した。

人々を魅了した山と草花の絵画が、この時代に描かれたスケッチブック73冊からも多く生まれている。



1966年4月12日 手稲の自宅

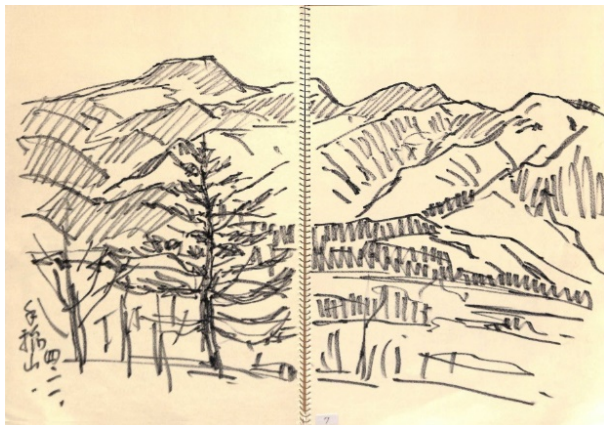


1974年6月9日 オコタンベ湖にて

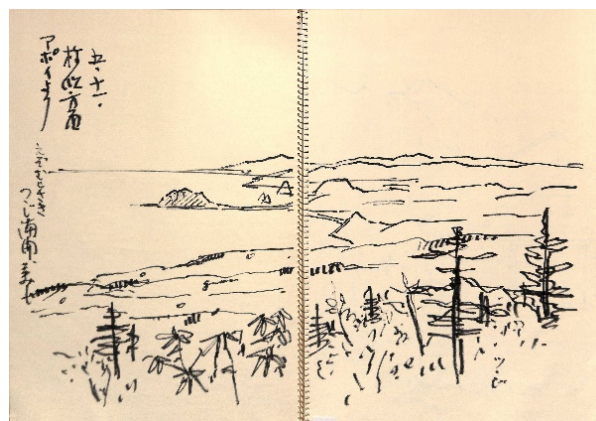
(撮影：鮫島惇一郎)

A11 スケッチ

1. 3-9-07 1966年4月11日 宮の沢から手稲山



2. 3-12-01 1966年5月11日 アポイ岳より様似方面



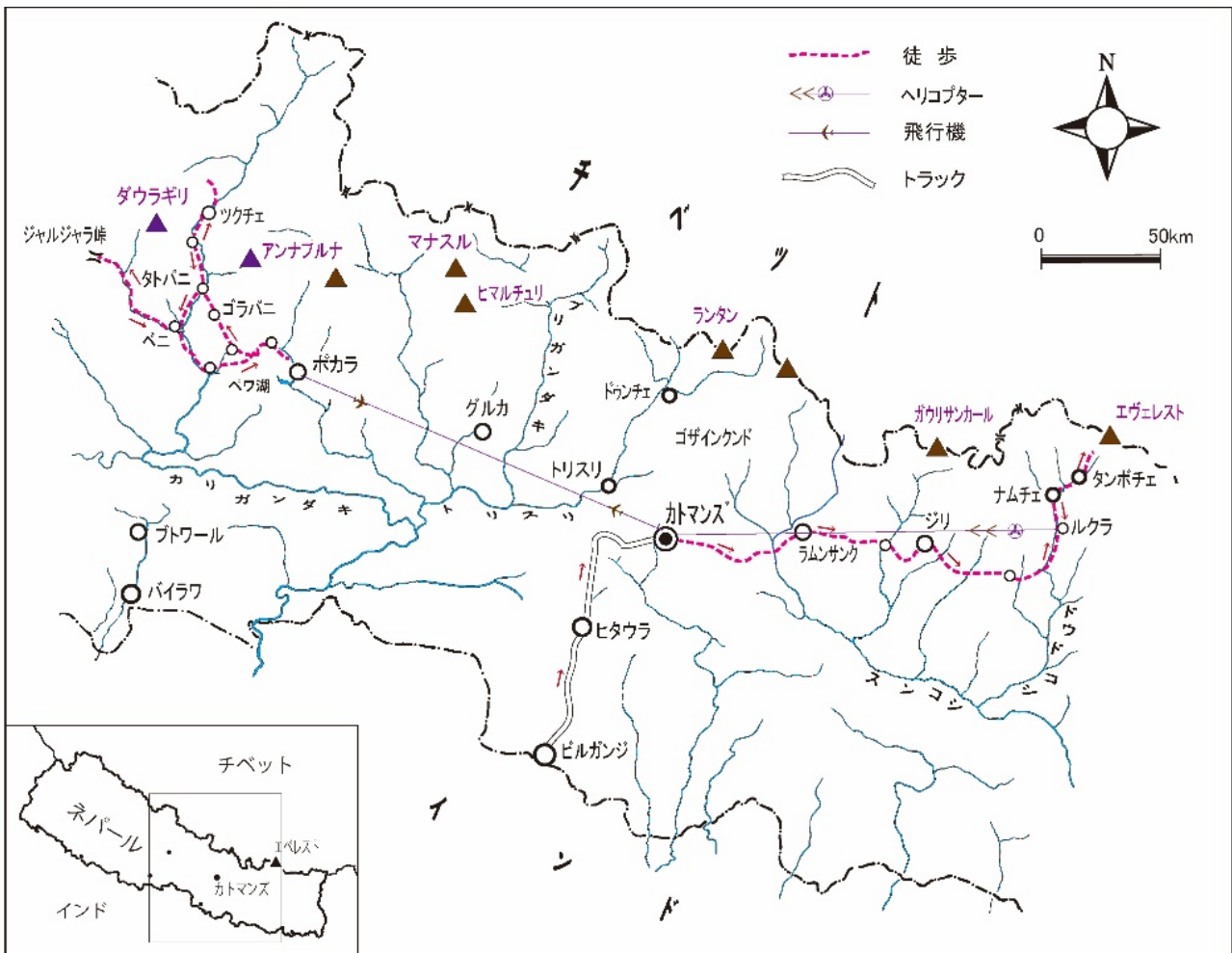
C7 トピックス「ヒマラヤ・スケッチ旅行」

ヒマラヤ・スケッチ旅行

中央ネパール学術調査隊先遣隊の団長として、61歳ながら北大山岳部員とともに1967年9月から翌年2月まで、ポカラからツクチェ方面、ナムチェバザールからゴラクシェップ方面を旅した。小ぶりのスケッチブックを使って“旅の日記”、大判のスケッチブックを使って山を描いている。

1972年、1973年にも短期のヒマラヤ旅行を行っている。

M1 地図「ヒマラヤ旅行行程図」



D1 ヒマラヤのスナップ

1. 4400mの散歩 松村雄撮影



2. 4000mのキャンプにて 松村雄撮影



3. Modi Khola の吊り橋 松村雄撮影

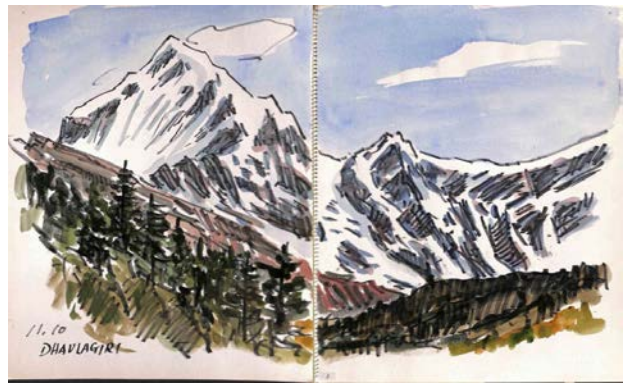


A12 スケッチ

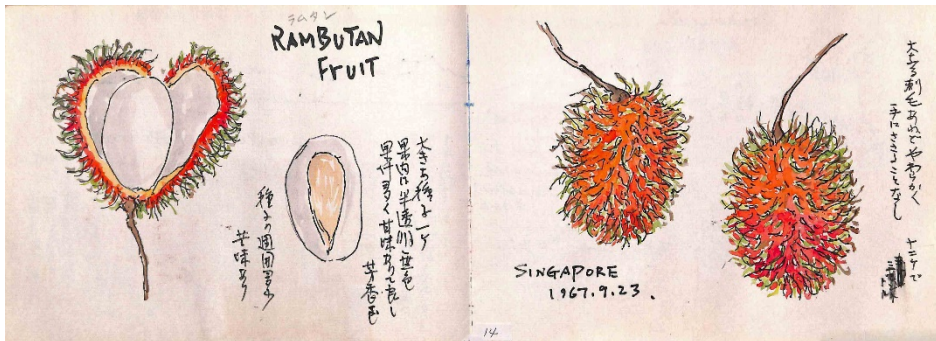
1. 3-21-15 1969年9月13日 ネパールへの旅日記NO.1 香港



3. 3-27-08 1967年11月10日 ダウラギリ



2. 3-22-14 1967年9月23日 ネパールへの旅日記NO.2 SINGAPORE ランブータン



A13 スケッチ

1. 3-29-01 1968年1月16日 KONGDE RI (6187m) と
ナムチェ・バザール (3440m)



2. 3-30-01 1968年1月18日 EVEREST,
LHOCTHE, LHOCTHE SHAR



A14 スケッチ

1. 3-32-14 1968年1月24日パンボチェよりアマダブラム

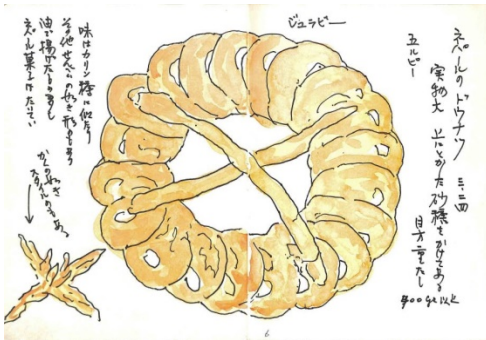
にて



2. 3-28-01 1967年12月16日 NAGARKOT



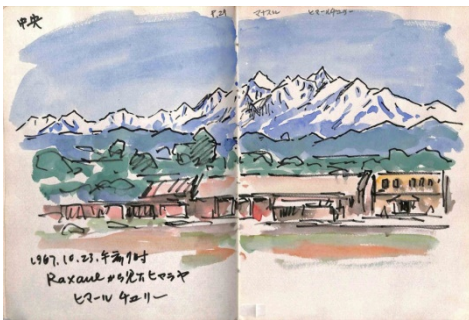
3. 3-62-06 1972年3月24日 ネパール製ドーナツ



A15 スケッチ

1. 3-23-30 1967年10月23日ネパールへの旅日記NO.3

Raxaulから見たヒマラヤ ヒマルチュリー



2. 3-33-06 1968年1月26日 ルクラ飛行場にて



3. 3-61-12 1972年3月24日 機上より ANNAPULNA HIMAL



4. 3-28-02 1967年12月16日ヒマラヤジンチョウゲ



5. 3-28-04 1967年12月16日キツネノマゴ科



A16 スケッチ

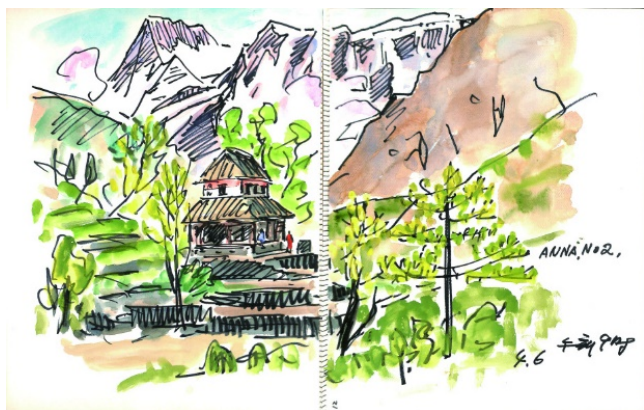
1. 3-64-10 1972年3月31日石楠花とアンナプルナII峰



2. 3-66-05 1972年4月5日マディコーラの部落



3. 3-66-12 1972年4月6日アンナプルナII峰

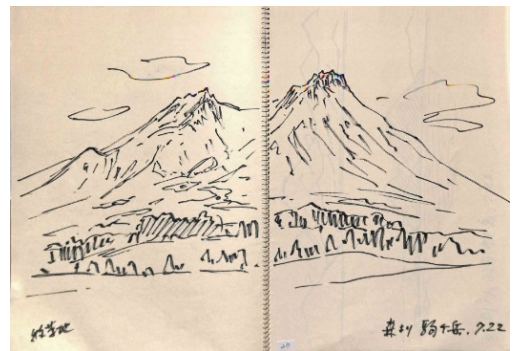


A17 スケッチ

1. 3-34-19 1968年7月19日 五厘浜より砂坂海岸林



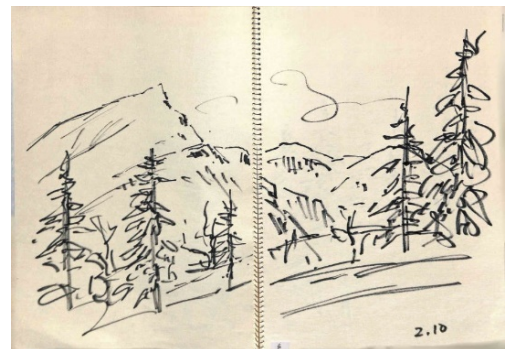
2. 3-35-27 1968年7月22日 森より駒ヶ岳



3. 3-37-02 1968年10月29日 下沼より利尻富士

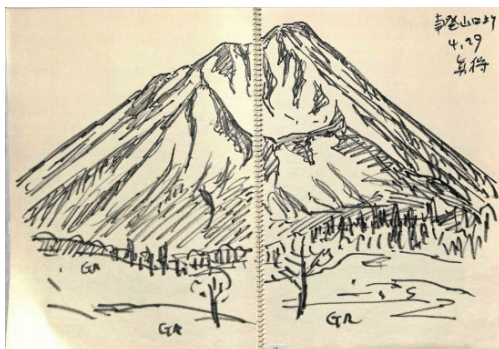


4. 3-38-04 1969年2月10日 前十勝



A18 スケッチ

1. 3-40-13 1969年4月29日 真狩南登山口より羊蹄山



2. 3-41-15 1969年5月4日 野中温泉にて
あかえぞ松の純林



3. 3-45-06 1970年3月15日 奥手稲小屋

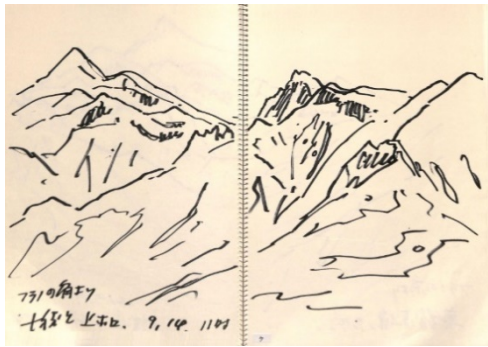


4. 3-47-03 1966年5月27日 手稲山荘と手稲山

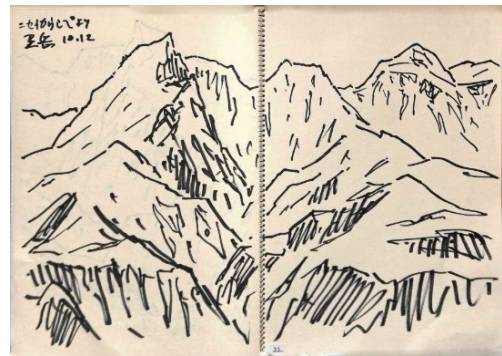


A19 スケッチ

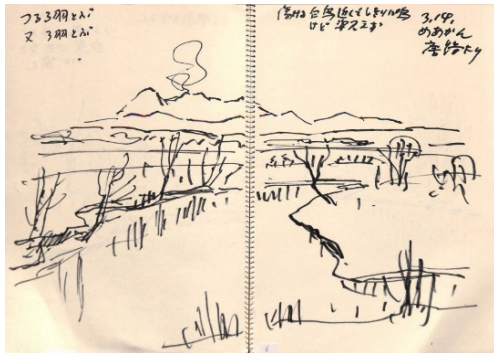
1. 3-50-07 1970年9月14日 富良野岳肩より十勝岳と
上ホロカメットク



2. 3-52-22 1970年10月12日 ニセイカウシュベ
(朝陽山)より黒岳



3. 3-55-06 1971年3月14日 塘路より雌阿寒岳



4. 3-60-01 1972年1月3日 西ヌプカウシ山より下ホロカメットク



A20 スケッチ

1. 3-74-05 1974年6月22日 美瑛・俵真布付近より
北鎮・旭・後旭・白雲



2. 3-79-01 1977年1月5日 雪の前十勝と樹林



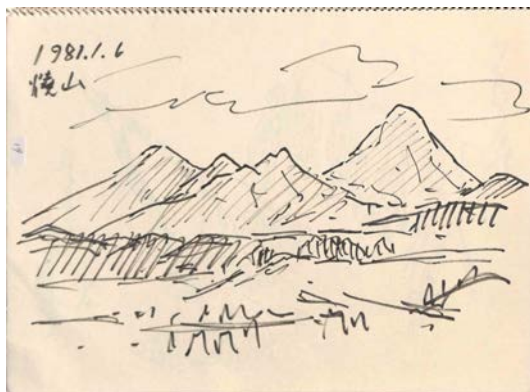
3. 3-79-03 1977年1月5日 ナマコ尾根にて



C8 トピックス 「1980年7月20日～1981年1月6日 最後のスケッチブック」

A21 スケッチ「最後のスケッチブック」

1. 3-81-19 1981年1月6日 焼山



2. 3-81-20 1981年1月6日 小金湯にて

ななかまどとイタドリの種



3. 3-81-21 1981年1月6日 きたこぶしの蕾



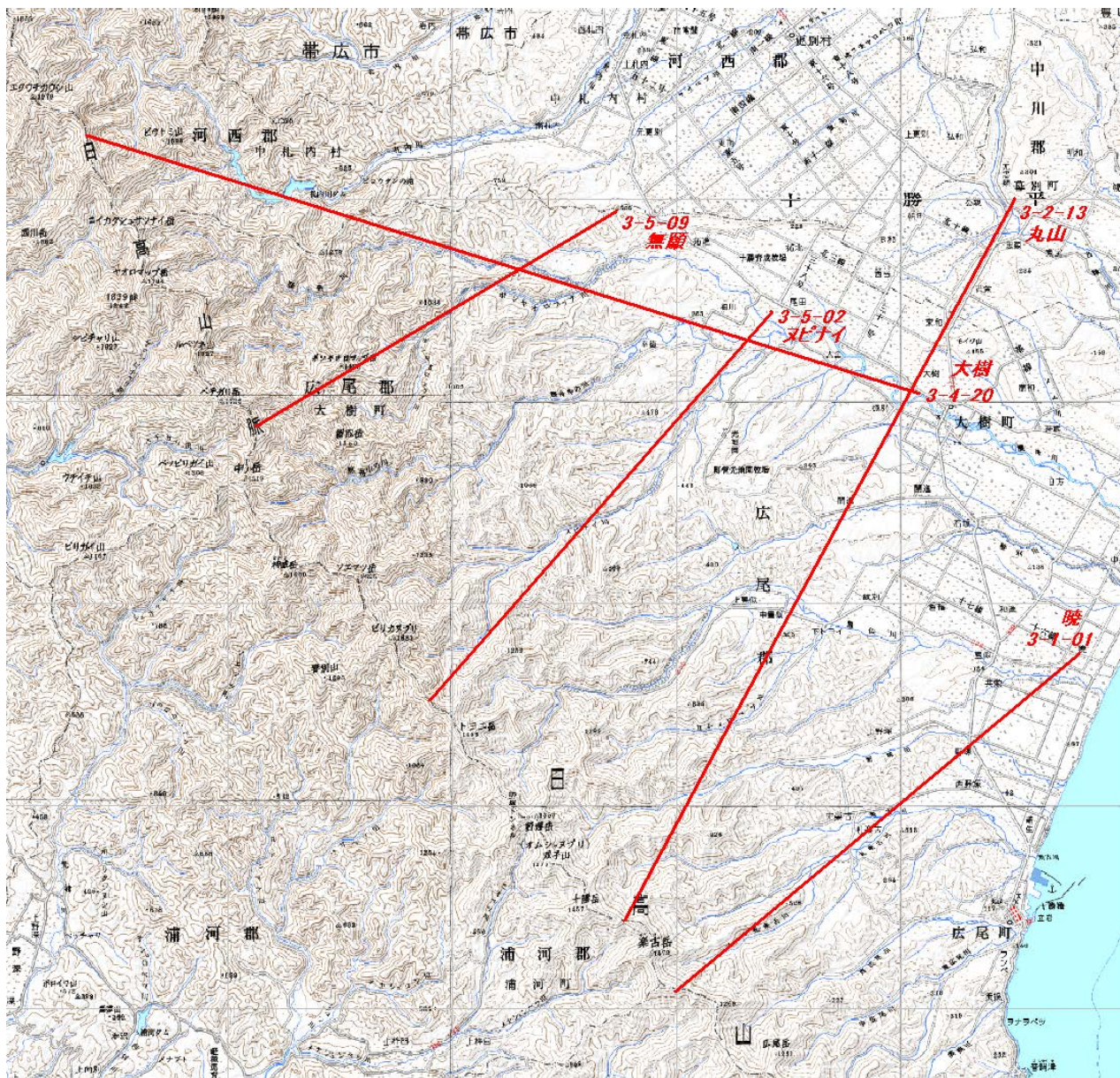
カシミールコーナー 原野から見た日高山脈

C8 トピックス 代表作「原野から見た日高山脈」のスケッチ

1965年、札幌移住の前年、豊似を離れるにあたって十勝各地より見た日高山脈をスケッチした。画家が見た日高山脈を、スケッチに地形図・カシミール画像を対比させて再現する。

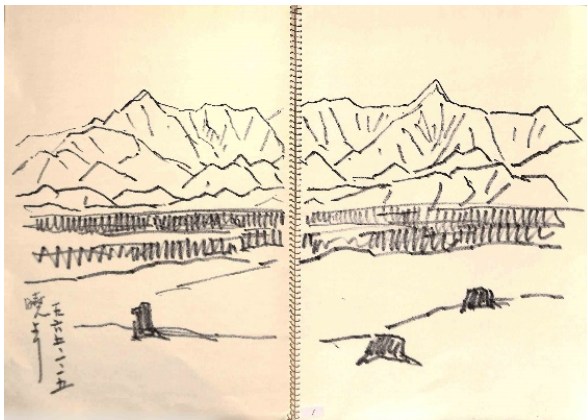
M2 地図「パノラマの視界」

スケッチ地点と対象



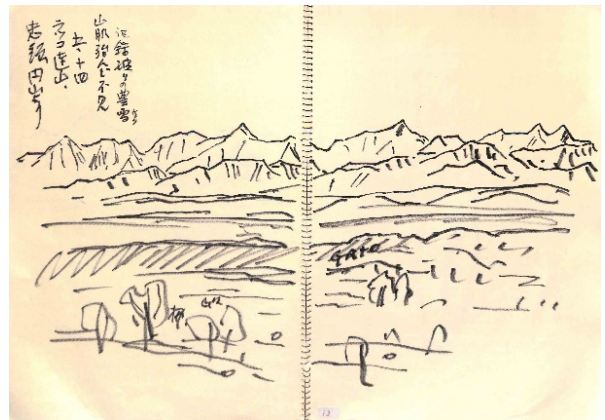
A22 豊似時代のスケッチ「原野から見た日高山脈」 5点

1. 3-1-01 1965年1月15日 暁より楽古岳



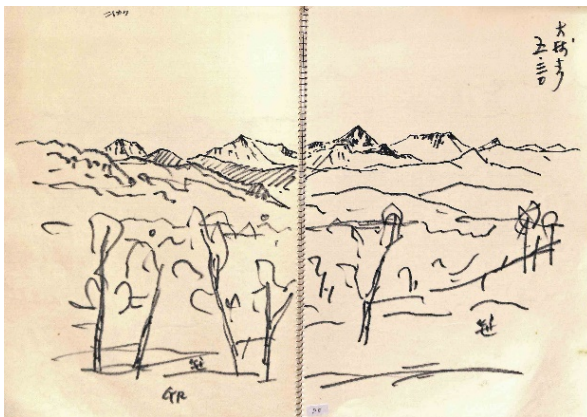
2. 3-2-13 1965年5月14日 忠類丸山より楽古連山

左より楽古岳、十勝岳、オムシャヌプリ



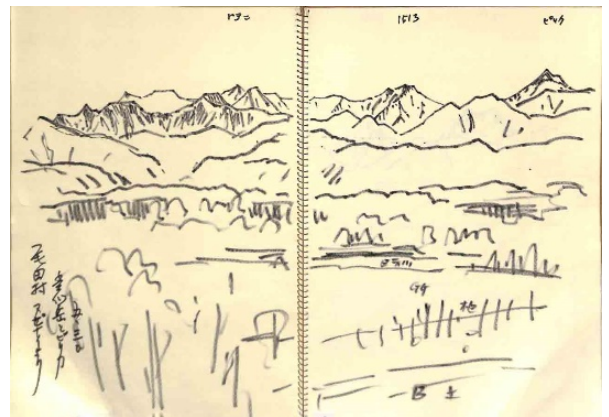
3. 3-4-20 1965年5月30日 大樹より左からコイカクシユ札内岳、

1823峰、カムイエクウチカウシ山、1903峰、春別岳



4. 3-5-02 1965年5月30日 尾田村ヌピナイ

より豊似岳、1513峰、ピリカヌプリ



5. 3-5-09 1965年5月31日 無願付近の山よりポンヤオロマップ、ペテガリ岳



A23 油彩小品「原野から見た冬の日高山脈」

更別付近から見たヤオロマップ岳



B 9 手紙「直行さんの絵について」(山の会会報 79号)

熊野純男

山岳館に寄贈したペテガリ岳の油絵についてお知らせします。

昭和 30 年頃の暮れのことです。当時原野におられた坂本直行さんから、鶏 1 羽を包んで送ってくれた包装紙がこの油絵です。開いてびっくりしました。この肉を送るために F 6 号の油絵を木枠から外して、その裏に(写真参照)宛先を書いたものでした。この意味が分かった時の感激は一生忘れません。

早速、F 4 号の木枠に張り直し、額に入れて教室の F 教授に部屋に飾ってありました。いずれ山岳部のルームにでもと思っておりましたが、山岳館の壁面を飾るのに相応しいと思いました。この絵は上更別から見たものと思われます。

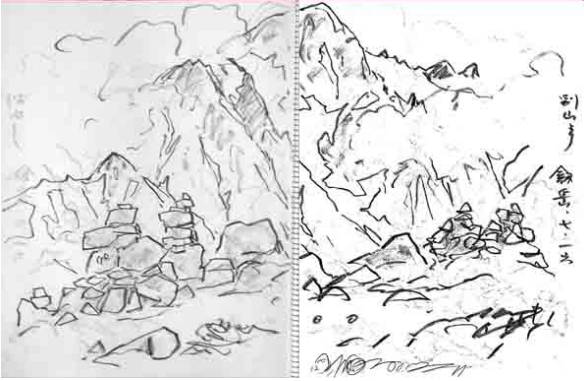
(注：ペテガリ岳はヤオロマップ岳の間違い)

(5) 場外展示

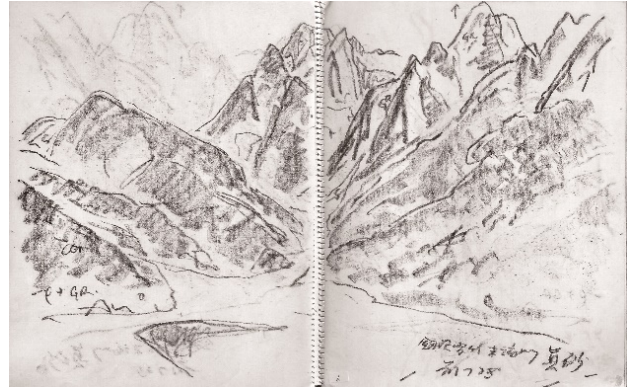
カフェに掲示

A24 スケッチ「道外の山・劔岳」5点

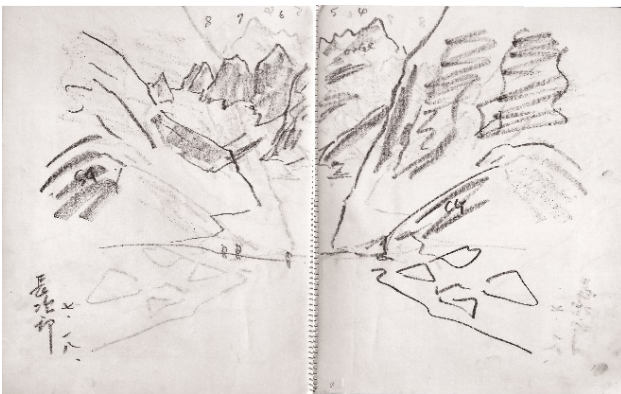
1. 2-4-12 別山より劔岳



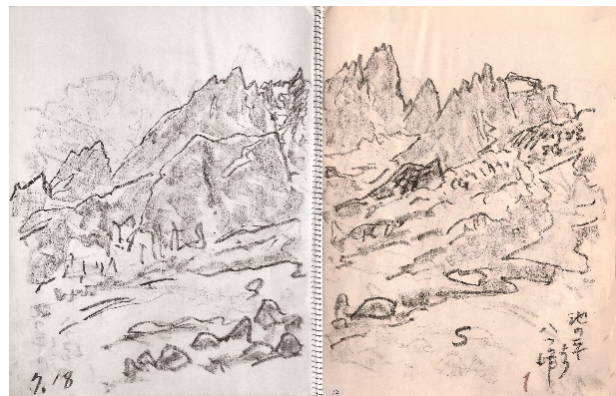
2. 2-6-04 長次郎谷



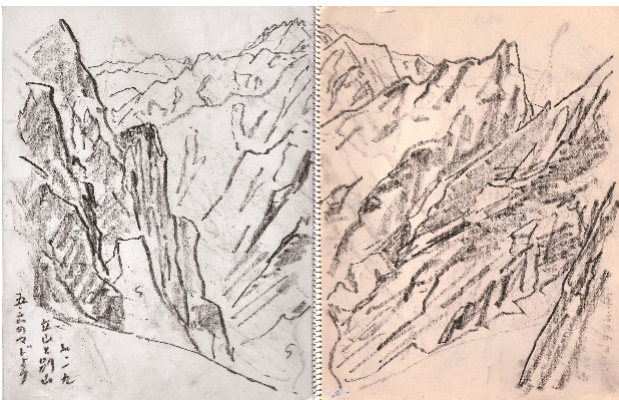
3. 2-6-06 劔沢雪溪末端より真砂、前劔



4. 2-6-12 池の平より八つ峯



5. 2-6-38 五・六の窓より立山と別山



A25 スケッチ「道外の山・飯豊山」5点
 知の交差点に掲示

1. 2-18-04 石ころび沢頭



2. 2-20-04 門内小屋



3. 2-20-14 門内小屋付近より



4. 2-21-03 北股岳より



5. 2-21-15 クサイグラ尾根より大日岳



7. 後期展示内容

- (1) 展示場配置図
- (2) 展示品一覧
- (3) 展示版面・スケッチリスト
- (4) 展示パネル・資料・スケッチ画
- (5) 場外（カフェ、知の交差点）展示

(1) 展示場配置図



(2) 展示品一覧

区域	記号	種別	ケース No.	内容
	P 1	パネル		館長挨拶
ブロックⅠ	P 2	パネル		山岳館ご挨拶
	P 3	パネル		直行さん経歴
イントロダクション	B 1	資料(書籍)		著作初版本7冊 「山・原野・牧場」1937年 「開墾の記」1942年 「原野から見た山」1957年 「蝦夷糞尿譚」1962年 「私の草木漫筆」1964年 「雪原の足あと」1965年 「わたしの草と木の絵本」1976年
	P 4	パネル		直行の人柄・絵描きになった直行さん
	B 2	資料		画材クレパス・絵の具
ブロックⅡ	P 5	パネル		コーナー(ブロックⅡ)パネル
中学～大学時代 (13歳～22歳)	C 1	キャプション	①	トピックス「さとぼろ」「ヌタック」「旅行部追悼録」
	B 3	資料(書籍)	①	「さとぼろ」1号～6号、二中「旅行部1925追悼録」、二中旅行部部報「ヌタック」1号、2号
	A 1	作品	①	木版画「書籍を飾った版画」4点
	A 2	作品	②	木版画「山の版画」9点
ブロックⅢ	P 6	パネル		コーナー(ブロックⅢ)パネル-1
	P 7	パネル		コーナー(ブロックⅢ)パネル-2
	C 2	キャプション		トピックス「ビッケル」「胸像」
	B 4	資料		ビッケル
	B 5	資料		直行胸像(レプリカ)
十勝開拓時代(23歳～53歳)	C 3	キャプション	③	トピックス「開拓時代初期のスケッチブック」
	A 3	作品	③	スケッチブック表紙
	A 4	作品	③	スケッチ「開拓初期」6点(内2点複写)
	A 5	作品	④	スケッチ「北日高山脈」4点(内2点複写) :
	C 4	キャプション	⑤	トピックス「誓いの丘」
	A 6	作品	⑤	スケッチ「誓いの丘より日高山脈」
	A 7	作品	⑤	水彩「ツル夫人像」1956年4月19日
	B 6	資料(書籍)	⑤	「開墾の記」復刻版1992年、「続開墾の記」1994年
ブロックⅣ	P 8	パネル		コーナー(ブロックⅣ)パネル
	B 7	資料		個展案内状2通(実物)
豊似アトリエ時代 (54歳～59歳)	C 5	キャプション		トピックス「お宿帳」
	B 8	資料		お宿帳4冊(実物)
	A 8	作品	⑥	スケッチ「日高山脈」4点(内2点複写) :
	A 9	作品	⑦	スケッチ「劔岳」4点(内2点複写) :
	A 10	作品	⑧	スケッチ「飯豊山」3点(内1点複写) :
	C 6	キャプション	⑨	トピックス「歩々の会」と「札幌から見える山」
	B 9	資料(書籍)	⑨	「札幌から見える山」1981年、「歩々画展目録第1回 - 30回」1993年、「歩々画展目録第31回 - 50回」2012年
	A 11	作品	⑨	スケッチ「歩々の会」4点(内1点複写)
ブロックⅤ	C 7	キャプション		トピックス「直行さんの絵本」
卒論・絵本コーナー (22歳、50歳、54歳)	B 10	資料(書籍)		福音館出版絵本2冊「こどものとも」1959年44号(かいたくちのみゆきちゃん)「こどものとも」1961年59号(みゆきちゃんまちへいく)
	A 12	作品		絵本原画5点
	B 11	資料		北大農学実科卒業論文(複写)、
ブロックⅥ	P 9	パネル		コーナー(ブロックⅥ)パネル
	A 13	作品	⑩	スケッチ「札幌近郊」4点
	C 8	キャプション	⑪	トピックス「ヒマラヤ・スケッチ旅行」
	M 1	地図	⑪	ヒマラヤ旅行行程図
	D 1	写真	⑪	「4400mの散歩」「4000mのキャンプにて」「Modi Kholoの吊り橋」松村雄撮影
	A 14	作品	⑪	スケッチ「ネパール'67・絵日記」3点
	A 15	作品	⑫	スケッチ「ネパール'67」2点
	A 16	作品	⑬	スケッチ「ネパール'67」3点
	A 17	作品	⑭	スケッチ「ネパール'72」4点(内2点複写)
手稲アトリエ時代 (60歳～75歳)	C 9	キャプション	⑮	トピックス「カナディアン・ロッキーの旅」
	A 18	作品	⑮	スケッチ「カナディアンロッキー'73」4点(内2点複写)
	A 19	作品	⑯	スケッチ「大雪山」4点(内2点複写)
	A 20	作品	⑰	スケッチ「十勝岳」4点(内2点複写)
	A 21	作品	⑱	スケッチ「羊蹄山」3点(内1点複写)
	A 22	作品	⑲	スケッチ「道東の山」3点(内1点複写)
	C 10	キャプション	⑳	トピックス「最後のスケッチブック」
	A 23	作品	⑳	スケッチ3点
ブロックⅦ	C 11	キャプション		トピックス「原野から見た日高山脈」のスケッチ
	M 2	地図		パノラマの視界
日高山脈パノラマ	A 24	作品		スケッチ「丸山から見た日高山脈」豊似時代のスケッチ12点から(すべて複写)
	M 3	地図		カシミール画像「十勝川河口から見た日高山脈」
	A 25	作品		油彩小品「原野から見た冬の日高山脈」
	B 12	資料		手紙「直行さんの絵について」
場外	A 26	作品		スケッチ「草花」5点(いずれも複写)
カフェブロック	A 27	作品		スケッチ「道内の山」5点(いずれも複写)

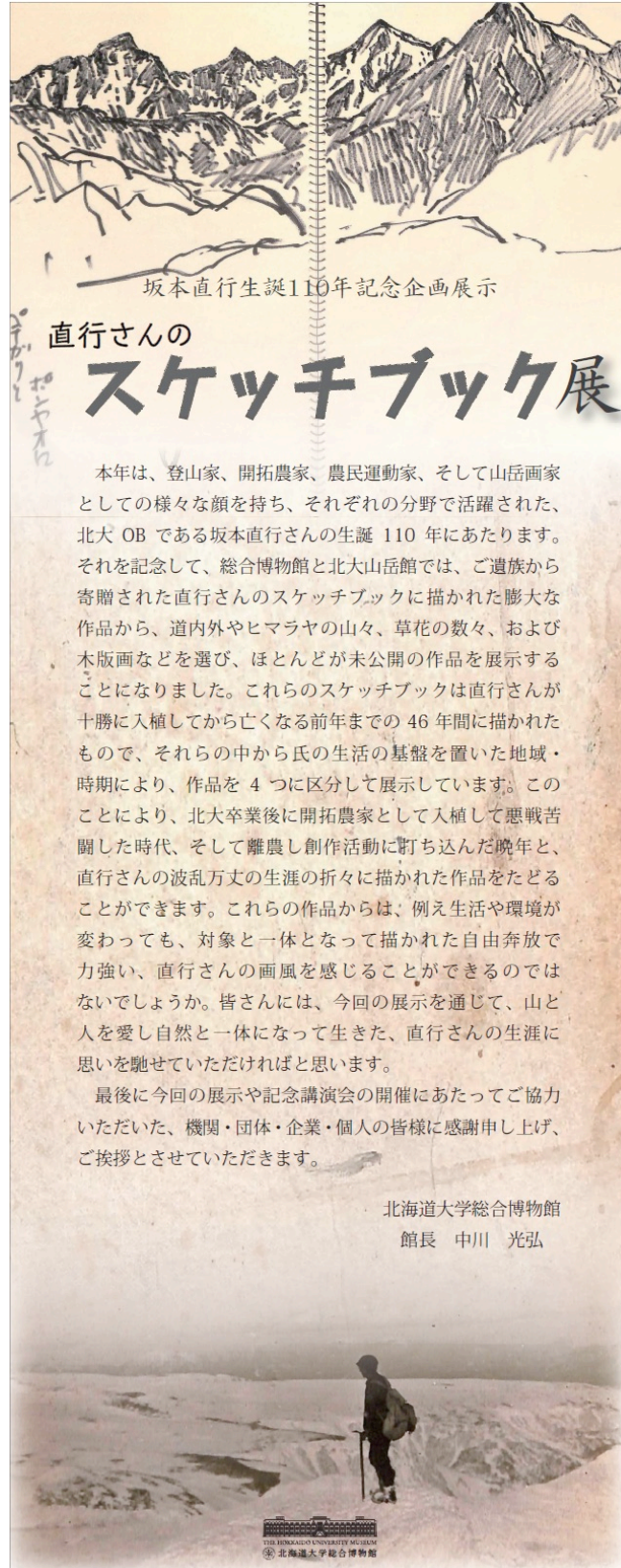
(3) 展示版画・スケッチリスト

ケース	作品No.	種別	画像No.	キャプション
				複写画は種別欄にPを記入
①	A1	1	木版画 NO.2	静物 札幌詩学協会 ひとぼろJ6号 (1925年11月発行)に掲載
		2	木版画 NO.4	石狩風景 ひとぼろJ6号 (1925年11月発行)に掲載
		3	木版画 NO.9	札幌二中旅行部部報 「タック」2号表紙 1928年発行
		4	木版画 NO.50	旅行部 1925 「追悼録」表紙 天狗岳
②	A2	1	木版画 NO.10	恵庭岳とオコタンベ湖
		2	木版画 NO.26	エサオマントツタベツ岳北東カール
		3	木版画 NO.42	富良野岳
		4	木版画 NO.33	十勝連峰
		5	木版画 NO.27	下ホロカメツク山
		6	木版画 NO.40	日高山脈
		7	木版画 NO.47	十勝本峰
		8	木版画 NO.46	冬のタンネ
		9	木版画 NO.48	上ホロカメツク山と八つ手岩
③	A3	1		1-2-00 スケッチブック表紙
	A4	1	P	1-2-03 1940年 上 :ソエマツ岳 下 :芦別岳本峰と夫婦岩
		2		1-1-01 1939年 冬の野塚川より野塚岳
		3	P	1-1-02 1939年 札内川八の沢上流よりカムイエクウチカウシ山
		4		1-2-01 上 :十勝岳泥流から美瑛富士と美瑛岳 下 :泥流から旭岳
		5		1-4-04 1957年5月19日 西クマネシリ岳よりニペソツ山
		6		1-5-04 1957年10月12日 ホロカより天狗岳
④	A5	1	P	1-8-10 1959年7月20日 トツタベツ岳よりボロシリ岳
		2		1-8-16 1959年7月21日 トツタベツ岳頂上より1940m峰
		3	P	1-8-27 1959年7月20日 トツタベツ岳鞍部よりトツタベツ岳
		4		2-12-03 1962年3月31日 佐幌ヒュッテより佐幌岳
⑤	A6	1		1-10-05 11月13日 誓いの丘より日高山脈 左より513峰-ピリカスプリ ソエマツ岳
	A7	1	水彩P	5-2-01 ツル夫人像 1956年4月19日
⑥	A8	1		2-14-02 1962年5月2日 扇ヶ原 然別より日高山脈
		2	P	2-15-16 1962年5月5日 十勝ボロシリ岳1485mより芽室岳
		3		2-26-02 1963年5月29日 大樹よりソエマツ岳のカールの残雪
		4	P	2-26-04 1963年5月29日 大樹より楽古岳と十勝岳
⑦	A9	1		2-4-22 1960年7月16日 釧沢小屋と釧岳
		2		2-5-08 1960年7月17日 釧山頂上よりハッ峯 遠景 :白馬岳、鍵ヶ岳
		3	P	2-6-33 1960年7月18日 釧沢二股より三の窓
		4	P	2-7-06 1960年7月20日 釧御前小屋より薬師岳
⑧	A10	1	P	2-19-14 1962年7月9日 飯豊山梶川尾根より十文字鞍部とカイヤギ岳
		2		2-21-01 1962年7月11日 門内小屋より飯豊山本峰
		3		2-22-09 1962年7月11日 御西より大日岳と水晶尾根
⑨	A11	1		2-32-06 1963年8月25日 赤岩より積丹半島を望む 歩々の会スケッチハイク
		2		2-35-08 1964年10月11日 北大植物園 歩々の会スケッチハイクにて
		3	P	3-78-01 1976年9月12日 紋別岳より支笏湖、樽前山、風不死岳
		4		3-80-01 1977年7月9日 浜豊似豊似川河口より 歩々の会15周年記念スケッチハイク
絵本	A12	1	水彩	5-3-01 みゆきちゃんまちへゆく
		2	水彩	5-3-02 みゆきちゃんまちへゆく
		3	水彩	5-3-03 かいたくちのみゆきちゃん
		4	水彩	5-3-04 かいたくちのみゆきちゃん
		5	水彩	5-3-05 みゆきちゃんまちへゆく
⑩	A13	1		3-9-07 1966年4月11日 宮の沢から手稲山
		2		3-19-05 1967年4月20日 中山峠より狭薄岳
		3		3-13-08 1966年5月19日 神威岬
		4		3-19-15 1967年4月24日 白老より樽前山
⑪	A14	1		3-21-03 1967年9月9日 CAMBODGE丸出航前 ヨコハマにて午後3時15分
		2		3-22-34 1967年9月29日 COLOMBO CEYLON 牛の給水車
		3		3-23-19 1967年10月7日 MADRAS STATON屋上より
⑫	A15	1		3-29-02 1968年1月16日 EVEREST, ROTSE, AMA DABLAM
		2		3-30-07 1968年1月18日 KANG TA GA
⑬	A16	1		3-31-05 1967年1月20日 DNGPOTSEよりLHOTSE & LHOTSE SHAR
		2		3-32-03 1968年1月21日 最奥の人家 (OVJE)
		3		3-33-09 1968年1月29日 コンデリ ナムチユにて
⑭	A17	1		3-61-07 1972年3月22日 TAJIMAHAL
		2	P	3-62-13 1972年4月14日 Water Hyasins Cubatta Botanical Gardenにて
		3		3-63-17 1972年3月28日 アンナプルナIIとラムジュン・ヒマール
		4	P	3-64-09 1972年3月31日 アンナプルナIV峰とシャクナゲ

ケース	作品No.	種別	画像No.	キャプション	
				複写画は種別欄にPを記入	
⑮	A18		3-70-05	1973年8月7日 カナディアン・ロッキーの旅 機上より湖と山	
			3-71-04	1973年8月10日 Mt Athabasca	
		P	3-71-10	1973年8月16日 アサバスカ氷河	
		P	3-72-04	1973年8月9日 ジャスパーにて	
⑯	A19		3-36-11	1968年7月31日 大雪高原温泉にて忠別方面を望む	
		P	3-36-05	1968年7月30日 大雪高原温泉大学沼	
			3-53-01	1970年10月12日 ニセイカウシュ山べより 凌雲岳、北鎮岳、比布岳、愛別岳	
		P	3-74-03	1974年6月21日朝 旭岳 勇駒別より	
⑰	A20	P	3-74-22	1974年7月6日 旭岳下より十勝連峰 快晴無風	
		P	3-76-13	1974年10月22日 白金より美瑛富士と美瑛岳	
			3-79-02	1977年1月5日 前十勝岳	
			3-79-07	1977年1月5日 雪の樹林	
⑱	A21	P	3-40-13	1969年4月29日 真狩村南登山口より羊蹄山	
			3-40-06	1969年4月29日 チセヌプリより羊蹄山	
			3-47-17	1970年5月24日 美比内山より羊蹄山	
⑲	A22		3-52-11	1970年10月11日 卯原内のサンゴ草原	
			3-55-06	1971年3月14日 塘路より雌阿寒岳	
		P	3-73-04	1973年12月30日 風連東橋にて風連湖	
⑳	A23		3-81-19	1981年1月6日 焼山	
			3-81-20	1981年1月6日 小金湯にて ななかまどとイタダリの種	
			3-81-21	1981年1月6日 きたごぶしの蕾	
パノラマ	A24	P組合せ	3-2-11	1965.4広尾岳・下のつかより	
			3-2-13	1965.4忠類円山よりラッコ連山	
			3-2-12	1965.4忠類円山よりトヨニ岳	
			2-26-23	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈	
			2-26-21	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈	
			2-27-14	1963.3忠類より 日高山脈	
			2-27-13	1963.3忠類より日高山脈	
			2-26-20	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈	
			2-26-22	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈	
			2-26-25	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈 札内、十勝ボロシリ、ピパイロ)	
			2-26-24	1964.2.4 忠類丸山より 日高山脈 (ムムロ)	
			2-26-26	1964.2.4丸山より北西望 (サホロ?と十勝連峰)	
	A25	1	油彩小品	原野から見た冬の日高山脈	
場外	A26	1	合成	3-15-05	
				3-15-06	コブシ
				3-15-07	
		2	合成	3-15-23	シナノキ
				3-15-28	
	3	合成	3-17-09	ツリバナ	
			3-17-35		
	4	合成	3-17-30	ツルシキミ	
			3-17-33		
	5	合成	5-1-07		
			5-1-08	カタクリ	
			5-1-11		
A27	1	P	2-10-13	野付半島より羅臼岳	
	2	P	2-14-07	東西ヌブカウシ山	
	3	P	2-27-03	第2発電所より阿寒富士と雌阿寒岳	
	4	P	2-35-14	流水とクナシリ島	
	5	P	3-42-19	勇払海岸より樽前山・風不死岳	

(4) 展示パネル・資料・スケッチ画

P 1 パネル「館長ご挨拶」



坂本直行生誕110年記念企画展示

直行さんの スケッチブック展

今年は、登山家、開拓農家、農民運動家、そして山岳画家としての様々な顔を持ち、それぞれの分野で活躍された、北大 OB である坂本直行さんの生誕 110 年にあたります。それを記念して、総合博物館と北大山岳館では、ご遺族から寄贈された直行さんのスケッチブックに描かれた膨大な作品から、道内外やヒマラヤの山々、草花の数々、および木版画などを選び、ほとんどが未公開の作品を展示することになりました。これらのスケッチブックは直行さんが十勝に入植してから亡くなる前年までの 46 年間に描かれたもので、それらの中から氏の生活の基盤を置いた地域・時期により、作品を 4 つに区分して展示しています。このことにより、北大卒業後に開拓農家として入植して悪戦苦闘した時代、そして離農し創作活動に打ち込んだ晩年と、直行さんの波乱万丈の生涯の折々に描かれた作品をたどることができます。これらの作品からは、例え生活や環境が変わっても、対象と一体となって描かれた自由奔放で力強い、直行さんの画風を感じることもできるのではないのでしょうか。皆さんには、今回の展示を通じて、山と人を愛し自然と一体になって生きた、直行さんの生涯に思いを馳せていただければと思います。

最後に今回の展示や記念講演会の開催にあたってご協力いただいた、機関・団体・企業・個人の皆様に感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

北海道大学総合博物館
館長 中川 光弘

北海道大学総合博物館
THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM

ブロック I イン트로ダクション

P 2 パネル「実行委員会ご挨拶」

坂本直行生誕 110 年記念

“ 直行さんのスケッチブック展 ”
ごあいさつ

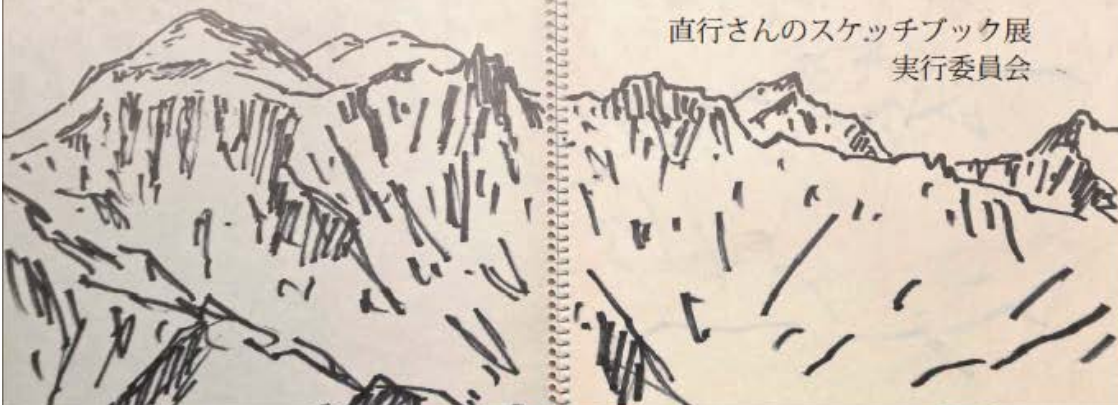
北大山岳館が収蔵する画家・坂本直行のスケッチブックは、十勝へ入植した 1936 年から亡くなる前年の 1981 年までの 136 冊、描かれているスケッチは 2500 点を超えます。画材はエンピツ、コンテ、サインペン、クレヨン、絵の具など、また、描かれているのは稜線のみを描きかけのものから、ていねいに彩色したものなど実に多彩です。しかし、その 1 点 1 点のどれからも、自然と一体となった直行さんを感じることができます。

本年が直行生誕 110 年にあたるのを記念して、北海道大学総合博物館と北大山岳館は“直行さんのスケッチブック展”を開催することになりました。直行さんの足跡をたどって、学生時代、十勝開拓時代、豊似時代、手稲アトリエ時代に区分し、それぞれの時代を代表するスケッチを選定、あわせて関連資料も展示しました。

展示スペースが限られることから、少しでも多くのスケッチを見ていただこうと、会期を前期と後期に分けてスケッチブックの入れ替えを行います。

どうぞ、画家・坂本直行の世界をお楽しみください。

直行さんのスケッチブック展
実行委員会



P3 パネル「直行さん経歴」

1982年(昭和57年)	5月2日、すいこう癌のため死去。
1981年(昭和56年)75歳	東京個展の際、体の不調を語る。
1976年(昭和51年)70歳	『私の草と木の絵本』茗荷堂より出版
1974年(昭和49年)68歳	北海道文化賞受賞
1973年(昭和48年)67歳	北大山岳部創立50周年記念カタタ・ロッキート登山隊にツル夫人と参加
1972年(昭和47年)66歳	3月と12月、再度ネパールへスケッチ旅行。
1968年(昭和43年)62歳	この年より1977年まで北海道自然保護協会理事を務める。大雪山縦貫道建設区村運動に参加
1967年(昭和42年)61歳	中央ネパール調査隊先遣隊(北大と三菱委員会選出)の隊長として、北大山岳部員らとネパールへ赴く。念願だったヒマラヤをスケッチ。
1965年(昭和40年)59歳	『雪原の足もと』茗荷堂より出版 手稲宮の沢に田上義也の設計になるアトリエ兼住宅を新築、移住する。

4 手稲アトリエ時代(60歳〜75歳)

1964年(昭和39年)58歳	『藤原真流』茗荷堂より出版 『私の草木集』紫雲社より出版
1962年(昭和37年)56歳	直行が代表の「歩々の会(ぼ々の会) 発足。この会は以後も続き、2012年の第50回画展を最後に幕を閉じた。
1961年(昭和36年)55歳	帯広千秋庵の花柄の包装紙をデザイン。
1960年(昭和35年)54歳	谷山岳、御岳にスケッチ旅行 30年にわたる原野での生活に終止符を打ち、豊根市街に移住。画業に転向、初めて電灯下で生活するようになった。

3 豊似アトリエ時代(54歳〜59歳)

1959年(昭和34年)53歳	この無償の仕事は以後まで続いた。 帯広千秋庵(現六花亭)小田豊四郎の運を借る。同社の児童誌『サイロ 御内』表紙絵やカットを描き始める。 第1回東京個展が成功、画家として立つことに自信を深める。以後2年毎に開催。
1957年(昭和32年)51歳	『原野から見た山』明交社より出版 彫刻家兼孝の知遇を得て札幌で個展を開催、成功を収める。以後毎年開催。
1946年(昭和21年)40歳	広尾町農村建設運動の初代委員長。以後10年余、農民運動に没入した。この間登山は禁断。
1945年(昭和20年)39歳	8月15日、太平洋戦争終結
1944年(昭和19年)38歳	疎遠になっていた父に初めて電話をかけ、念願の住宅が完成。
1942年(昭和17年)36歳	『開墾の足』長崎書店より出版 太平洋戦争始まる。
1941年(昭和16年)35歳	この年、冷害による記録に残る大凶作。一家は食べるものに事欠く困窮の極みを体験した。
1940年(昭和15年)34歳	牧場経営の可能性に向けてサイロを建設。 北大山岳部第2次冬期ベテカ登山隊が遭難し、部員8名が死亡。しばらくは仕事に手がつかぬほど落胆した。
1939年(昭和14年)33歳	年末から記録的大雪となり、家の中も雪に埋まる。
1938年(昭和13年)32歳	鑿子を買かめた東京の友人たちから巨額の個展を開催。作品80点を売却する。送られてきた礼金で社を購入。
1937年(昭和12年)31歳	『山、原野、牧場』を竹村書店より出版 飯間だらけの畑を立て小屋でツルと夫婦生活始める。生活資金を得るために炭焼も始める。炭焼きは15年間続いた。 北大山岳部第1次冬期ベテカ登山隊に参加するも、悪天候のため断念し下山。年末にもやむを得ずの家ができた。
1936年(昭和11年)30歳	広尾村下野塚に25町歩の土地を取得し成立。開墾の旗を下ろす。
1932年(昭和7年)26歳	冬、山岳部の後輩、相川修之柴田岳を一日で往復して初登頂、以後毎冬ごとに日高へ入る。 札幌門田のアイゼンとヒッケルを購入。
1930年(昭和5年)24歳	秋、十勝広尾で牧場を経営する同級生で友人の野崎健之助の誘いをうけ同地に赴き、牧場生活始める。

2 十勝原野開拓時代(23歳〜53歳)

1929年(昭和1年)23歳	札幌に帰り、念願の温泉園芸経営を目指す。父、赤太郎の出資が困難となり、計画は頓挫する。
1927年(昭和2年)21歳	北大卒業。温泉経営を目指し、東京の園芸会社に入社。
1926年(昭和元年)20歳	北大山岳部創立と同時に入部。
1924年(大正13年)18歳	北大農学専科に入学。スキー部に入部、近郊のスキー登山に情を出す。ほかに草花の栽培、陸生部、フリス部、野球部で活躍。
1919年(大正8年)13歳	羊蹄山に登頂し感動、初めて山の魅力を知る。山岳旅行部で近郊の山歩きに熱中。木彫削り始める。 札幌第二中学校(現札幌西高)へ入学。

1 札幌二中から北大農学専科時代(13歳〜22歳)

1914年(大正3年)8歳	前年末の釧路大火で被災。一家は札幌へ移住
1906年(明治39年)	祖父直實は龍馬の甥で自由民権家。道内のキリスト教伝道に力を尽くした。 7月26日、赤太郎、直實の次男として札幌に生まれる。

坂本直行 年譜

B1 資料「坂本直行著作初版本 7 冊」

- 「山・原野・牧場」 1937年 竹村書房
- 「開墾の記」 1942年 長崎書店
- 「原野から見た山」 1957年 朋文堂
- 「蝦夷糞尿譚」 1962年 ぷやら新書
- 「私の草木漫筆」 1964年 紫紅会
- 「雪原の足あと」 1965年 茗溪堂
- 「わたしの草と木の絵本」 1976年 茗溪堂

P4 パネル「直行の人柄・絵描きになった直行さん」



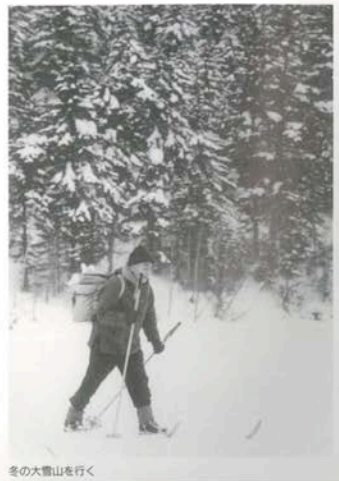
ランプの下での制作 広尾町下野塚の原野の自宅で 昭和34年頃

私が初めて下野塚の坂本牧場を訪れたのは、昭和十五年の十月も半ばを過ぎたよく晴れた日の午後であった。乾いた葉がカラカラと鳴っている柏林の中をバラ線の牧柵に沿ってゆくと、ぼつかり開けた草地に、三間に四間位の掘立て小屋があり、それが直行さんの家族、夫婦と幼児二人、の住居であった。二、三十間はなれて三頭の牛と一頭の馬の納まる牧舎があった。

入植してから五年目の牧場は、直行夫妻の血のにじむような努力にもかかわらず、南十勝の厳しい自然の前に、その経営は遅々として進まず、この時は丹精のサイロがやっとなブロックを積み終えて最後の屋根葺きにかかったところであった。

画かきになった直行さん

朝比奈英三



冬の大雪山に行く

開拓者から山岳画家へ

坂本つる

今考えても、背筋が寒くなるような開拓生活でした。希望に燃えて入植した開拓地でしたが、想像を絶する悪条件にはばまれ、年ごとに赤字が増え、やがて生活が立ち行かなくなりました。この先どうしたもか、と思案に明け暮れる毎日でした。そんなある日、何かのつてをたどって原野の一軒家に来て下さったのが彫刻家の峯孝先生です。

B2 資料「画材クレパス・絵の具」

ブロックⅡ 札幌二中～北大農学実科時代（13～22歳）

P5 コーナー(ブロックⅡ) パネル

1 札幌二中～北大農学実科時代 1919-1928（13歳～22歳）

札幌二中の山岳旅行部で活躍、山・草花のスケッチや木版画を始める。本人の証言によれば、ある山行では50枚のスケッチをしたという。

1924年（18歳）、北大農学実科に入学、北大スキー部に入り、スキー登山を盛んに行う。北大山岳部創立（1926年）と同時に入部し、道内の山を数多く登る。1927年3月、卒業記念に山岳部員とトムラウシ山に登頂。

北大の学生が中心になって1925年に創刊した詩誌「さとぼろ」に参加、木版画を出品する。ほかに、雑誌の表紙やカットなど、多くの木版画を制作している。



1927年3月20日 倶利伽羅山からトムラウシ山登頂。頂上の山岳部員たち
(撮影：坂本直行)

C1 トピックス「さとぼろ」「ヌタック」「旅行部追悼録」

「さとぼろ」1925（大正14）年、北大予科生らによって創刊された芸術誌。1929年までに29巻が発行された。

「ヌタック」札幌二中旅行部部報。1929年に1号、1930年に2号が発行された。

「旅行部追悼録」1925年、銭函天狗で遭難死した札幌二中旅行部員、久世廣吉君の追悼録

B 3 資料

「さとぼろ」1号～6号

二中「旅行部1925追悼録」

二中旅行部部報「ヌタック」1号2号

A 1 木版画「書籍を飾った版画」

1. NO.2 静物 札幌詩学協会「さとぼろ」6号に掲載



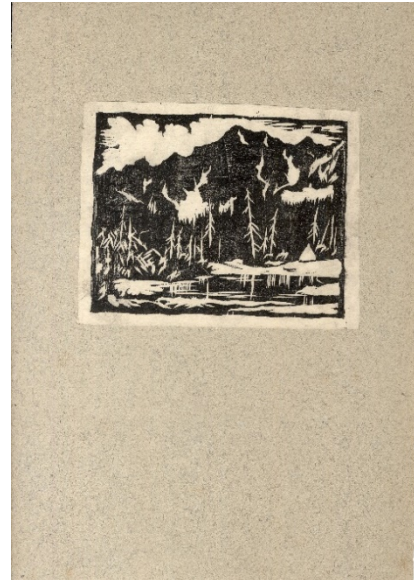
2. NO.4 石狩風景 「さとぼろ」6号に掲載



3. NO.9 札幌二中旅行部部報「ヌタック」2号表紙

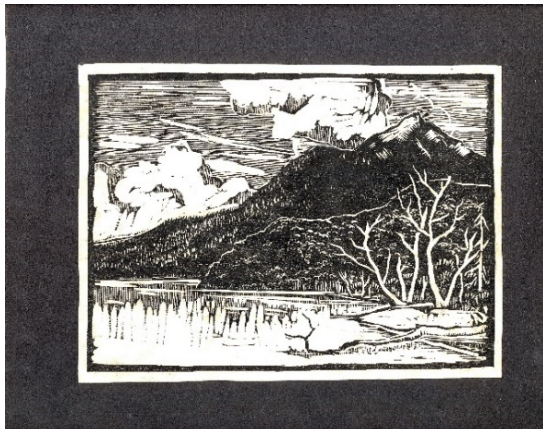


4. NO.50 「旅行部 1925 追悼録」表紙 天狗岳



A 2 木版画「山の版画」

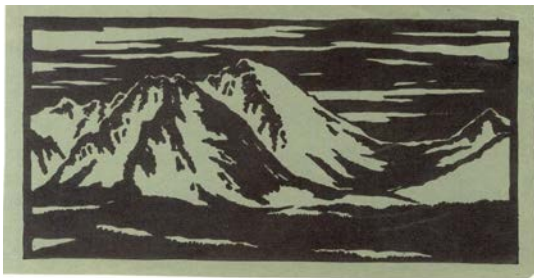
1. NO.10 恵庭岳とオコタンペ湖



2. NO.26 エサオマントッタベツ岳北東カール)



3. NO.42 富良野岳



4. NO.33 十勝連峰



5. NO.27 下ホロカメットク山



6. NO.40 日高山脈



7. NO.47 十勝本峰



8. NO.46 冬のタンネ



9. NO.48 上ホロカメットク山と八つ手岩



ブロックⅢ 十勝原野開拓時代（23歳～53歳）

P 6 コーナー(ブロックⅢ) パネルー1

2-1 十勝原野開拓時代

1929-1959（23歳～53歳）

北大卒業後の2年間、温室経営を志して東京で花卉栽培の修行をするも、予定していた父・弥太郎からの出資が得られず計画は挫折。

1930年（24歳）、牧場を経営する岳友・野崎健之助の招きで、十勝・広尾に生活の基盤を移し、5年間働く。この時期にヤオロマップ岳、楽古岳、ペテガリ岳など冬の日高山脈に意欲的な山行を行っている。

1936年（30歳）、下野塚に25ヘクタールの未墾地を購入、開拓生活に入る。悪戦苦闘の25年間は、借金が膨らむばかりの生活であった。そのような環境の中でも山へ登り、草花や風景をスケッチした。しかし、1946年からの10年間は矛盾する農政との戦いに明け暮れて登山は皆無、スケッチも少ない。



野崎牧場にて



1933年冬 ヤオロマップ岳山頂付近より北を望む

(撮影：坂本直行)

P 7 コーナー(ブロックⅢ) パネルー2

2-2 十勝原野開拓時代

1929-1959（23歳～53歳）

「山・原野・牧場」（1937年）、文部省推薦図書となった「開墾の記」（1942年）、「原野から見た山」（1957年）はこの時代の著作である。

1957年（51歳）、彫刻家・峯孝の勧めで札幌で個展を開催し、大成功を収めたことから、開拓生活に見切りをつけ、画家への転身を決意する。10年間しまい込んでいた山道具のほこりを払い、天狗岳に登り、しばらくぶりにスケッチの時を持った。そして、山の絵を描いて歩けるだけ歩いていこうと誓った。

この時代のスケッチブックは、1939年を最初の1冊としてわずか10冊を残すのみ。



1938年頃、下野塚開拓農場にて長男と

C 2 トピックス「ピッケル」「胸像」

ピッケル

札幌門田 1932（昭和7）年作 特殊鋼ピッケル。

ブロンズ像（レプリカ）

”直行さん“

峯 孝作 1956年作

高さ24cm（台座8cm含む）

B 4 資料「ピッケル」

B 5 資料「直行胸像(レプリカ)」

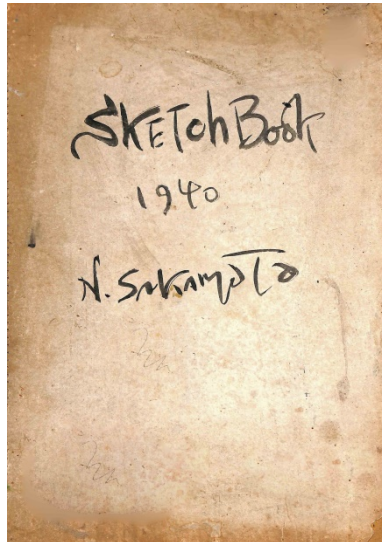
C3 トピックス「開拓時代初期のスケッチブック」

開拓時代初期のスケッチブック

主に鉛筆で日高山脈、農耕風景、生活、草花、表紙下絵など100点が、時には1頁に2段、3段に描がかれている。「開墾の記」で述べている豪雪、凶作などによる最も厳しい生活を強いられた時期のスケッチブック。

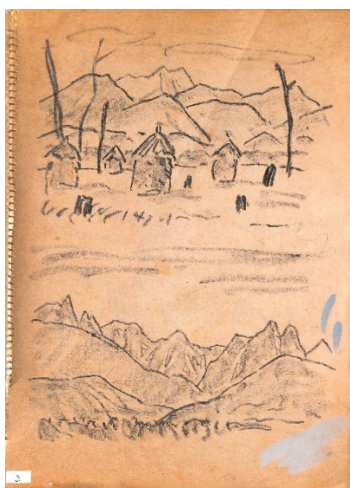
A3 スケッチ「開拓初期」 - 1

1. 1-2-00 スケッチブック表紙

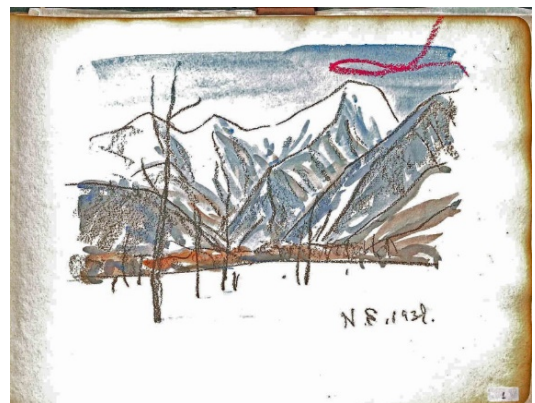


A4 スケッチ「開拓初期」 - 2

1. 1-2-03 1940年 上：ソエマツ岳 下：芦別岳本峰と夫婦岩



2. 1-1-01 1939年 冬の野塚川より野塚岳



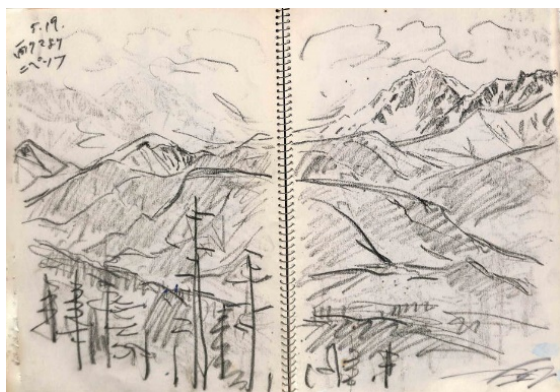
3. 1-1-02 1939年札内川八の沢上流よりカムイ
エクウチカウシ山



4. 1-2-01 上：十勝岳泥流から美瑛富士と
美瑛岳 下：泥流から旭岳



5. 1-4-04 1957年5月19日 西クマネシリ岳よりニペソツ山

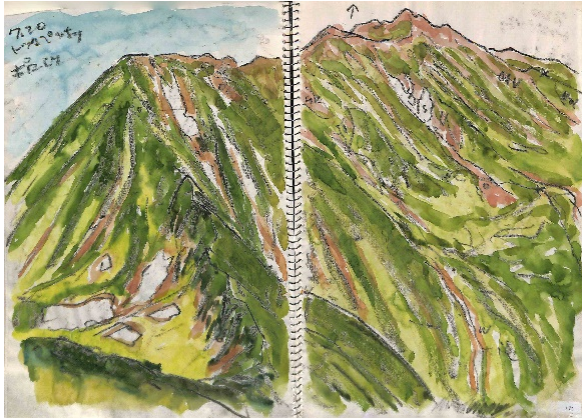


6. 1-5-04 1957年10月12日ホロカより天狗岳

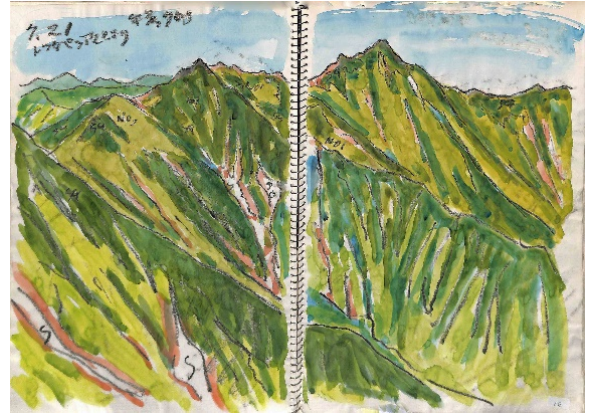


A 5 スケッチ「北日高山脈」

1. 1-8-10 1959年7月20日トッタベツ岳よりポロシリ岳



2. 1-8-16 1959年7月21日トッタベツ岳頂上より
1940m峰



3. 1-8-27 1959年7月20日トッタベツ岳鞍部よりトッタベツ岳



4. 2-12-03 1962年3月31日 佐幌ヒュッテより佐幌岳



C 4 トピックス「誓いの丘」

1959年11月13日 誓いの丘より日高山脈

原野を離れるにあたって、誓いの丘からのスケッチ。

誓いの丘とは開拓を始めるにあたって、新しい生活に向かってお互いに頑張ろうとツル夫人と誓い合った丘のこと。

A 6 スケッチ「誓いの丘より日高山脈」

1. 1-10-05 11月13日 誓いの丘より日高山脈 左より1513峰・ピリカヌブリーソエマツ岳



A 7 水彩「ツル夫人像」1956年4月19日



B 6 資料

「開墾の記」復刻版1992年

「続開墾の記」1994年

ブロックⅣ 豊似アトリエ時代 (54歳～59歳)

P 8 コーナー(ブロックⅣ) パネル

3 豊似アトリエ時代

1960-1965 (54歳～59歳)

1960年(54歳)、豊似市街の借家へ移り、アトリエを開く。この時代は5年間と短い、各地に精力的なスケッチ旅行を行い、46冊のスケッチブックを残している。帯広千秋庵(のちの六花亭)の小田豊四郎氏の依頼で児童詩誌「サイロ」に表紙・カットを無償で描き始め、また、有名な花柄模様の包装紙もこの時代の作である。

代表的な絵「原野から見た日高山脈」のスケッチが、豊似を離れる直前の1964年から1965年にかけて、写生位置を変えながら数多く描かれている。



1960年6月8日 原野を去る前日の直行夫妻
(撮影：鮫島惇一郎)

その人柄と生き様を慕って、開拓生活時代と豊似時代に坂本家へ685名が訪れ、589名が宿泊していった。貧しい生活の中での坂本家の心のこもったおもてなしに対する感謝、原野や山へのあこがれ、新たな人生への思いなどを訪れた者たちが「お宿帳」に記していった。

B 7 資料「個展案内状2通」

C 5 トピックス「お宿帳」

坂本ご夫妻の人柄と生き様を慕って、開拓生活時代と豊似時代に坂本家へ685名が訪れ、589名が宿泊していった。

貧しい生活の中での坂本家の心のこもったおもてなしに対する感謝、原野・山へのあこがれ、新たな人生への思いなどを訪れた者たちが「お宿帳」4冊に記帳していった。

B 8 資料「お宿帳 4冊」(実物)

A 8 スケッチ「日高山脈」

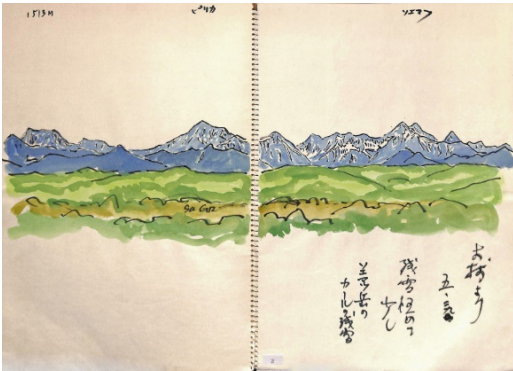
1. 2-14-02 1962年5月2日扇ヶ原(然別)より日高山脈



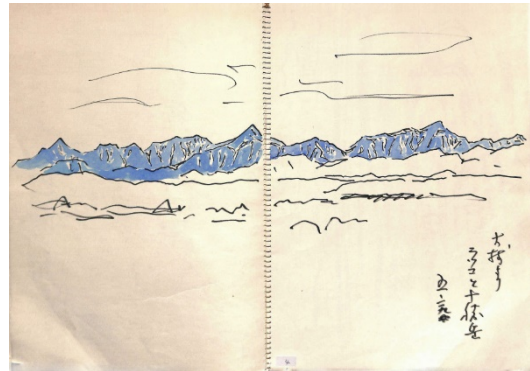
2. 2-15-16 1962年5月5日十勝ボロシリ岳 1485mより
芽室岳



3. 2-26-02 1963年5月29日大樹よりソエマツ岳のカールの残雪



4. 2-26-04 1963年5月29日大樹より楽古岳と十勝岳



A 9 スケッチ「劔岳」

1. 2-4-22 1960年7月16日 劔沢小屋と劔岳



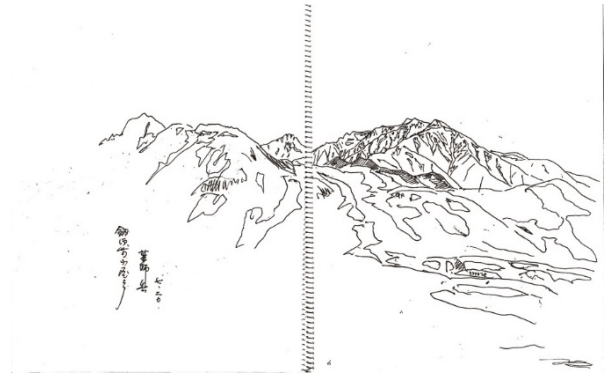
2. 2-5-08 1960年7月17日 劔山頂上より八ッ峯
遠景：白馬岳、鎗ヶ岳



3. 2-6-33 1960年7月18日 剣沢二股より三の窓



4. 2-7-06 1960年7月20日 剣御前小屋より薬師岳



A10 スケッチ「飯豊山」

1. 2-19-14 1962年7月9日 飯豊山梶川尾根より



2. 2-21-01 1962年7月11日 日門内小屋より飯豊山本峰
十文字鞍部とカイラギ岳



3. 2-22-09 1962年7月11日 御西より大日岳と水晶尾根



C6 トピックス「歩々の会」と「札幌から見える山」

“歩々の会”（ぼっぼの会）

原野時代の長い苦しい生活の中にあっても持ち続けた、自然の美しさを絵筆に託して多くの人と分かち合い、楽しみたいとの夢に満ちた直行の発想は、1962年、彼を敬愛する者たちが集まって“歩々の会”として発足した。年1回開催された画展は直行の没後も続き、2012年の50回をもって終焉した。直行は年に数回のスケッチハイクを楽しみ、描いたスケッチブックを大切に保存していた。

「札幌から見える山」1981年 朝比奈英三・鮫島惇一郎編

「札幌から見える山」1981年5月北大図書刊行会 歩々の会メンバーが描いた札幌から見える山と北大山岳部の部員らが撮影した写真から構成された図版。

B9 資料

「札幌から見える山」1981年5月 北大図書刊行会

「歩々画展目録 第1回—30回」1993年（鮫島惇一郎の手製）

「歩々画展目録 第31回—50回」2012年（鮫島惇一郎の手製）

A11 スケッチ「歩々の会」

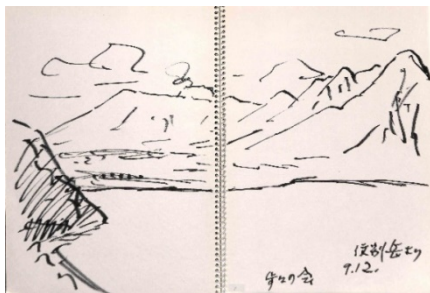
1.2-32-06 1963年8月25日赤岩より積丹半島を望む



2.2-35-08 1964年10月11日北大植物園



3.3-78-01 1976年9月12日紋別岳より支笏湖、樽前山、
風不死岳



4.3-80-01 1977年7月9日浜豊似豊似川河口より
歩々の会15周年記念

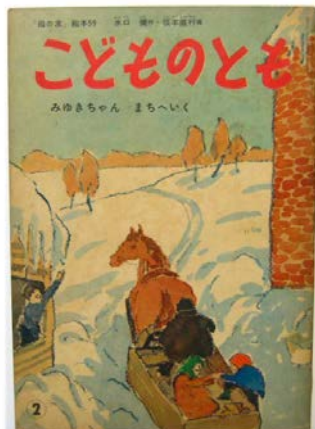


ブロックV 卒論、絵本コーナー（22歳、50歳、54歳）

C7 トピックス「直行さんの絵本」

直行さんは1956年と1961年に、福音館書店の月刊絵本「こどものとも」2冊のために末娘美雪さんをモデルに20枚の絵を描いている。いずれも文章は水口健氏である。習作を含む原画5枚を展示。

1961年59号「みゆきちゃんまちへいく」 1959年44号「かいたくちのみゆきちゃん」



1952年創立の福音館書店は、当代一流の著者・画家が子供のために全力を注いでつくる「大人も子どももいっしょに感動できるすぐれた絵本」を旗印に、1956年4月、月刊誌「こどものとも」を創刊した。福音館書店はこの子供のための物語絵本を出版から60年を経た現在も月刊誌として続けている。

B10 資料「福音館出版絵本2冊」

「こどものとも」1959年44号（かいたくちのみゆきちゃん）

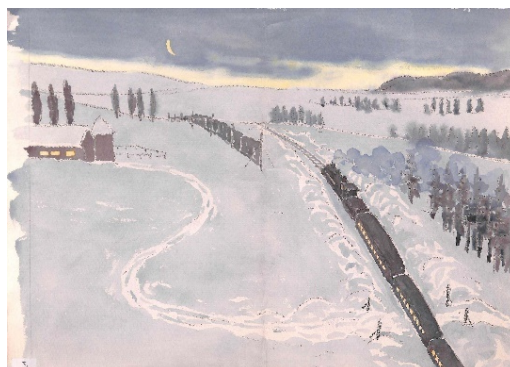
「こどものとも」1961年59号（みゆきちゃんまちへいく）

A12 絵本原画水彩 5点

1. 5-3-01 みゆきちゃんまちへゆく



2. 5-3-02 みゆきちゃんまちへゆく



3. 5-3-03 かいたくちのみゆきちゃん



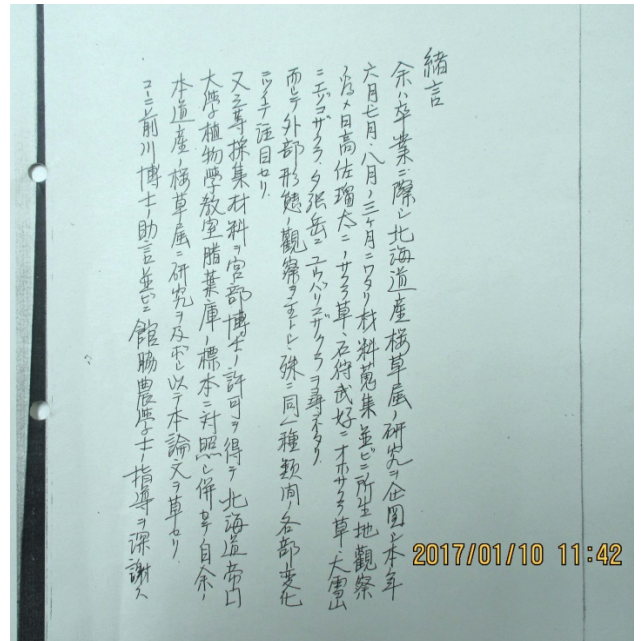
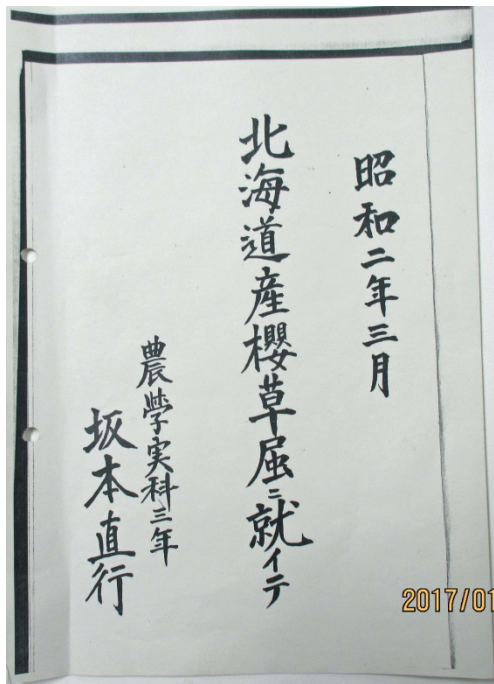
4. 5-3-04 かいたくちのみゆきちゃん



5. 5-3-05 みゆきちゃんまちへゆく



B 11 資料「北大農学実科卒業論文（複写）」



4 手稲アトリエ時代

1966-1981 (60歳～75歳)

1965年(59歳)、「さとぼろ」時代の友人で著名な建築家・田上義也氏の設計になる手稲宮の沢の新居に移住した。

この時代の特筆すべきスケッチ旅行は、1967年9月から1968年2月にかけての北大山岳部員らとのヒマラヤである。念願だったヒマラヤをスケッチブックに叩き込むように描写している。その後、1972年と73年にも短期のスケッチ旅行に出かけている。海外へはヒマラヤのほか、1973年の北大山岳部創立五十周年記念ロッキー山脈の旅にツル夫人とともに参加した。

1974年(68歳)、北海道文化賞を受賞した。

人々を魅了した山と草花の絵画が、この時代に描かれたスケッチブック73冊からも多く生まれている。



1966年4月12日 手稲の自宅

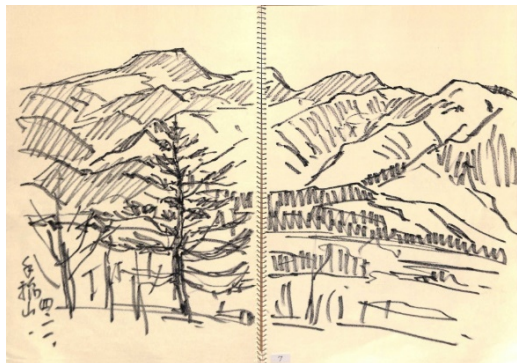


1974年6月9日 オコタンベ湖にて

(撮影：鮫島惇一郎)

A13 スケッチ「札幌近郊」

1. 3-9-07 1966年4月11日 宮の沢から手稲山



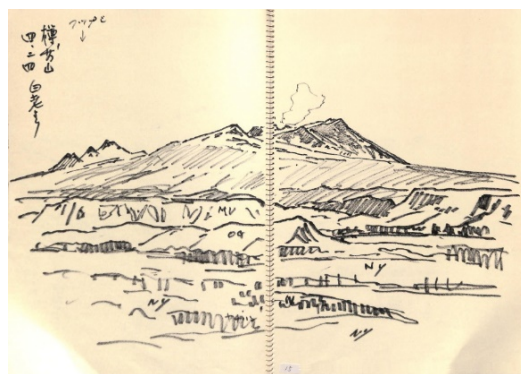
2. 3-19-05 1967年4月20日 中山峠より狭薄岳



3. 3-13-08 1966年5月19日 神威岬



4. 3-19-15 1967年4月24日 白老より樽前山



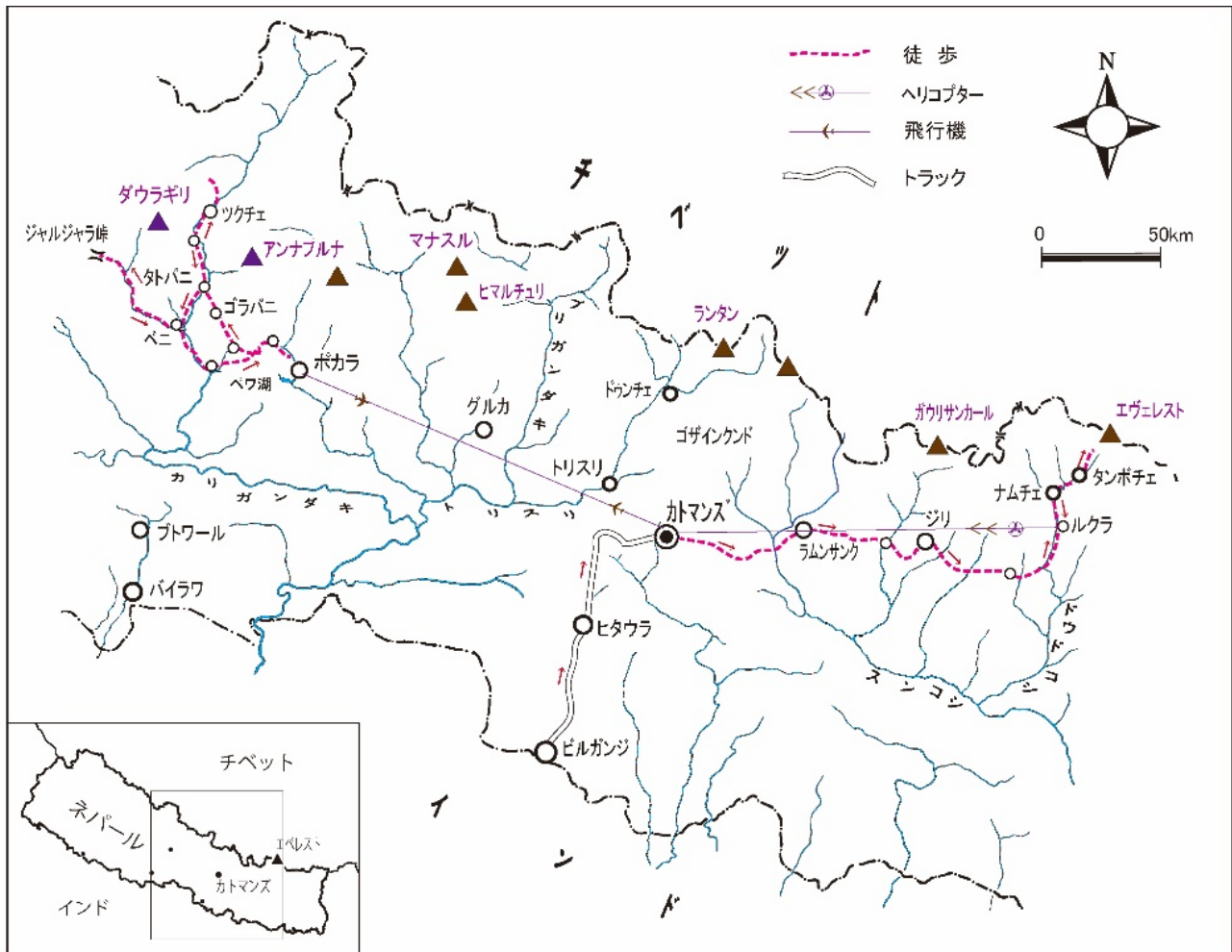
C8 トピックス「ヒマラヤ・スケッチ旅行」

ヒマラヤ・スケッチ旅行

中央ネパール学術調査隊先遣隊の団長として、61歳ながら北大山岳部員とともに1967年9月から翌年2月まで、ポカラからツクチェ方面、ナムチェバザールからゴラクシェップ方面を旅した。小ぶりのスケッチブックを使って“旅の日記”、大判のスケッチブックを使って山を描いている。

1972年、1973年にも短期のヒマラヤ旅行を行っている。

M1 地図「ヒマラヤ旅行行程図」



D1 ヒマラヤのスナップ

1. 4400mの散歩 松村雄撮影



2. 4000mのキャンプにて 松村雄撮影



3. Modi Khola の吊り橋 松村雄撮影



A14 スケッチ「ネパール'67・絵日記」

1. 3-21-03 1967年9月9日 CAMBODGE 丸出航前ヨコハマにて午後3時15分



2. 3-22-34 1967年9月29日 COLOMBO CEYLON 牛の給水車



3. 3-23-19 1967年10月7日 MADRAS STATION 屋上より



A15 スケッチ「ネパール'67」

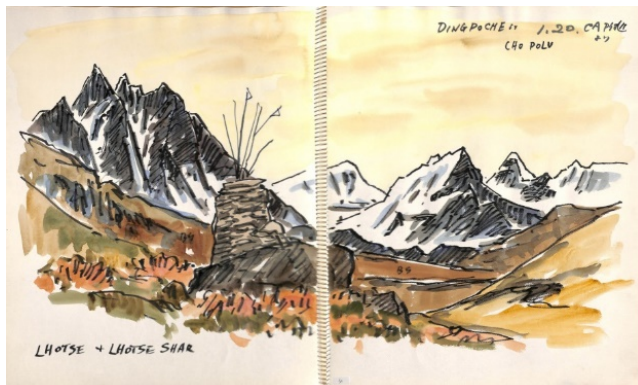
1. 3-29-02 1968年1月16日 EVEREST, ROTSE, AMA DABLAM 2. 3-30-07 1968年1月18日 KANG TAIGA



A16 スケッチ「ネパール'67」

1. 3-31-05 1967年1月20日 DINGPOTSE より

LHOTSE & LHOTSE SHAR



2. 3-32-03 1968年1月21日 最奥の人家 (LOVJE)

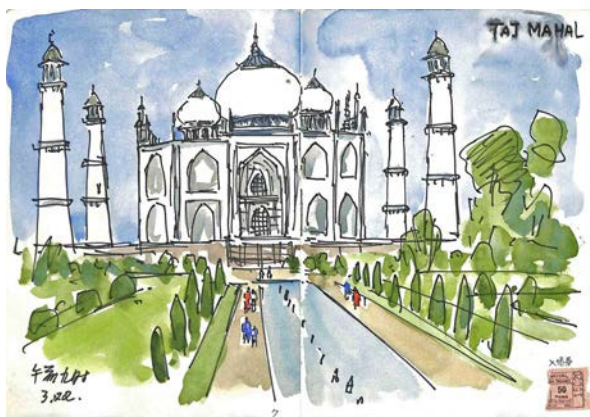


3. 3-33-09 1968年1月29日 コンデリ ナムチェにて



A17 スケッチ「ネパール'72」

1. 3-61-07 1972年3月22日 TAJI MAHAL



2. 3-62-13 1972年4月14日 Water Hyasins

Culcatta Botanical Gardenにて



3. 3-63-17 1972年3月28日 アンナプルナIIと
ラムジュン・ヒマール



4. 3-64-09 1972年3月31日 アンナプルナIV峰と
シャクナゲ



C9 トピックス「カナディアン・ロッキーの旅」

1973年8月、北大山岳部創立五十周年記念山行カナディアンロッキー・コロンビア山のトレッキング班にツル夫人と参加、2週間の旅を楽しんだ。

A18 スケッチ「カナディアン・ロッキー'73」

1. 3-70-05 1973年8月7日カナディアン・ロッキーの旅
機上より湖と山



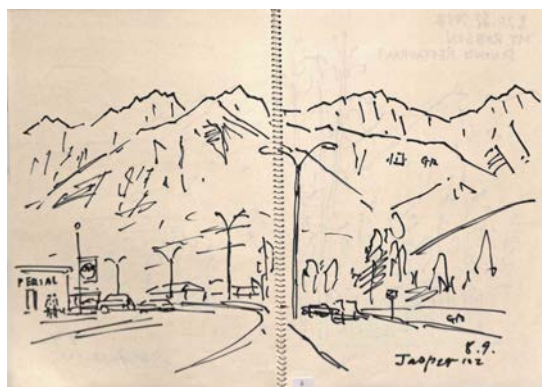
2. 3-71-04 1973年8月10日 Mt. Athabasca



3. 3-71-10 1973年8月16日 アサバスカ氷河

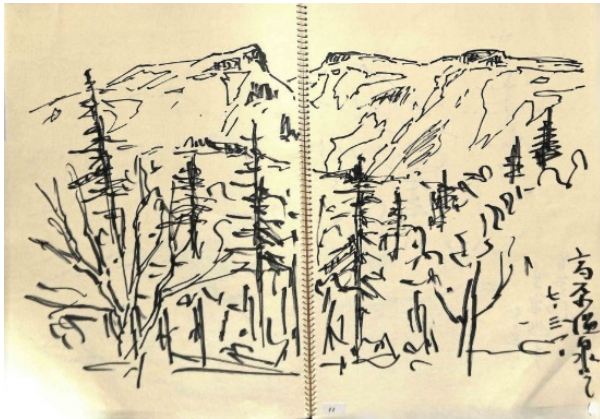


4. 3-72-04 1973年8月9日 ジャスパーにて

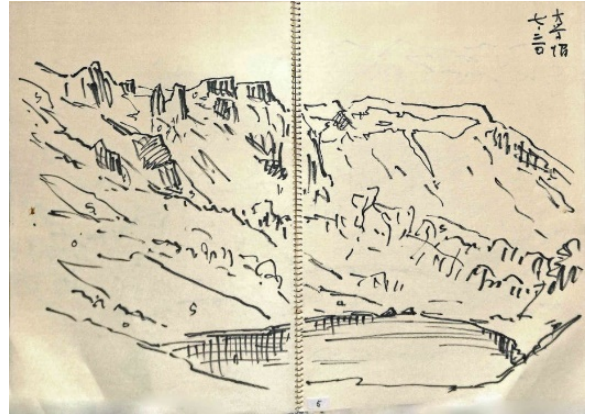


A19 スケッチ「大雪山」

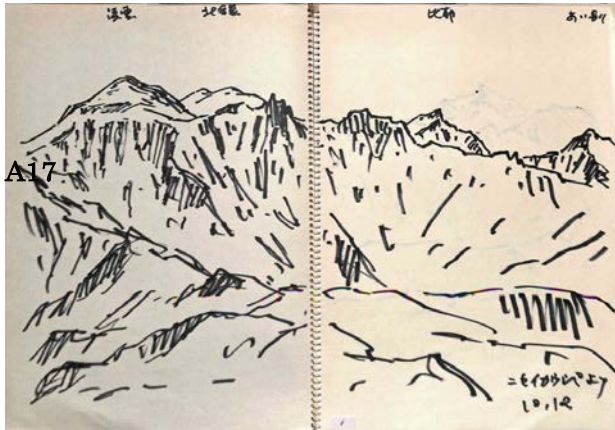
1. 3-36-11 1968年7月31日大雪高原温泉にて忠別方面を望む



2. 3-36-05 1968年7月30日大雪高原温泉大学沼



3. 3-53-01 1970年10月12日ニセイカウシュ山ペより
凌雲岳、北鎮岳、比布岳、愛別岳



4. 3-74-03 1974年6月21日朝旭岳 勇駒別より



A20 スケッチ「十勝岳」

1. 3-74-22 1974年7月6日旭岳下より十勝連峰快晴無風



2. 3-76-13 1974年10月22日 白金より美瑛富士と美瑛岳



3. 3-79-02 1977年1月5日 前十勝岳

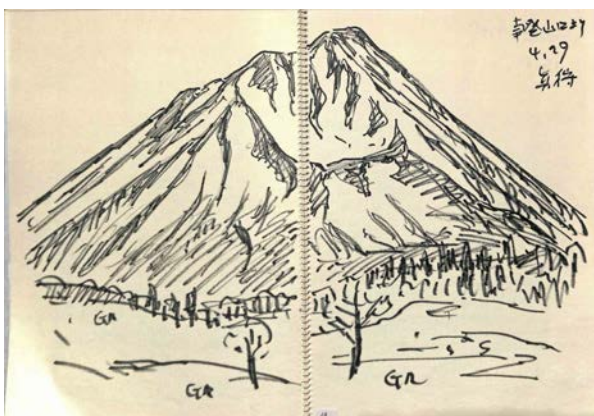


4. 3-79-07 1977年1月5日 雪の樹林

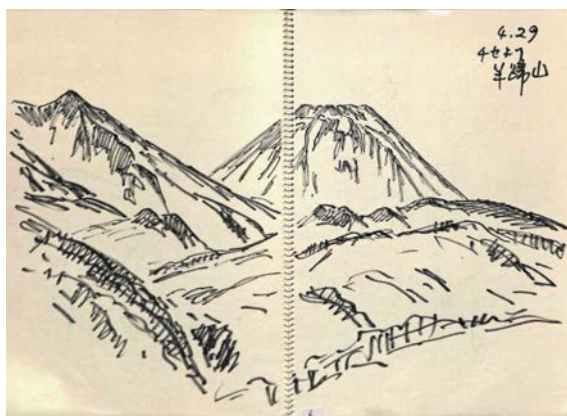


A21 スケッチ「羊蹄山」

1. 3-40-13 1969年4月29日真狩村南登山口より羊蹄山



2. 3-40-06 1969年4月29日チセヌプリより羊蹄山



3. 3-47-17 1970年5月24日美比内山より羊蹄山

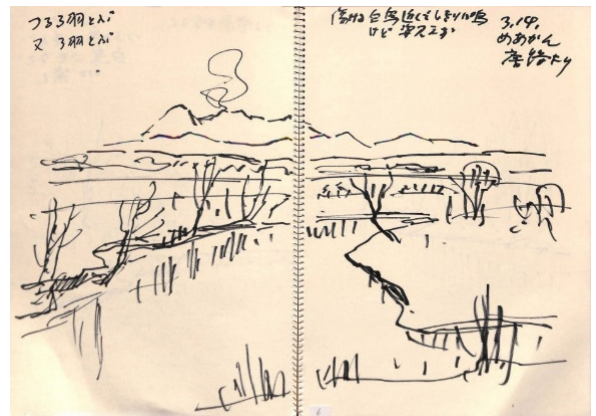


A22 スケッチ「道東の山」

1. 3-52-11 1970年10月11日 卯原内のサンゴ草原



2. 3-55-06 1971年3月14日 塘路より雌阿寒岳



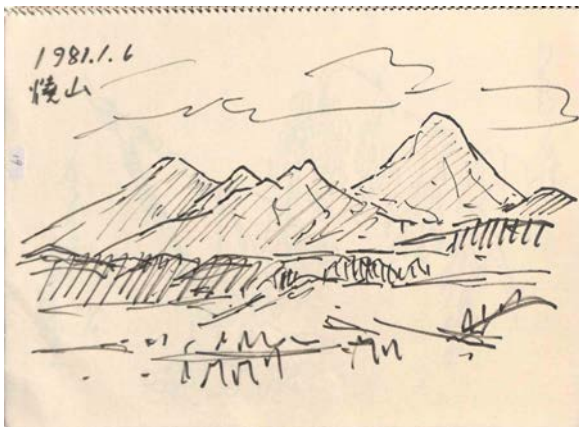
3. 3-73-04 1973年12月30日 風連東橋にて風連湖



C10 トピックス 「1980年7月20日～1981年1月6日 最後のスケッチブック」

A23 スケッチ「最後のスケッチブック」

1. 3-81-19 1981年1月6日 焼山



2. 3-81-20 1981年1月6日 小金湯にて

ななかまどとイタダリの種



3. 3-81-21 1981年1月6日 きたこぶしの蕾

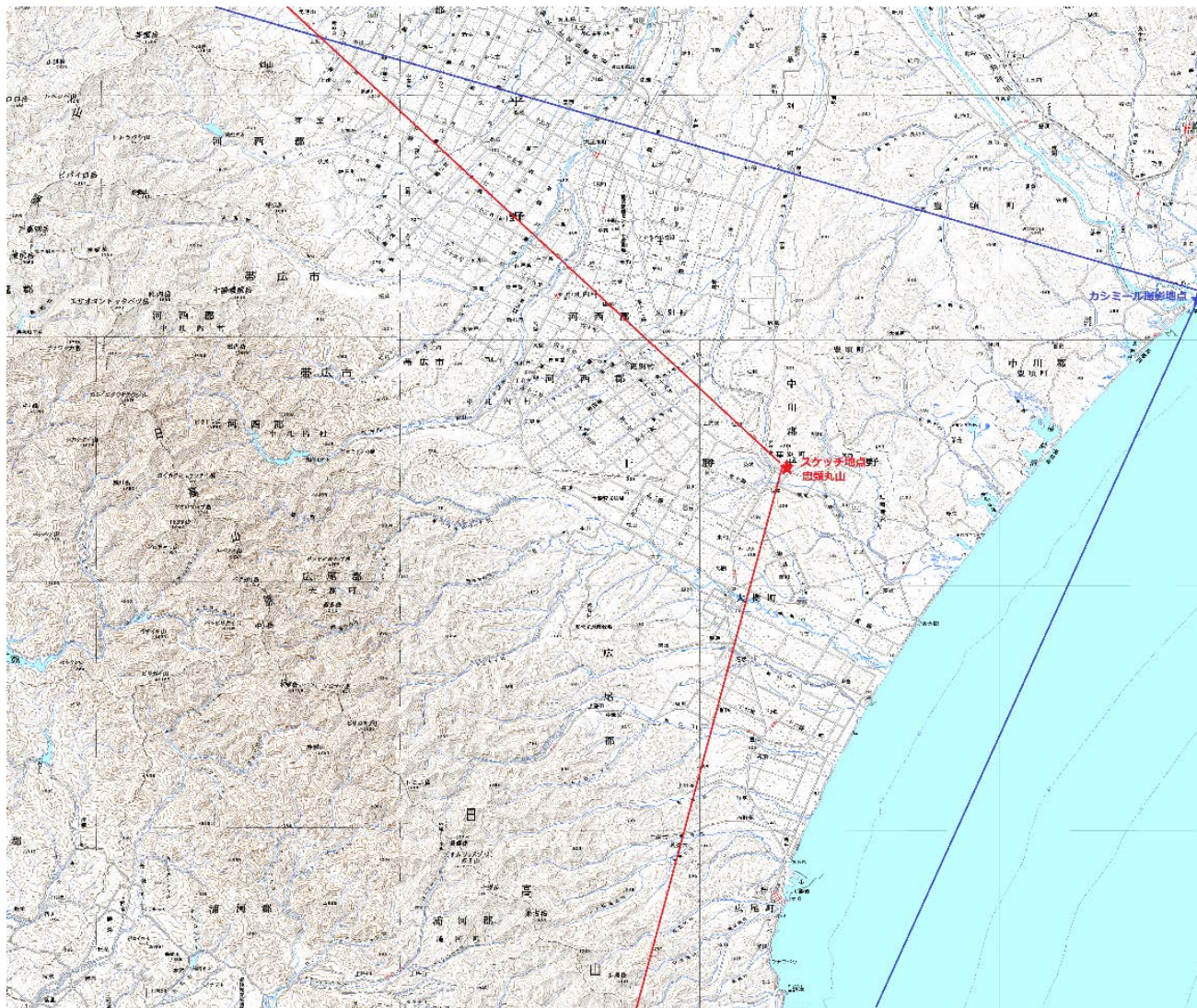


ブロックⅦ 日高山脈パノラマ

C11 トピックス「原野から見た日高山脈」のスケッチ

1965年、札幌移住の前年、豊似を離れるにあたって十勝各地より見た日高山脈をスケッチした。画家が見た日高山脈を、スケッチに地形図・カシミール画像を対比させて再現する。

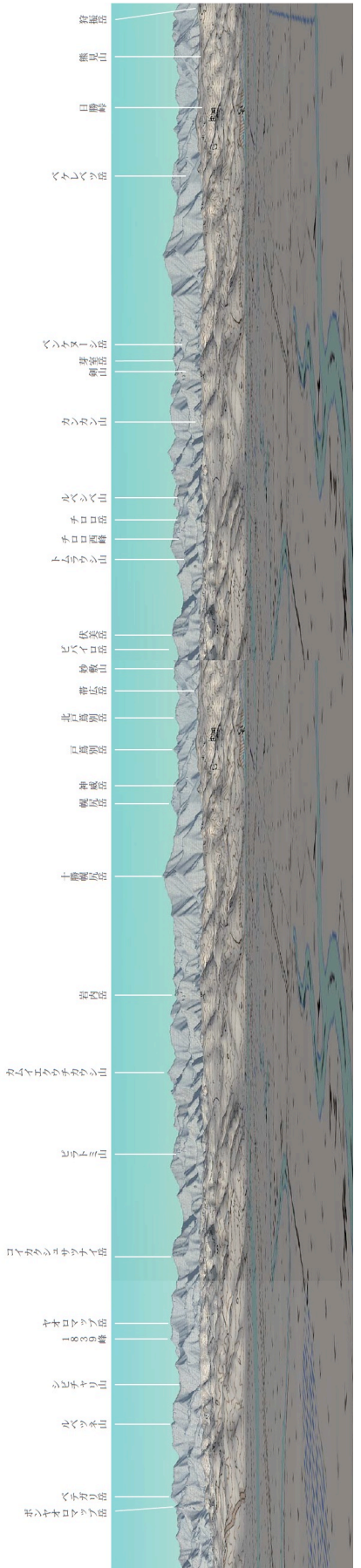
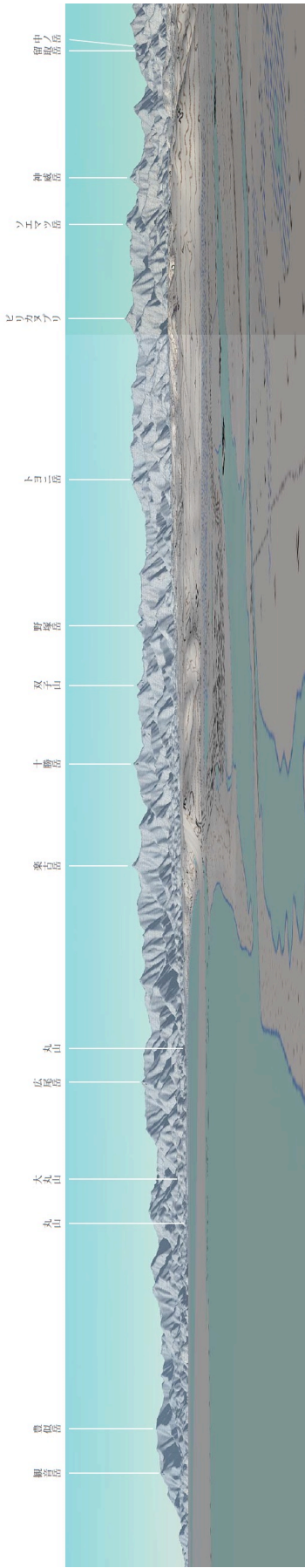
M2 地図「パノラマの視界」スケッチ地点と対象



A24 スケッチ「丸山から見た日高山脈」豊似時代のスケッチ 12点から (すべて複写)



M3 カシミール地図画像「十勝川河口から見た日高山脈」



A25 油彩小品：「原野から見た冬の日高山脈」

(更別付近から見たヤオロマップ岳)



B12 手紙「直行さんの絵について」(北大山の会会報 79号)

熊野純男

山岳館に寄贈したペテガリ岳の油絵についてお知らせします。

昭和30年頃の暮れのことです。当時原野におられた坂本直行さんから、鶏1羽を包んで送ってくれた包装紙がこの油絵です。開いてびっくりしました。この肉を送るためにF6号の油絵を木枠から外して、その裏に(写真参照)宛先を書いたものでした。この意味が分かった時の感激は一生忘れません。早速、F4号の木枠に張り直し、額に入れて教室のF教授に部屋に飾ってありました。いずれ山岳部のルームにでもと思っておりましたが、山岳館の壁面を飾るのに相応しいと思いました。この絵は上更別から見たものと思われます。

(注：ペテガリ岳はヤオロマップ岳の誤り)

(5) 場外展示

カフェに掲示

A26 スケッチ「草花」5点 (いずれも複写合成)

1. 3-15-05 3-15-06 3-15-07 コブシ



2. 3-15-23 3-15-28 シナノキ



3. 3-17-09 3-17-35 ツリバナ



4. 3-17-30 3-17-33 ツルシキミ



5. 5-1-07 5-1-08 5-1-11 カタクリ



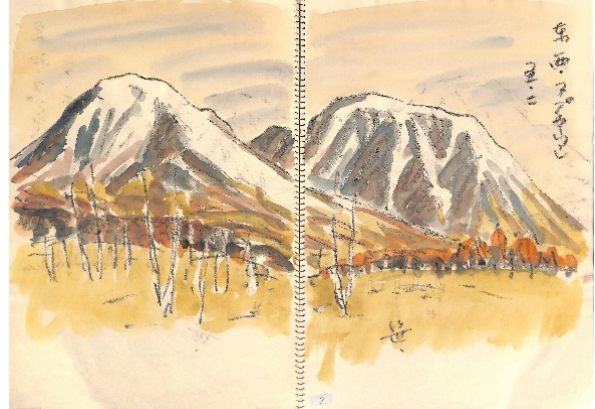
A27 スケッチ「道内の山」5点

知の交差点に掲示

1. 2-10-13 野付半島より羅臼岳



2. 2-14-07 東西ヌプカウシ山



3. 2-27-03 第2発電所より阿寒富士と雌阿寒岳



4. 2-35-14 流氷とクナシリ島

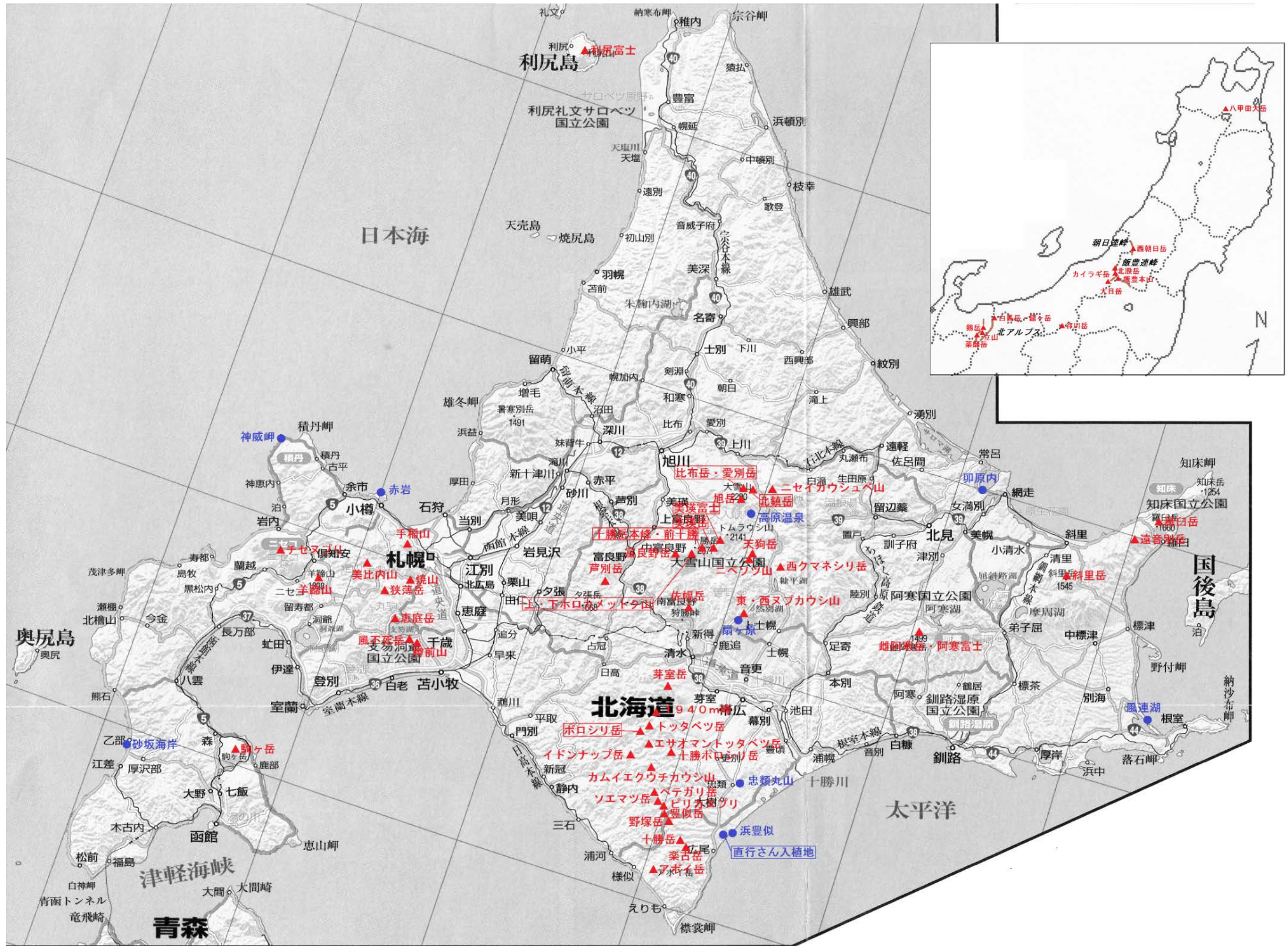


5. 3-42-19 勇払海岸より樽前山・風不死岳



直行さんに描かれた山々

▲山名：描かれた山（□内は引き出し線で示した山名） ●地名：山以外のスケッチポイントや関連するところ



10. ビデオ映写 ビデオブース

直行さん肉声を放送

展示スケッチを放映



ビデオ映写風景



ビデオ映写風景

1 1. 謝辞（会場に掲示）

謝辞

坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」の開催にあたり、多くの皆様方のご援助、ご協力をいただきました。

ここに記して感謝申し上げます。

高知県立坂本龍馬記念館

前田由紀枝

北海道立近代美術館

佐藤由美加

北海道大学総合博物館

中川光弘 高橋英樹 西本結美 高橋一葉 村上麻季 山本ひとみ

古田未央 志津木真理子

北海道教育大学旭川分校

斉藤和範

株式会社秀岳荘

金井哲夫 小野浩二

北大山とスキーの会

梅沢 俊

北大山の会

鮫島惇一郎 矢野 実 小泉章夫 石田隆雄 柏原 潔

「直行さんのスケッチブック展」実行委員会

大原昌宏 在田一則 中村晴彦

1 2. 記念講演会 於：北海道大学総合博物館

ポスター

坂本直行生誕110年記念企画展示
直行さんのスケッチブック展 Chokko's Sketch Books
前期：2016年11月4日(金) ▶ 12月4日(日)
後期：2016年12月6日(火) ▶ 2017年1月9日(月・祝)

記念講演会

参加費無料・申込不要

会場：北海道大学総合博物館 3階 N308 講義室
時間：13:30～15:00

第1回：11月19日(土)

「山岳画家としての坂本直行」 佐藤 由美加 (北海道立近代美術館 主任学芸員)

坂本直行は、日高山脈を望む十勝の地に30年暮らした開拓農民で山岳画家でした。北大山岳部の創立メンバーだった坂本は、在学中にほとんどの北海道の山を歩いたといえます。はじめて目にした十勝の原野と日高山脈の美しさに、感激し、やがて、日高山脈を見渡することができる場所に自ら開拓農民として入植しました。

広大な北海道には、さまざまなタイプのたくさんの山があり、道内外の多くの画家が作品を描いています。北海道の南半分を占める日高山脈を描く画家はほとんどいません。坂本は、日本で最も日高山脈を描いた画家といえます。山を描いたさまざまな作家・作品と比較しながら、生涯、山と原野を愛し続けた坂本直行を紹介します。

第2回：11月20日(日)

「直行さんと歩々の会」 鮫島 惇一郎 (北大山の会)

明日、原野の家を離れて市街へ移るんだから泊まってゆけと直行さんが言う夜でした。農を捨て画業に専念するつもりだが、その傍らに素人画家集団を作ってみようかと思っていると言われるのです。「歩々の会」結成の糸口でありました。そして1962年の暮、第一回の展覧会となるわけです。会員は直行さんの人柄に魅了されながら、年に数回のスケッチハイク、冬にはスキー遠足などと自然を楽しむことができました。しかし、残念ながら1982年の春に他界されてしまいました。直行さんが亡くなっても、引き続き会長は直行さんでしたが、五十回を最後に会を閉じました。その過ぎ去った日々を辿ってみましょう。

第3回：11月27日(日)

「龍馬と直行」 前田 由紀枝 (高知県立坂本龍馬記念館 学芸課長)

龍馬と直行は同じ「坂本一族」のメンバー。つまり、北海道の人たちが親しんでいる農民画家チョッコウさんは、幕末の志士・坂本龍馬の子孫なのです。海援隊長・龍馬は北海道開拓を考えていましたが、暗殺により頓挫。代わるように120年前、直行の祖父・直寛が家族とともに土佐の高知から渡道してきました。坂本一族に流れる反骨精神。龍馬を語ることのなかった直行もまた、土佐の反骨“いごっそう”でした。二人の生涯をご紹介します。

お問合せ
〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目
TEL 011-706-2658

北海道大学総合博物館

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

(1) 第1回講演会「坂本直行の山岳画」

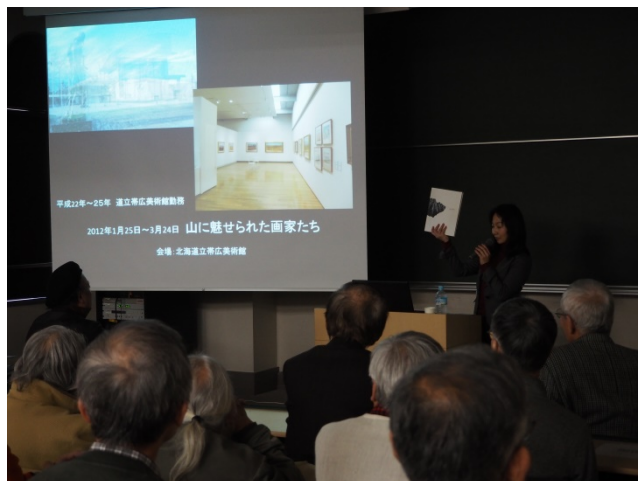
2016年11月19日（土）午後1時半～3時

講師：佐藤真由美氏 北海道道立美術館主任学芸員

講演要旨：

坂本直行は、日高山脈を望む十勝に30年暮らした開拓農民で山岳画家であった。北大山岳部の創立メンバーだった坂本は、在学中に北海道の山を積極的に歩いたという。昭和5年、岳友の野崎健之助に誘われて訪れた野崎牧場から、はじめて目にした十勝の原野と日高山脈の美しさに感激し、十勝の原野で生きていくことを決心した。野崎牧場での5年間の牧場修行を経て、やがて広尾町下野塚に未墾地を購入して自ら開拓農民として入植した。

広大な北海道には、さまざまなタイプのたくさんの山があり、道内外の多くの画家が作品を描いているが、北海道の南半分を占める日高山脈を描く画家はほとんどいない。坂本は、日本で最も多く日高山脈を描いた画家といえる。山を描いた日本のさまざまな作家・作品と比較しながら、生涯、日高山脈と原野を愛し続けた坂本直行が描いた絵を紹介する。



(2) 第2回講演会「直行さんと歩々の会」

2016年11月20日（日）午後1時半～3時

講師：鮫島惇一郎氏 北大山の会

講演要旨：

明日、原野の家を離れて市街へ移るんだから泊まってゆけと直行さんが言う夜でした。農を捨て画業に専念するつもりだが、その傍らに素人画家集団を作ってみようかと思っていると云われるのです。「歩々の会」結成の糸口でありました。そして1962年の暮、第一回の展覧会を開催しました。会員は直行さんの人柄に魅了されながら、年に数回のスケッチハイク、冬にはスキー遠足などと自然を楽しむことができたのです。しかし、残念ながら1982年の春に他界されてしまいました。直行さんが亡くなっても引き続き歩々の会の会長は直行さんで、展覧会も2012年まで五十回続けましたが、それを最後に会を閉じました。直行さんと共にその過ぎ去った日々を辿ってみました。



(3) 第3回講演会 「龍馬と直行」

2016年11月27日（日）午後1時半～3時

講師：前田由紀枝氏 高知県立坂本龍馬記念館学芸課長

講演要旨：

龍馬と直行は同じ“坂本一族”のメンバー。つまり、北海道の人たちが親しんでいる農民画家チョッコウさんは、幕末の志士・坂本龍馬の子孫なのです。海援隊長・龍馬は北海道開拓を考えていましたが、暗殺により頓挫。代わるように120年前、直行の祖父・直寛が家族とともに土佐の高知から渡道してきました。坂本一族に流れる反骨精神。龍馬を語ることのなかった直行もまた、土佐の反骨“いごっそう”でした。二人の生涯をご紹介します。



13. 展示解説ツアー

(1) ツアー内容

2016年12月17日(土) 午後2時～3時

2016年12月21日(水) 午後2時～3時

ツアーガイド：中村晴彦 矢野実

坂本直行生誕110年記念企画展示

直行さんのスケッチブック展

Chokko's Sketch Books

後期：2016年12月6日(火) ▶ 2017年1月9日(月・祝)

展示解説 ツアー

第1回 12月17日(土)
第2回 12月21日(水)

会場：北海道大学総合博物館1階 企画展示室
時間：14:00～15:00
集合：1階カフェ周辺
解説者：北大山岳館

参加費無料・申込不要

12月6日(火)から後期展示を開始しました。
直行さんといえば、六花亭包装紙の「お花」を描いた画家としてお馴染みですが、今回のスケッチブック展では、開拓者であり登山家でもあった直行さんが愛した広大な原野と山々を描いたスケッチを中心にご紹介しています。
後期では更に、つる子夫人の肖像画、絵本の挿絵、直行さんの卒論(コピー)などなど、直行さんの代表作とはまた違った作品を展示しています。

また、後期は北大山岳館による展示解説ツアーも開催いたします。展示全体の構成はもちろんのこと、特に直行さんが描いた数々の山について、山のプロによる展示解説をお聞きください。

お問合せ | 〒060-0810
札幌市北区北10条西8丁目
TEL 011-706-2658

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

(2) 配布資料 1～4

資料1 ツアールートおよび展示物について

ブロックⅠ インTRODクシヨN

ご挨拶、直行さん経歴、著作初版本、画材

ブロックⅡ 中学～大学時代(13歳～20歳)

木版画 13点

詩誌「さとぼろ」創刊号、二中「旅行部 1925 追悼録」、二中旅行部部報「ヌタック」1号、2号

ブロックⅢ 十勝開拓時代 (21歳～53歳)

ピッケル、直行胸像、水彩「ツル夫人像」、関連冊子2冊

下野塚開拓地時代初期、日高山脈ほか10点(内4点複写)：

ブロックⅣ 豊似アトリエ時代 (54歳～58歳)

個展案内状2通

お宿帳4冊

日高山脈4点、劔岳4点、飯豊山3点、計11点(内5点複写)

歩々の会4点(内1点複写)、関連冊子3冊

ブロックⅤ 卒論、絵本コーナー (22歳、50歳、54歳)

絵本原画5点

北大農学実科卒業論文(複写)、福音館出版絵本2冊

ブロックⅥ 手稲アトリエ時代 (59歳～75歳)

札幌近郊4点(内2点複写)

ケース⑪～⑮ 海外スケッチ旅行 (61歳、66歳、67歳)

写真3点

ヒマラヤ12点(内2点複写)

カナディアンロッキー5点(内2点複写)

大雪山4点、十勝岳4点、羊蹄山3点、道東3点、札幌近郊3点、計17点(内6点複写)

ブロックⅦ 日高山脈パノラマ

豊似時代スケッチ12点(すべて複写)、カシミール画像、地形図

場外カフェブロック

草花5点、道内の山5点(いずれも複写)

展示数

木版画 13点

スケッチ 86点

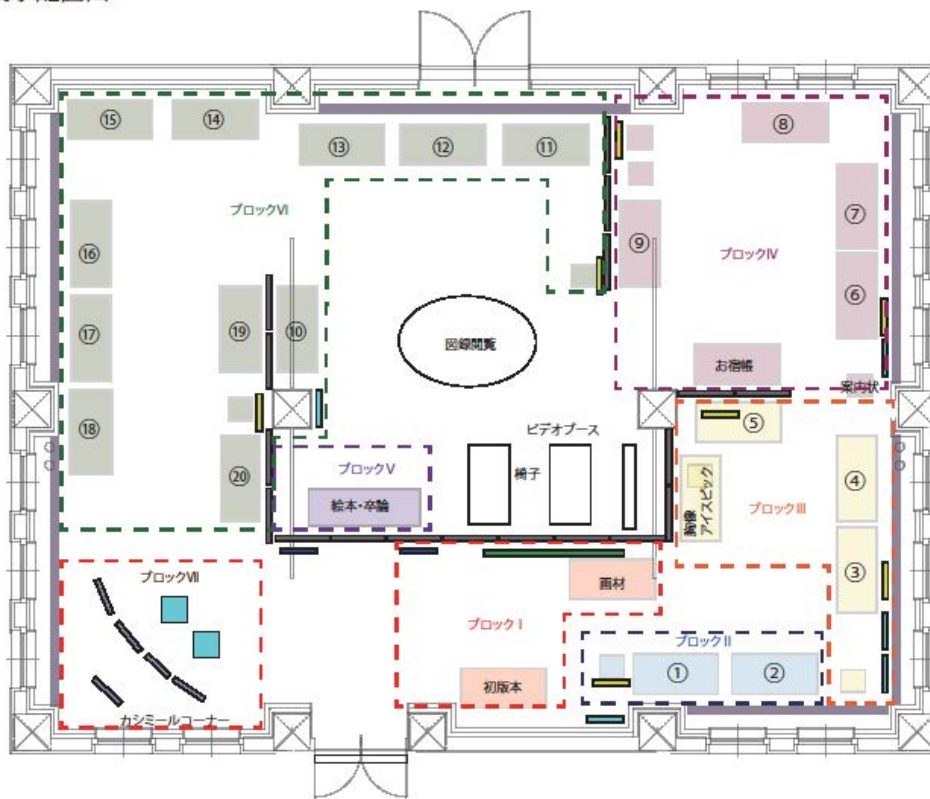
絵本原画 5点

資料 28点

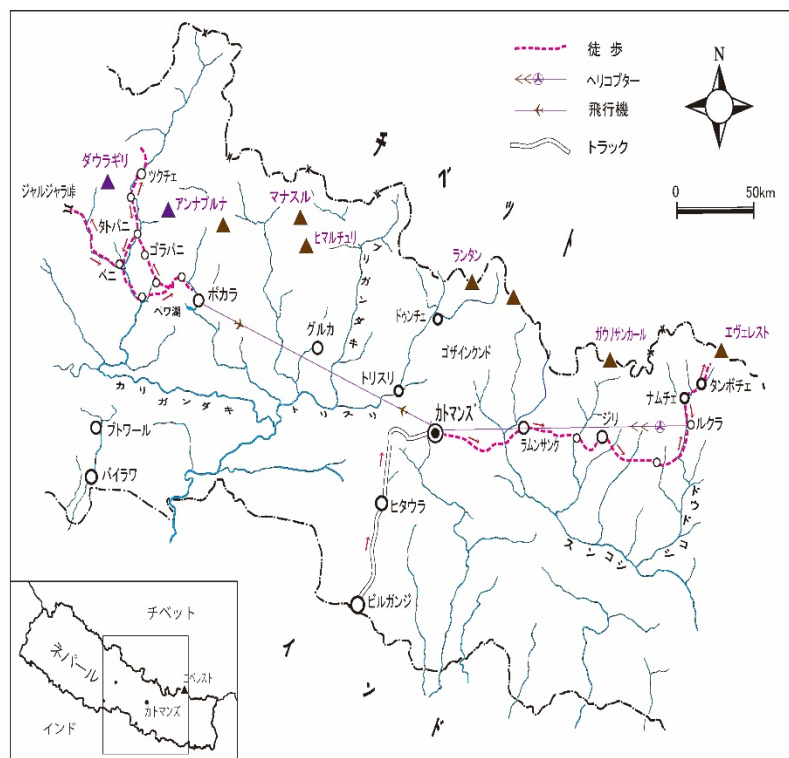
資料2 展示室配置図

坂本眞行生誕110年記念企画展示「眞行さんのスケッチブック展」展示解説ツアー

展示配置図



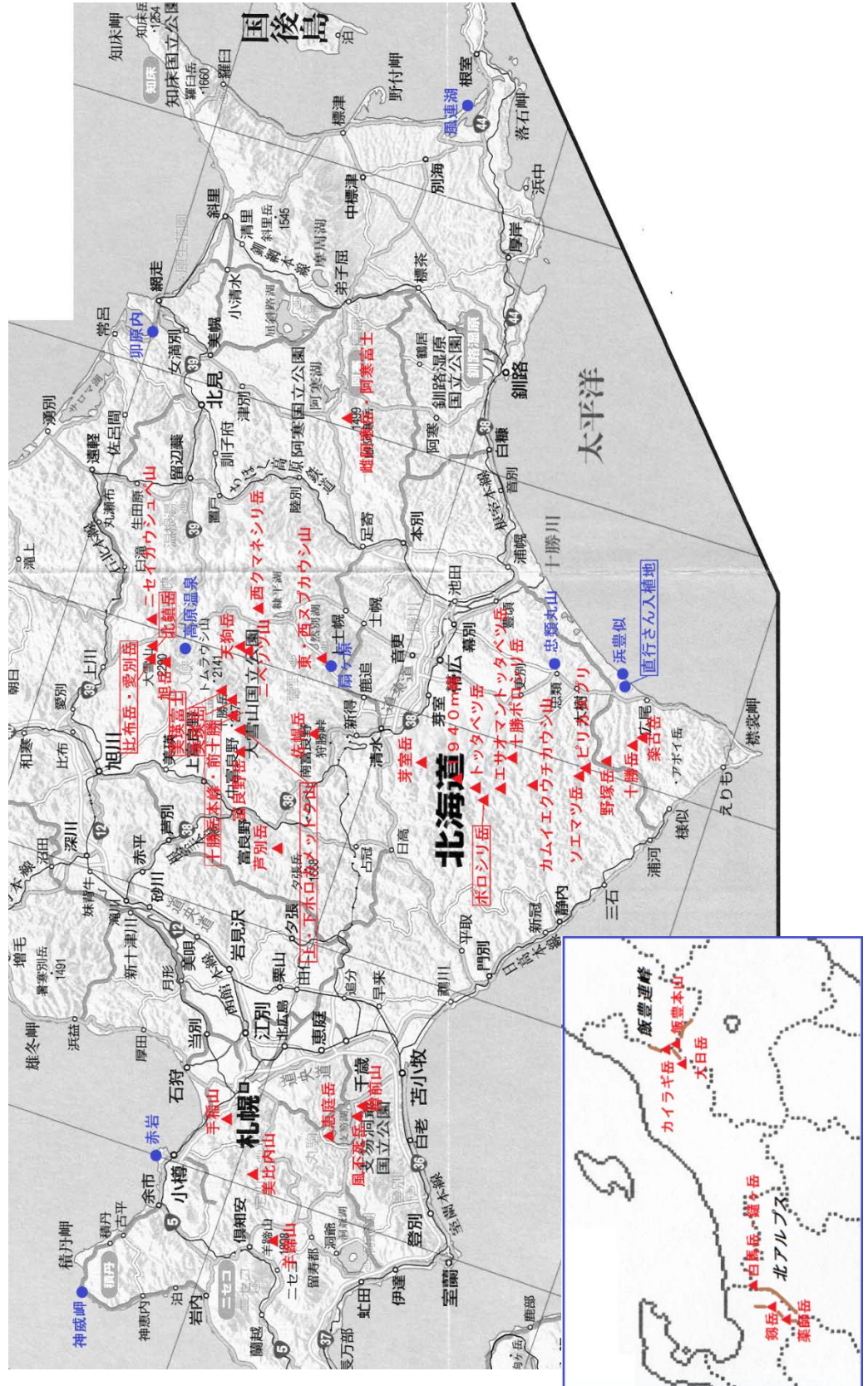
資料4. ヒマラヤルート図

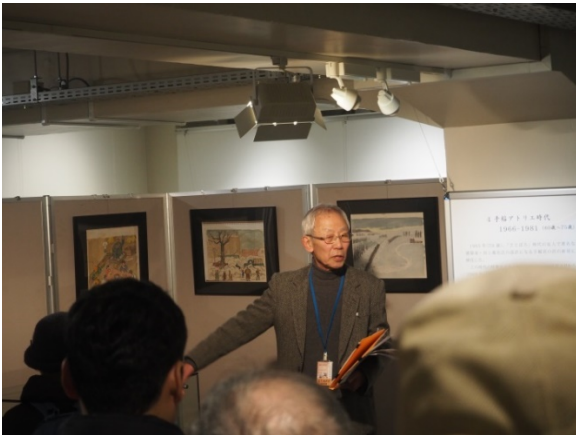


資料 3. 直行さんに描かれた山々

▲山名：描かれた山（□内は引き出し線で示した山名）

●地名：山以外のスケッチポイントや関連するところ





1.4. 来場者感想ノートより

感想ノートに来館者が記したコメントから一部を転写

11/10 AM 11:30頃
 新婚旅行で北海道に訪れ、
 たまたま北大にお邪魔しました。
 直行さんの壮大なスケッチと
 北大キャンパスの豊かさを自然には
 強いつながりを感じました。
 詩的だなあ〜。
 埼玉 紀・寛

H28.11.11
 北海道の山々の美しさを伝いました。
 北大山岳部 かっこいいです。
 信州大 かの

H28.11.11 AM 12:32ごろ
 農学部の学生です。巻の力強さに圧倒されました。私も坂本直行さんを追って
 北大スキー部に入りたいです。
 Go Go G G

11月19日
 直行さんの勢いのある絵に感銘を受けました。
 これで平論執筆頑張らねばです。
 中谷
 11月19日
 シンワイルドが力強い絵、すてきなと思いました。
 何故、直行さんと北大がつながりがあるのか今をわかりたいです。
 農学実科の卒業生だったのです。だから北大は直行さんの絵が大
 事にするのです。
 川口 尋之。

11月27日(日)
 北大里合宿舎OBのそのころ。帯広の坂本直行
 展の開催が20年(30年ほど前)、展覧の準備の
 としに、おそくそくおそく数年後には
 思いつく。開催の記念誌が、そのころ、そのころ
 大巻の中巻と揃って774頁と2冊
 感謝致しました。
 元一

11.29

直行さんの本1回の展覧会を若い頃見たのを覚えています。
それからずっとファンでした。母がステッカーの何枚かを
持っている。いつ見ても山の好きな人だけが
描ける山の美しさ、だと思えます。

草花もその特徴をとらえています。

今日はとても幸せな日でした。一生の~~絵~~画業と
仕事に感謝致しました。

Tadako Hogo

2016.11.22

釧路市から来ました。まうは講演会 清真がいたが
貴重なお話を聞けました。(雪の中再度お話を聞けました)
その後はお話の
後は祖母が今日お話を。勉強になりました。

昭和62年頃と思う。富良野に向かう普通列車の中で直行
さんにお会いした。真黒に陽焼して、がらりとした体格、農夫と
思わせる土の臭いと優しさを感した。ヒマラヤに登ってきたと
その感動を語ってくれた。

そのときの印象は、あたたかく、今も私の中に強く残っている。
直行さんの念のよけに、力強く、生き生きと生きてほしいと思う。

杜中野市 胡人 訪 亭

2016年12月4日

2016.11.26(土)

我が家の窓から日高山脈から見えます。

四季折りにかわっていく美しい山の姿を毎日見ていると坂本さんの

日高の山脈を愛した気持ちがとてもわかります。

山を愛した坂本直行さん。それに絵とともに生きて坂本直行さん。

私も、この北海道の地を愛して行きたいと思います。

今日は、ステッカー展を観る事が出来うれしかったです。

是非帰り作品等を購入したいと思います。一本本の返すまで

2016. 11. 30

今朝はとて寒い。夫が先に見て来て、よかったと聞き喜ばされた。
心あたらずに作品ばかり。当時南極着として入題した文の
海と空の 懐かしき挿絵送りました。 市内在住
ありがとうございました。

2016. 11. 30

旅行記の絵のファンです。
これも うれしくして。
二人 柄の にじみで絵。
期間中、何度か 館に来たいです。
企画を ありがとうございます。
(市内在住女性)

Date.

2016. 12. 8 大阪から来下着。

美術で見たことのあるものもあり、独学と上手い絵と
おぼろしくおぼろしく。

お、北海道に来た時は、ぜひ来てほしいです。

ありがとうございました。 Y. N

2016. 12. 8

大衆の森にあり直行して美術館で 初めに大衆の
ついでに 事を知り、友人同士に心を打たれた。
年一回は 申柳 村の大衆の森に行きたい。

星野道夫の 旅と村の中、坂本と文と読め
た。Yの生立方に深く心を打たれた。

私も かつ山しほで歩いて、* 切と(2。
坂本直行と人柄に 一つで通つたとい
思っています。

本日、北大の 博物館で スケッチ等を見て
感動です。 M K

坂本直行の3男の長女です。あまり直行じいさんについて
興味が湧いたのですが、この数年直行じいさん、マムは母さんの
ヒストリーが気になって、たずねてみました。チビッコ坂の父は
げ、こう書いているのかと知りました。また、直行じいさんの
血を自分もひいてるのだな、と思うこともありました。
後期もまた見に来ます。素直にはスケッチブック展を
ありがとうございます。

札幌市 吾家みどり

静岡から来ました。

昨日と今日... 又帰ります。

次回、又 北大山岳部 直行さんの

作品、スケッチブック 企画をお願いします。

絶対に札幌へ又来たと思ったい。

岩田はら 札幌育ち、奥井 薫史
金 夢 静岡。

12.21

解説を聞いただけで、深く味わうことが出来ました。

私も20年程山岳部を志し、絵を描きたかった。

坂本さんの備忘録に心より感心いたしました。

北大山岳部の人々の、今回の展示のご尽力に、

頭の中をかき混ぜました。ありがとうございます。

福岡 (クナ)

2016-12-22 (木)

北海道 伊達市から訪れました。

直行さんが 大正15年7月に 伊達紋別から描いた有珠山
(当時: 現在有珠山) の絵葉書の写しを持っています。

まだ北大山岳部が できる前かと思われませんが、当時有珠山
には、大有珠と どの間の口という特徴的な溶岩ドームがあり、
力強い線で描かれています。有珠山は、その後の1977-78年
の噴火、2000年の噴火と2回の噴火を経て、今では山の形が大きく
変わりました。

「スケッチブック」には、

1967-4-23 徳島磐山下よりの有珠山

であり、昔の有珠山の姿を懐しく見せていただきました。

池田 090-6799-6767

2016.12.27(火)

迷いのない線を描く女子山草花はその特徴を
一冊おに簡潔に表現されている。又、着色した山の
風景は、その神秘的な空気感が感じられて良かった。
最後のコーナーで、入植していた土地から、長く長く
連なる山々を毎日見て暮らしていたのなら、自然の
雄大さどこから感じる自分も自然の中の一生物として実感
していたのだろうと思われました。又、その山々を見る
感動が日々の生きる糧と成るであろうと思われます。
自然を感じる土壌と成る健やかなるは、実は、金=力
の最も大切な(肝いり)要素でありと思われました。
これも有難うございました。

南に藤野 本間直久

平成29年1月8日(日)

12月1日 一部を見て、又一部を見るのが出来た。
地元山行を続けるから ありがとう '又' 等
のふりかえり ありがとうございます。
40年前の「山本直行展」の開催時に一枚の絵を
書いてほしいと依頼されたこと どうかお忘れな
いで下さい。お礼の品は 直行のPLATEに何枚か
入っています。

その前 直行の山「嵐山天狗」の絵を 購入し 今も
大切に大切に 'うまき草' (日本名) と書いてあります
H E-711712

今も大切に大切に あります。 直行の山「うまき草」
同じ頃、山草を描いていた 仲間達と 現出し、
直行さんの天狗の絵と 銀紙の絵を 送らせてもらいます。

感謝！ 感謝！

今井由紀

1月8日

片岡珠子さんの企画展を見たら来ました。どちらも北海道
に縁のあるお二人ですが、北海道のそれだけではない
雄大な自然というのには、このように 3D的なスケッチにして
一層輝くように感じました。油彩とかと違って、ね
私も せっかく北海道へいるんだし、自由な学生のうちに
色々なところに行きたい！ 良いうちでね (4) 折角無料下
開放けあふたから、と大の大人に見たいという若さ16歳(石狩市)
だね

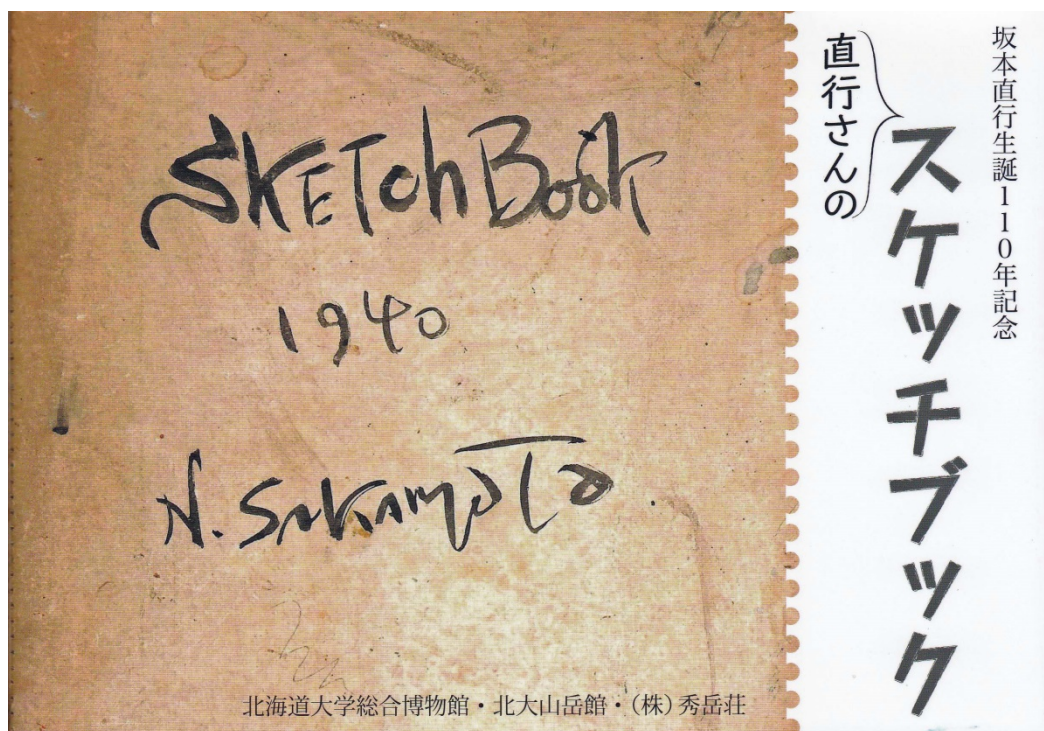
15.マスコミ取材（新聞・雑誌掲載、テレビ・ラジオ放送）

- 11月1日 博物館広報課より Press Release “坂本直行生誕110年企画展示「直行さんのスケッチブック展」開催について（お知らせ）
- 11月1日 北海道新聞 第4社会面
- 11月5日 HBCテレビ 夕方ニュース
- 11月5日 十勝毎日新聞 社会面
- 11月17日 FM ラジオ Air’G Sparkle Sparkler 14時20分～5分
- 11月18日 JCOM さっぽろ デイリーニュース 11時～23時
- 11月22日 北海道新聞 さっぽろ10区
- 12月9日 毎日新聞 道内面
- 12月17日 NHK ラジオ第1 おはようもぎたてラジオ便 7時50分～5分
- 12月27日 北海道新聞 夕刊 ぎやらりー
- 北海道ウォーカーweb サイト「ウォーカープラス」
- 北海道教育委員会生涯学習推進センター「道民カレッジ連携講座」
- 北海道大学「北大時報」12月号 お知らせ

16. 図録発行

印刷1000部

図録カバー



扉



序文

ごあいさつ

画家・坂本直行のスケッチブック136冊、木版画56点が坂本ツルさんより北大山岳館に寄贈されています。坂本直行は明治39年(1906年)7月26日、北海道釧路市に生まれました。本年が生誕110年にあたるのを記念し、北海道大学総合博物館において、坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック」展として、これらの遺品の一部を公開することになりました。本書は、その企画展示の図録です。

直行さんのスケッチブックに描かれている点数は2,500に及びます。生活の基盤をおいた地域により、直行さんの生涯を4つの時代に区分し、それぞれの時代を代表するスケッチを選定して掲載しました。自然にとけ込んで一体となった直行さんのスケッチをお楽しみください。

本図録は、北海道大学総合博物館・北大山岳館・(株)秀岳荘の協力のもと作製されました。

坂本直行生誕110年記念企画展実行委員会



1969年11月1日 にしきぎ 植苗にて

2

目次

目次

1. 札幌二中～北大農学実科時代
1919年(13歳)～1928年(22歳)…………… 4
2. 十勝原野開拓時代
1929年(23歳)～1959年(53歳)…………… 9
3. 豊似アトリエ時代
1960年(54歳)～1965年(59歳)…………… 19
4. 手稲アトリエ時代
1966年(60歳)～1981年(75歳)…………… 49



1927年3月20日 トムラウシ山頂上より五色ヶ原、
屏風岳の遠景 人物：坂本直行

3

奥付

坂本直行生誕110年記念
直行さんのスケッチブック

編集・発行 坂本直行生誕110年記念企画展実行委員会

発行所 北大山の会

〒060-0818 札幌市北区北18条西13丁目

北大サークル会館内 北大山岳館

☎ 090-6870-5120

印刷所 (株)アイワード

平成28年11月4日発行

17. 実行関係者

- (1) 主催 北海道大学総合博物館 北大山岳館
協力 株式会社 秀岳荘
後援 北海道新聞社 北海道教育委員会 札幌市・札幌市教育委員会 高知県立坂本龍馬記念館
- (2) 企画展示実行委員会
北海道大学総合博物館副館長・教授 大原昌弘
北海道大学総合博物館ボランティア・元教授 在田一則
北大山の会 中村晴彦
- (3) 北海道大学総合博物館
研究支援推進員 西本結美
高橋一葉
- (4) 北大山の会/北大山岳館
小泉章夫 石田隆雄 矢野実 柏原潔

<附>参考文献

「山」復刻版第6巻付巻「石原巖君のこと」初見一雄

「山」第3巻第7号「開墾地便り」坂本直行

「北の龍馬たち・坂本直行物語」朝日新聞 2011.2.3～3.2 植村隆

「反骨の農民画家坂本直行作品集『北の大地に生きて』」高知県立坂本龍馬記念館図録

2006年11月

「札幌・大正の青春」－雑誌「さとぼろ」をめぐって－ 札幌市教育委員会 昭和53年6月

「日高の風－孤高の山岳画家・坂本直行の生涯」滝本幸夫 2006年4月中札内美術村

「小ば金 冬青山房雑記」小林金三 新人物往来社 2005年6月

「山と絵と百姓と」坂本直行 雑誌「北海道の山」1960年3月～1961年10月 清水孔版社

「坂本直行スケッチ画集」1992年8月 ふたば書房

坂本家・才谷家系図 監修土井晴夫

坂本彌太郎の足跡をたどる 坂本龍馬記念館前田由紀枝 釧路新聞 9月4日

坂本龍馬と北海道 上下 前田由紀枝 高知県立坂本龍馬記念館学芸課長 北海道新聞 9月17日、
9月24日

坂本家のこと－“龍馬”をつないだ人々－ 高知県立坂本洋間記念館学芸課長 前田由紀枝

「遥かなるヒマラヤ」自伝と紀行 坂本直行 北海道出版企画センター 2011年7月

「開拓一家と動物たち」北の大地に素手で立ち向かった開拓家族の生活誌 坂本嵩朝文社 1996年
4月

「山に魅せられた画家たち」北海道立帯広美術館図録 2013年1月

「2人の登山家 坂本直行と一原有徳」道立帯広美術館主任学芸員 佐藤由美加 朝日新聞 2013
年2月5日

DVD「いごっそう開墾記－農民画家・坂本直行－」 NHK テレビ 1983年5月放映

直行著作

山・原野・牧場 1937年 竹村書房

開墾の記 1942年 長崎書店

原野から見た山 1957年 朋文堂

蝦夷糞尿譚 1962年 ふやら新書

私の草木漫筆 1964年 紫紅会

雪原の足あと 1965年 茗溪堂

わたしの草と木の絵本 1976年 茗溪堂

絵本「こどものとも」福音館書店 1956、1960年

歩々の会画展目録 第1回～第30回 1993年

歩々の会画展目録 第31回～第50回 2012年

北大山岳部部報 1号～7号

<附>写真集 展示場風景写真

(1) 前期展示

(2) 後期展示

前期展示場風景





16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58

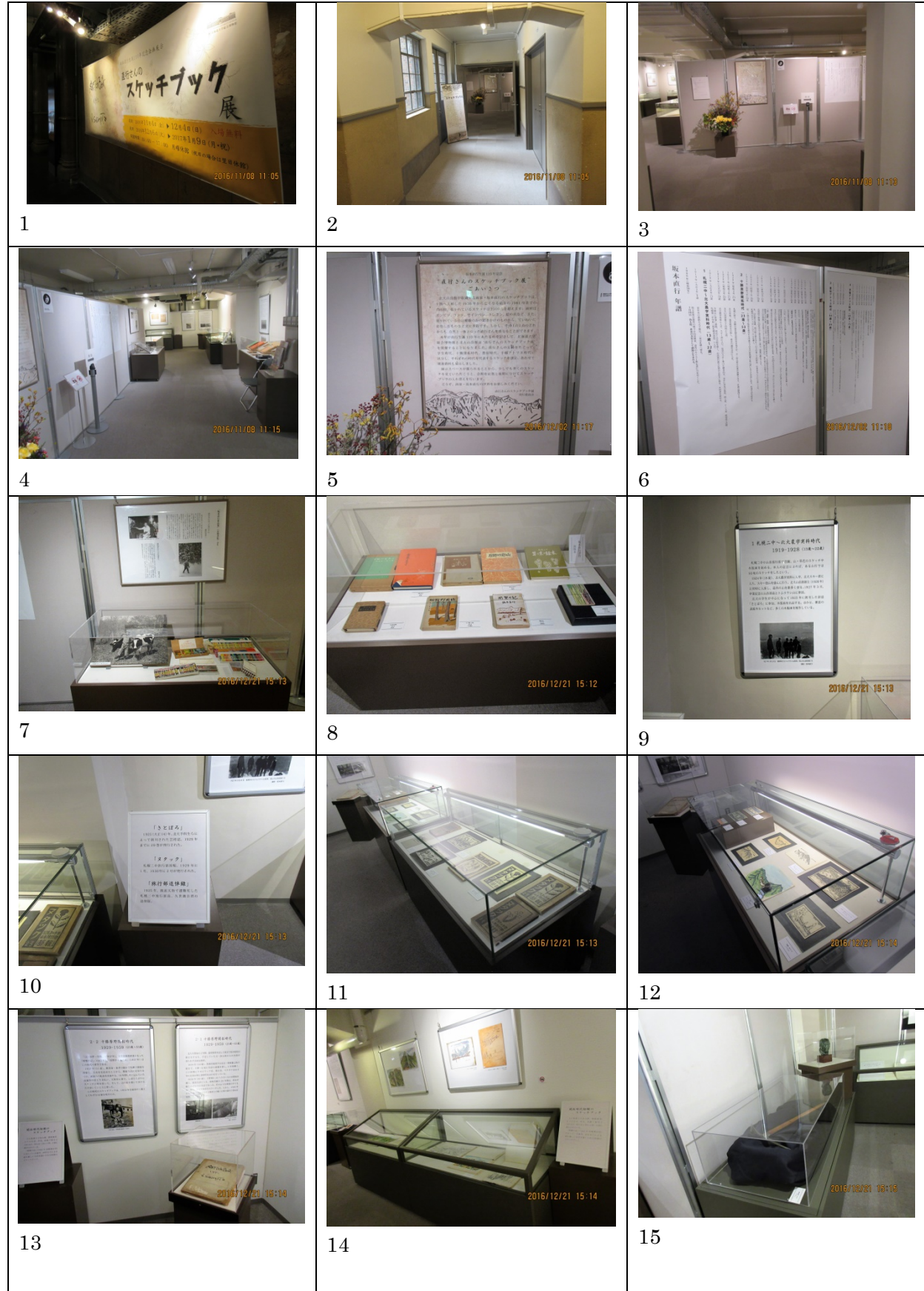


59



60

後期展示場風景





16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



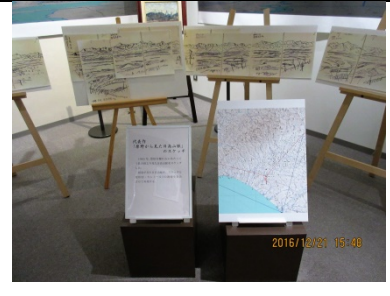
48



49



50



51



52



53



54

場外展示



カフェ



カフェ



カフェ



知の交差点



知の交差点



知の交差点